

NetBackup™ for Hyper-V 管理者ガイド

リリース 11.0.0.1

NetBackup™ for Hyper-V 管理者ガイド

最終更新日: 2025-10-24

法的通知と登録商標

Copyright © 2025 Cohesity, Inc. All rights reserved.

Cohesity, Veritas, Cohesity ロゴ、Veritas ロゴ、Veritas Alta, Cohesity Alta, NetBackup は、Cohesity, Inc. またはその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

この製品には、Cohesity 社がサードパーティへの帰属を示す必要があるサードパーティ製ソフトウェア（「サードパーティ製プログラム」）が含まれる場合があります。サードパーティプログラムの一部は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスで提供されます。本ソフトウェアに含まれる本使用許諾契約は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスでお客様が有する権利または義務を変更しないものとします。このCohesity製品に付属するサードパーティの法的通知文書は次の場所で入手できます。

<https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements>

本書に記載されている製品は、その使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバースエンジニアリングを制限するライセンスに基づいて頒布されます。Cohesity, Inc. からの書面による許可なく本書を複製することはできません。

本書は、現状のままで提供されるものであり、その商品性、特定目的への適合性、または不侵害の暗黙的な保証を含む、明示的あるいは暗黙的な条件、表明、および保証はすべて免責されるものとします。ただし、これらの免責が法的に無効であるとされる場合を除きます。Cohesity, Inc. およびその関連会社は、本書の提供、パフォーマンスまたは使用に関連する付随的または間接的損害に対して、一切責任を負わないものとします。本書に記載の情報は、予告なく変更される場合があります。

ライセンスソフトウェアおよび文書は、FAR 12.212 に定義される商用コンピュータソフトウェアと見なされ、Cohesityがオンプレミスまたはホスト型サービスとして提供するかを問わず、必要に応じて FAR 52.227-19「商用コンピュータソフトウェア - 制限される権利 (Commercial Computer Software - Restricted Rights)」、DFARS 227.7202「商用コンピュータソフトウェアおよび商用コンピュータソフトウェア文書 (Commercial Computer Software and Commercial Computer Software Documentation)」、およびそれらの後継の規制に定める制限される権利の対象となります。米国政府によるライセンス対象ソフトウェアおよび資料の使用、修正、複製のリリース、実演、表示または開示は、本使用許諾契約の条項に従ってのみ行われるものとします。

Cohesity, Inc.
2625 Augustine Drive
Santa Clara, CA 95054

<http://www.veritas.com>

テクニカルサポート

テクニカルサポートはグローバルにサポートセンターを管理しています。すべてのサポートサービスは、サポート契約と現在のエンタープライズテクニカルサポートポリシーに応じて提供されます。サ

ポート内容およびテクニカルサポートの利用方法に関する情報については、次の **Web** サイトにアクセスしてください。

<https://www.veritas.com/support>

次の URL で **Cohesity Account** の情報を管理できます。

<https://my.veritas.com>

現在のサポート契約についてご不明な点がある場合は、次に示すお住まいの地域のサポート契約管理チームに電子メールでお問い合わせください。

世界共通 (日本を除く)

CustomerCare@veritas.com

日本

CustomerCare_Japan@veritas.com

マニュアル

マニュアルの最新バージョンがあることを確認してください。各マニュアルには、2 ページ目に最終更新日が記載されています。最新のマニュアルは、**Cohesity** の **Web** サイトで入手できます。

<https://sort.veritas.com/documents>

マニュアルに対するご意見

お客様のご意見は弊社の財産です。改善点のご指摘やマニュアルの誤謬脱漏などの報告をお願いします。その際には、マニュアルのタイトル、バージョン、章タイトル、セクションタイトルも合わせてご報告ください。ご意見は次のアドレスに送信してください。

NB.docs@veritas.com

次の **Cohesity** コミュニティサイトでマニュアルの情報を参照したり、質問したりすることもできます。

<http://www.veritas.com/community/>

Cohesity Services and Operations Readiness Tools (SORT)

Cohesity SORT (Service and Operations Readiness Tools) は、特定の時間がかかる管理タスクを自動化および簡素化するための情報とツールを提供する **Web** サイトです。製品によって異なりますが、**SORT** はインストールとアップグレードの準備、データセンターにおけるリスクの識別、および運用効率の向上を支援します。**SORT** がお客様の製品に提供できるサービスとツールについては、次のデータシートを参照してください。

https://sort.veritas.com/data/support/SORT_Data_Sheet.pdf

目次

第 1 章	はじめに	9
	Hyper-V について	9
	NetBackup for Hyper-V の環境	10
	バックアップに関連する Hyper-V の用語	11
	Hyper-V 仮想マシンの NetBackup バックアップの基本的なフェーズ	12
	NetBackup 管理者の Hyper-V 関連タスク	14
	トラブルシューティングのクイックリファレンス	15
第 2 章	注意事項および前提条件	16
	NetBackup for Hyper-V の前提条件	16
	NetBackup for Hyper-V に関する注意事項および制限事項	17
	Hyper-V 仮想マシンの表示名に対する NetBackup の文字制限	20
	[VM バックアップからのファイルリカバリを有効にする (Enable file recovery from VM backup)]オプションを使用する場合の vhd または vhdx 名と VM パスの NetBackup 文字制限	21
	Linux 仮想マシンに関する注意事項	21
第 3 章	Hyper-V による NetBackup 通信の設定	23
	NetBackup Legacy Network Service ログオン (vnetd.exe) のドメインユーザーアカウントへの変更	23
	Hyper-V リソースの使用に関するグローバル制限の設定	25
第 4 章	Hyper-V 用 NetBackup ポリシーの設定	32
	Hyper-V ポリシーの作成	32
	[属性 (Attributes)]タブでポリシーごとのジョブ数を制限する (Hyper-V)	35
	VM がポリシーで手動で選択される場合は、仮想マシンのホスト名と表示名が一意である必要があります。	36
	バックアップ方式 (Hyper-V)	37
	最適化オプション (Hyper-V)	37
	プライマリ VM 識別子オプション (Hyper-V)	38
	非 VSS VM のオフラインバックアップの有効化 (VSS を使用した Hyper-V)	39

クラスタ共有ボリュームタイムアウト (VSS を使用した Hyper-V)	40
Hyper-V - 高度な属性	40
[プロバイダ形式 (Provider type)] 構成パラメータ (VSS)	41
[スナップショット属性 (Snapshot attribute)] 構成パラメータ (VSS)	41
.....	41
仮想ディスクの選択パラメータ (WMI)	42
[既存のスナップショット処理 (Existing snapshot handling)] パラメータ (WMI)	42
一貫性のレベルのパラメータ (WMI)	43
仮想ディスクの選択におけるディスクのエクスクルードオプションについて	44
.....	45
ブートディスクまたはデータディスクをエクスクルードしたバックアップからのデータのリストア	45
Hyper-V 仮想マシンの参照	46
代替クライアントによる仮想マシンのバックアップの前提条件 (VSS)	47
代替クライアントによる仮想マシンのバックアップの構成	47
仮想マシン内の NetBackup クライアントの要件	48

第 5 章

Hyper-V インテリジェントポリシーの設定	50
NetBackup の問い合わせ規則の基本原則	51
Hyper-V インテリジェントポリシーに関する重要な注意事項	52
Hyper-V インテリジェントポリシーのための NetBackup の必要条件	53
Hyper-V インテリジェントポリシーの設定: タスクの概要	53
Hyper-V 仮想マシンを選択するためのオプション	54
仮想マシンの自動選択の Hyper-V ポリシーの作成	56
問い合わせビルダーの詳細モードでの使用	58
問い合わせの AND と OR	59
NetBackup 問い合わせビルダーの例	59
問い合わせの IsSet 演算子	61
改行文字を含む仮想マシンのメモの問い合わせ規則	62
問い合わせビルダーのフィールドの参照	63
Hyper-V の [問い合わせのテスト (Test query)] 画面	69

第 6 章

NetBackup Hyper-V for SCVMM	71
SCVMM 環境での仮想マシンのバックアップについて	71
SCVMM を導入した NetBackup for Hyper-V の注意事項	73
ローカライズされた SCVMM 環境の VM をバックアップする問い合わせの作成	74

第 7 章	Windows Server フェールオーバークラスタのサ ポート	75
	Windows フェールオーバークラスタ上の仮想マシンについて	75
	CSV のバックアップとリストアに関する注意	76
	クラスタの仮想マシンのポリシーの作成	77
	リストアされた仮想マシンのクラスタ内での場所	78
	リストア後の仮想マシンの保守	79
	リストア時のクラスタリソースの削除	80
第 8 章	Hyper-V のバックアップとリストア	81
	Hyper-V 仮想マシンのバックアップ	81
	WMI バックアップ方式: リストアの前後における仮想マシンの状態	82
	個々のファイルのリストアに関する注意事項	82
	仮想マシン全体のリストアに関する注意事項	85
		86
	NetBackup クライアントが存在するホストへの個々の Hyper-V ファイルの リストア	87
	Hyper-V の個々のファイルについてのリストアオプション	90
	仮想マシンの共有場所への個々の Hyper-V ファイルのリストア	91
	仮想マシン上の共有場所に Hyper-V をリストアするための NetBackup Client Service の設定	92
	Hyper-V 仮想マシン全体のリストア	93
	リストアオプション	97
	共通ファイルのリストアについて	101
	ファイルをリストアする Hyper-V VM ファイルを参照するときに BAR イン ターフェースに Hyper-V スナップショットファイルがリストされる場合が ある	102
第 9 章	アクセラレータを使用した Hyper-V のバックアップ	105
	仮想マシンの NetBackup Accelerator について	105
	アクセラレータ: 完全スケジュールと増分スケジュール	106
	NetBackup アクセラレータが仮想マシンとどのように連携して働くか	106
	Accelerator 仮想マシンの注意および要件	107
	仮想マシンのアクセラレータ強制再スキャン (スケジュールの属性)	108
	アクセラレータには OptimizedImage 属性が必要	108
	アクセラレータバックアップおよび NetBackup カタログ	109
	バックアップジョブ詳細ログのアクセラレータメッセージ	109
	仮想マシンでのアクセラレータの NetBackup ログ	110
	ネットワークを介して転送されたアクセラレータバックアップのデータ量の報 告について	111

	NetBackup コマンド出力でのネットワーク転送されたデータとのアクセラ レータのイメージサイズの置換	113
第 10 章	推奨する実施例および詳細情報	117
	ベストプラクティス	117
第 11 章	トラブルシューティング	119
	NetBackup for Hyper-V のログとその作成方法	120
	VxFl ログの有効化	121
		122
	VxMS core.log と provider.log のファイル名形式	123
	ポリシーの作成中のエラー	124
	NetBackup ポリシーの検証が失敗する	124
	Hyper-V に関連する NetBackup の状態コード	125
	スナップショットエラーの発生 (状態コード 156)	128
	複数の仮想マシンのバックアップジョブがハングアップする	130
	Windows NTFS シャドウストレージの表示またはサイズ調整	130
	Hyper-V 統合コンポーネントがインストールされていない	131
	LDM ボリュームと状態コード 1	131
	Hyper-V スナップショット (avhd または avhdx ファイル) と状態コード 1	132
	同じ CSV に存在する仮想マシンをバックアップする場合、Windows の警 告 1584 は無視できる	132
	代替クライアントによるバックアップの問題	132
	リストアした仮想マシンの起動に失敗する	133
	リストアされた仮想マシンの再起動に関する問題: why did the computer shut down unexpectedly?	134
	個々のファイルのリストアの問題	135
		136
	WMI 方式を使ったバックアップ中に VM にユーザーチェックポイントが存 在する場合、リストア後に VM の仮想ディスク設定を変更できない	138
	WMI のディスク作成のタイムアウト値の増加	139
	Linux VM と永続的なデバイス名前	139
付録 A	VSS バックアップ方式: Hyper-V のオンラインおよ びオフラインバックアップ	141
	VSS 用の Hyper-V のオンラインおよびオフラインバックアップについて	141
	VSS のオンラインバックアップかオフラインバックアップかを判断する条件	142

VSS を使用したオフラインバックアップに関する追加注記 143

Hyper-V 2012 R2 仮想マシンはリストア時[オフ (Off)]状態になる場合がある 144

付録 B

Hyper-V パススルーディスク 145

NetBackup での Hyper-V パススルーディスクについて 145

パススルーディスクのバックアップの構成 146

Hyper-V パススルーディスクのバックアップの要件 146

Hyper-V パススルーディスクの制限事項 147

Hyper-V パススルーディスクのローカルスナップショットバックアップの構成 147

パススルーディスクの代替クライアントによるバックアップについて 149

Hyper-V パススルーディスクの代替クライアントによるバックアップの構成 149

VSS およびディスクアレイに関する重要な注意事項 151

はじめに

この章では以下の項目について説明しています。

- [Hyper-V](#) について
- [NetBackup for Hyper-V](#) の環境
- バックアップに関連する [Hyper-V](#) の用語
- [Hyper-V](#) 仮想マシンの [NetBackup](#) バックアップの基本的なフェーズ
- [NetBackup](#) 管理者の [Hyper-V](#) 関連タスク
- [トラブルシューティングのクイックリファレンス](#)

Hyper-V について

[NetBackup for Hyper-V](#) では、[Hyper-V Server](#) で動作する仮想マシンのスナップショットベースのバックアップを提供します。サポート対象の [Hyper-V Server](#) のリストについては、「[NetBackup](#) のすべてのバージョンの[互換性リスト](#)」[NetBackup](#)を参照してください。

[NetBackup for Hyper-V](#) の主な機能は次のとおりです。

- [NetBackup for Hyper-V](#) は、スナップショットテクノロジーを使用して、ユーザーが仮想マシンをいつでも使用できるようにします。[NetBackup for Hyper-V](#) は、ボリュームシャドウコピーサービス (VSS) と Windows Management Instrumentation (WMI) を使用して静止 Windows スナップショットを作成します。
- [NetBackup for Hyper-V](#) は、仮想マシンの完全バックアップとファイルレベルの増分バックアップを実行します。WMI のバックアップ方式では、ブロックレベル増分バックアップとアクセラレータバックアップも実行されます。
- 次のソースから仮想マシン全体をリストアできます。
 - VM の完全バックアップ
 - VM のブロックレベル増分バックアップ

- VM のアクセラレータバックアップ
- 次のソースから仮想マシンの個々のファイルをリストアできます。
 - VM の完全バックアップ
 - VM のファイルレベルの増分バックアップ
 - VM のブロックレベル増分バックアップ
 - VM のアクセラレータバックアップ
- 元の仮想マシン、Hyper-V Server のその他の場所、または別の Hyper-V Server にリストアできる。

NetBackup for Hyper-V の環境

次の表では、NetBackup で Hyper-V 仮想マシンのバックアップおよびリストアに必要なコンポーネントについて説明します。

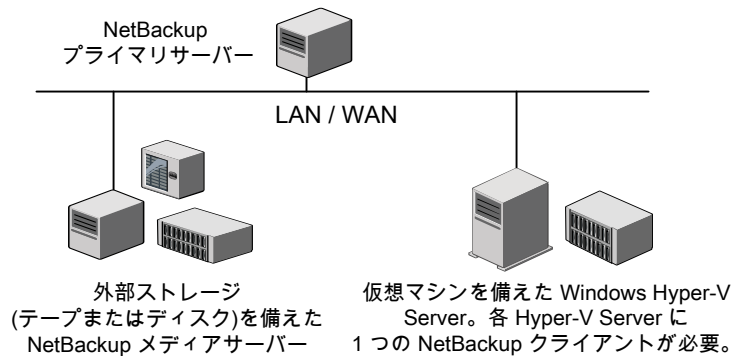
表 1-1 NetBackup for Hyper-V に必要なコンポーネント

コンポーネント	説明および要件
NetBackup プライマリサーバー	バックアップポリシーを実行し、バックアップおよびリストアを開始します。
NetBackup メディアサーバー	バックアップデータの読み込みと書き込み、および NetBackup ストレージメディアの管理を行います。NetBackup メディアサーバーは、Hyper-V ホストまたは別のホストにインストールできます。より効率的にバックアップするには、Hyper-V Server に NetBackup メディアサーバーをインストールします。
NetBackup クライアント (および任意の代替クライアント)	バックアップおよびリストアの要求を処理します。 NetBackup クライアントは、Hyper-V ホストにインストールする必要があります。 ポリシーの [クライアント (Clients)] タブで [サーバーの種類 (Server type)] が [System Center Virtual Machine Manager] の場合、SCVMM サーバーに NetBackup クライアントもインストールする必要があります。 メモ: ほとんどの場合、クライアントが仮想マシンにインストールされている必要はありません。例外については、次のトピックを参照してください。 p.48 の「仮想マシン内の NetBackup クライアントの要件」を参照してください。 p.47 の「代替クライアントによる仮想マシンのバックアップの前提条件 (VSS)」を参照してください。 p.86 の「」を参照してください。

コンポーネント	説明および要件
Hyper-V Server	Windows のハイパーバイザ仮想化システムです。Windows Server のホストコンピュータで動作する、仮想マシンゲストを作成します。 追加要件が適用される場合があります。Microsoft 社の Hyper-V のマニュアルを参照してください。
Hyper-V 統合サービス (統合コンポーネント)	Hyper-V Server と仮想マシンを統合します。 メモ: Hyper-V バックアップ統合サービスが有効になっている必要があります。

次の図に、NetBackup for Hyper-V の環境を示します。

図 1-1 NetBackup for Hyper-V のバックアップ環境



バックアップに関連する Hyper-V の用語

次の表では、バックアップに関連する Hyper-V の用語を説明します。

表 1-2 バックアップに関連する Hyper-V の用語

用語	説明
avhd、avhdx ファイル	Windows Hyper-V により作成されたスナップショットファイルであり、仮想マシンの特定の時点へのリカバリ用です。 p.12 の「 Hyper-V 仮想マシンの NetBackup バックアップの基本的なフェーズ 」を参照してください。

用語	説明
共通の vhd、vhdx ファイル	複数の仮想マシンに必要なファイルを含む仮想ディスク (vhd または vhdx ファイル)。同じ vhd または vhdx ファイルのコピーを複数の場所に存在させる代わりに、複数の仮想マシンで単一の vhd または vhdx ファイル (親) を共有します。 p.101 の「 共通ファイルのリストアについて 」を参照してください。
CSV	フェールオーバークラスタ内のクラスタ共有ボリューム。CSV について詳しくは、Microsoft 社のマニュアルを参照してください。
差分ディスク	差分ディスクは、親ディスクに対して子の関係になります (「共通の vhd、vhdx ファイル」を参照)。親および子の仮想ディスクは、同じ物理ドライブ上または異なる物理ドライブ上に存在します。この機能によって、仮想マシン間で共通ファイルを共有することができます。
Windows Server フェールオーバークラスタ	Windows Server フェールオーバークラスタ (WSFC)。
HA (高可用性)	クラスタ内で構成された仮想マシンを表します。仮想マシンの Hyper-V ホストが停止すると、仮想マシンはクラスタ内の別の Hyper-V ホストに自動的に移動されます。ユーザーは仮想マシンの停止時間をほとんど感じません。詳しくは Microsoft 社のマニュアルを参照してください。
パススルーディスク	Hyper-V Server がアクセスできるディスク。Hyper-V Server にローカル接続されるか、SAN 上にあります。パススルーディスクは仮想マシンに接続されますが、ディスクは vhd や vhdx 形式ではありません。
vhd、vhdx ファイル	Windows Hyper-V インストールのファイルであり、ハードディスクの仮想化された内容を含みます。vhd または vhdx ファイルには、仮想オペレーティングシステム全体およびそのプログラムを含めることができます。Hyper-V では、容量固定、容量可変、差分など複数の種類のファイルがサポートされます。 詳しくは Microsoft 社の Hyper-V のマニュアルを参照してください。
仮想マシン構成ファイル: xml、bin、vsv、vmcx、vmrs	NetBackup では、仮想マシンの完全バックアップの一部としてこれらのファイルのバックアップが行われます。 bin ファイルと vsv ファイルは仮想マシンの実行時にのみ表示されます。 vmcx ファイルと vmrs ファイルは、5 より新しい VM 構成バージョン (Hyper-V 2016) 向けです。
仮想マシンの GUID	仮想マシンのグローバル識別子です。 SCVMM 環境では、VM GUID は VM ID として参照されます。

Hyper-V 仮想マシンの NetBackup バックアップの基本的なフェーズ

次の表は、VSS および WMI の 2 つの Hyper-V バックアップ方式での、NetBackup のバックアップ処理のフェーズを示します。

表 1-3

VSS バックアップ方式: NetBackup for Hyper-V バックアップのフェーズ

フェーズ	説明
フェーズ 1	NetBackup プライマリサーバーがバックアップを開始します。
フェーズ 2	Hyper-V ホストの NetBackup クライアントがスナップショットを開始します。
フェーズ 3	Windows 2012 ホストの場合: VSS Hyper-V ライターが Windows 仮想マシンを静止し (データを一貫した状態にする)、ホストのボリューム上にスナップショットを作成します。Hyper-V ライターが仮想マシンを静止できない場合、その仮想マシンはスナップショットが作成されるまで[保存済み (Saved)]状態になります。 Windows ホストの場合: Hyper-V ライターが Windows 仮想マシンを静止し、ホストボリューム上に .avhd または .avhdx スナップショットを作成します。
フェーズ 4	Windows 2012 ホストの場合: 仮想マシンが[保存済み (Saved)]状態になっている場合、その仮想マシンは Hyper-V によって元の状態に戻されます。
フェーズ 5	Hyper-V ホスト上の NetBackup クライアントが仮想マシンのスナップショットからデータを読み込み、メディアサーバーに転送します。メディアサーバーは NetBackup ストレージユニットにデータを書き込みます。
フェーズ 6	Hyper-V ホスト上の NetBackup クライアントが、ホストのボリュームのスナップショットを削除します。

表 1-4

WMI バックアップ方式: NetBackup for Hyper-V バックアップのフェーズ

フェーズ	説明
フェーズ 1	NetBackup プライマリサーバーがバックアップを開始します。
フェーズ 2	Hyper-V ホストの NetBackup クライアントが仮想マシンのスナップショット (チェックポイント) を開始します。

フェーズ	説明
フェーズ 3	Windows 2016 以降のホスト: Hyper-V ホストの NetBackup クライアントが仮想マシンのスナップショット (チェックポイント) を作成します。 ■ Hyper-V ポリシーの[一貫性のレベル (Consistency level)]オプションが[アプリケーションの整合性 (Application consistent)]または[アプリケーションの整合性、次にクラッシュ整合 (Application consistent then crash consistent)]に設定される場合、ゲスト OS 内の VSS 統合サービスコンポーネントが仮想マシンの静止を試みます。 ■ Hyper-V ポリシーの[一貫性レベル (Consistency level)]オプションが[クラッシュ整合 (Crash consistent)]に設定されている場合、仮想マシンは静止されません。 バックアップでブロックレベルの増分バックアップ (BLIB) を使用する場合は、スナップショットが参照ポイントに変換されます。Resilient Change Tracking (RCT) は、バックアップ間で変更されたブロックのみを移動する、より高速な仮想マシンのバックアップを実行するために使われます。 仮想マシンのスナップショット (チェックポイント) の結果として、その仮想マシン用に .avhd または .avhdx ファイルが作成されます。仮想マシンから実行されるそれ以降のすべての書き込みは、これらのファイルに移動します。 メモ: [一貫性レベル (Consistency level)]オプションは、[詳細 (Advanced)]にある、ポリシーの[Hyper-V]タブで設定します。
フェーズ 4	NetBackup クライアントは、Hyper-V ホスト上の仮想マシンファイルからデータを直接読み取り、そのデータをメディアサーバーに転送します。メディアサーバーはストレージユニットにデータを書き込みます。
フェーズ 5	Hyper-V ホストの NetBackup クライアントが仮想マシンのスナップショット (チェックポイント) を削除します。その結果、バックアップ中に作成された .avhd または .avhdx ファイルは、元の仮想マシンのディスクにマージして戻されます。

NetBackup 管理者の Hyper-V 関連タスク

NetBackup 管理者の作業は次のとおりです。

- NetBackup プライマリサーバーとメディアサーバーをインストールします。
ライセンスの情報については、営業部門またはパートナー企業ご相談窓口までお問い合わせください。
『NetBackup インストールガイド』を参照してください。
- 各 Hyper-V Server に NetBackup クライアントをインストールします。各 Hyper-V Server には NetBackup クライアントが 1 つのみ必要です。リストアのオプションとして、クライアントが仮想マシンにインストールされる場合があります。
p.86 の「」を参照してください。
- Microsoft System Center Virtual Machine Manager (SCVMM) で VM をバックアップするには、SCVMM サーバーに NetBackup クライアントをインストールします。
p.71 の「SCVMM 環境での仮想マシンのバックアップについて」を参照してください。

- クライアントのサーバーリストに **NetBackup** プライマリサーバーの名前を追加します。
NetBackup のバックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースで、[ファイル (File)]>[**NetBackup** マシンおよびポリシー形式の指定 (Specify **NetBackup** Machines and Policy Type)]をクリックします。[バックアップおよびリストアに使用するサーバー (Server to use for backups and restores)]リストにプライマリサーバーを追加します。
- **NetBackup for Hyper-V** に関する注意事項を確認します。
p.17 の「**NetBackup for Hyper-V** に関する注意事項および制限事項」を参照してください。
p.85 の「仮想マシン全体のリストアに関する注意事項」を参照してください。
p.82 の「個々のファイルのリストアに関する注意事項」を参照してください。
- ベストプラクティスを確認します。
p.117 の「ベストプラクティス」を参照してください。
- **Hyper-V** の **NetBackup** ポリシーを作成します。
p.32 の「**Hyper-V** ポリシーの作成」を参照してください。
p.56 の「仮想マシンの自動選択の **Hyper-V** ポリシーの作成」を参照してください。
- **Hyper-V** バックアップを実行します。
p.81 の「**Hyper-V** 仮想マシンのバックアップ」を参照してください。
- リストアを実行します。
p.86 の「」を参照してください。
p.93 の「**Hyper-V** 仮想マシン全体のリストア」を参照してください。
- 構成のトラブルシューティングを行う方法
トラブルシューティングの章を参照してください。

トラブルシューティングのクイックリファレンス

トラブルシューティングの情報およびヒントについては、次の項を参照してください。

- p.125 の「**Hyper-V** に関連する **NetBackup** の状態コード」を参照してください。
- p.120 の「**NetBackup for Hyper-V** のログとその作成方法」を参照してください。

注意事項および前提条件

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup for Hyper-V の前提条件](#)
- [NetBackup for Hyper-V に関する注意事項および制限事項](#)
- [Hyper-V 仮想マシンの表示名に対する NetBackup の文字制限](#)
- [\[VM バックアップからのファイルリカバリを有効にする \(Enable file recovery from VM backup\)\]オプションを使用する場合の vhd または vhdx 名と VM パスの NetBackup 文字制限](#)
- [Linux 仮想マシンに関する注意事項](#)

NetBackup for Hyper-V の前提条件

NetBackup for Hyper-V に適用される前提条件は次のとおりです。

- サポート対象の **Hyper-V Server** のリストについては、「[NetBackup のすべてのバージョンの互換性リスト](#)」を参照してください。
- 仮想マシンのバックアップを開始する前に、**NetBackup** プライマリサーバーおよびメディアサーバーが **Hyper-V Server** と通信できることを確認します。**NetBackup** クライアントと代替クライアント(任意)のサーバーリストに、プライマリサーバーの名前を追加します。
- **C:** などのボリュームの **Windows** シャドウストレージは、仮想マシンの同じボリューム上に構成する必要はありません。たとえば、**C:¥** ボリュームのシャドウストレージを **D:¥** 上に構成できます。
Windows シャドウストレージは、**Windows** ボリュームシャドウコピーサービス (VSS) によって特定の時点のスナップショットを作成する場合に必要です。

NetBackup for Hyper-V に関する注意事項および制限事項

NetBackup for Hyper-V に適用される注意事項と制限事項は次のとおりです。

- ディスクアレイを使用する VSS の場合:
ハードウェアアレイのスナップショットを使用する場合は、Hyper-V ライターを含むスナップショットがハードウェアアレイの VSS プロバイダによってサポートされていることを確認します。アレイベンダーまたは VSS プロバイダのリリースノートを参照してください。
- NetBackup for Hyper-V では、NetBackup のインスタントリカバリ機能はサポートされていません。
- Microsoft 社の制限事項により、NetBackup for Hyper-V は、複数の仮想マシン間で共有される vhd x ファイルの VSS または WMI 方式のバックアップとリストアをサポートしません。
- SAN クライアント機能で Hyper-V のバックアップを実行するには、Hyper-V Server に SAN クライアントをインストールします。仮想マシンに SAN クライアントをインストールしないでください。SAN クライアントと Hyper-V について詳しくは、『NetBackup™ SAN クライアントおよびファイバートランスポートガイド』を参照してください。

メモ: Hyper-V の SAN クライアント機能は、(WMI ではなく) VSS バックアップ方式に対してのみサポートされます。

- Microsoft 社の制限事項により、仮想マシンの仮想ディスクのファイルが圧縮されているボリュームまたはフォルダに存在する場合は、NetBackup は仮想マシンのスナップショットを作成するために WMI バックアップ方式を使用することはできません。スナップショットのジョブが、状態 156「スナップショットエラーが発生しました (Snapshot error encountered)」で失敗します。
回避方法として、仮想ディスクが存在するボリュームまたはフォルダから圧縮を取り除いて、バックアップを再実行します。
- NetBackup for Hyper-V はバックアップとリストアで Windows NTFS 暗号化と圧縮をサポートしています。ただし、NetBackup の圧縮または暗号化オプション (NetBackup のポリシー属性にある) はサポートしていません。
UNIX または Linux のゲストオペレーティングシステムについて: NetBackup for Hyper-V は、NetBackup で設定されたかゲスト OS で設定されたかにかかわらず、いかなる種類の圧縮または暗号化もサポートしていません。

メモ: 圧縮された Windows NTFS ファイルは圧縮ファイルとしてバックアップおよびリストアされます。

- ポリシーが手動選択からインテリジェントポリシーに変更された場合 (またはその逆の場合) は、VM のバックアップがすでに存在しても、その VM の次のバックアップは通常の完全バックアップになります。

次に例を示します。

- 新しい Hyper-V ポリシーで、VM の選択に、[クライアント (Clients)] タブの [手動で選択 (Select manually)] オプションを使用します。ポリシーの最初のバックアップが実行されます。
- プライマリ VM 識別子がホスト名の場合は、保護対象 VM の FQDN を使用して Microsoft フェールオーバークラスターを構成していることを確認します。
- ポリシーで、インテリジェントポリシーの問い合わせを使用して同じ VM を選択し、2 回目の VM のバックアップが実行されます。手動選択から問い合わせベースの選択に切り替えられたため、この 2 回目のバックアップは通常の完全バックアップです。[Block Level Incremental バックアップを有効にする (Enable block-level incremental backup)] (BLIB) または BLIB とアクセラレータを使用するポリシーでは、バックアップ処理は変更されたブロックだけに限られるものではないことに注意してください。

2 回目のバックアップの状態の詳細ログには、次のようなメッセージが含まれます。

```
Sep 29, 2016 11:16:53 AM - Info bpbrm (pid=13680) There is no
complete backup image match with track journal, a regular full
backup will be performed.
```

ポリシーの VM 選択が問い合わせベースから手動選択に切り替えられた場合は、同じバックアップ動作が発生し、2 回目のバックアップは通常の完全バックアップになります。

- [Block Level Incremental バックアップを有効にする (Enable block-level incremental backup)] オプションを (アクセラレータの有無にかかわらず) 指定した WMI バックアップ方式では、VM に同じディスク UUID を持つ複数の仮想ディスクがある場合に、NetBackup はそれらのディスクの完全バックアップを実行します。増分バックアップは実行しません。一意の ID を持つディスクは、想定どおりに増分バックアップが行われます。アクティビティモニターでは、ジョブの詳細に次のようなメッセージが含まれます。

```
The virtual machine (Name: testVM, GUID: 98321741-A936-4128-8AB0-07099B23E25C) uses
multiple disks with the same disk Id.
Disk Id: 7198C033-AB5D-4585-905D-0DA68D26F9C5 Disk path: E:\VMs\testVM\testVM1.vhdx
Disk Id: 7198C033-AB5D-4585-905D-0DA68D26F9C5 Disk path: E:\VMs\testVM\testVM2.vhdx
You may lose optimization during the backups for the above listed disks.
```

これらの仮想ディスクの増分バックアップを実行するには、各ディスクに一意の ID を割り当てます。たとえば、次のように testVM1 のディスク ID をリセットするために Set-VHD PowerShell cmdlet を使用できます。

```
Set-VHD -Path E:\VMs\testVM\testVM1.vhdx -ResetDiskIdentifier
```

差分ディスクの場合は、ディスクチェーンを再作成するために追加のコマンドを実行する必要があります。Set-VHD コマンドレットについて詳しくは、次の Microsoft TechNet の記事を参照してください。

<https://technet.microsoft.com/ja-jp/library/hh848561.aspx>

- アクセラレータに関する追加の注意事項があります。
p.107 の「[Accelerator 仮想マシンの注意および要件](#)」を参照してください。
- Microsoft 社の制限事項により、NetBackup for Hyper-V は、暗号化された vhd または vhdx ファイルのバックアップをサポートしません。
- この制限事項は、Microsoft 社の制限事項によるものです。この注記事項は VSS バックアップ方式のみに適用されます。FAT または FAT32 ファイルシステムを使用する仮想マシンの場合、NetBackup では Hyper-V のオフラインバックアップのみがサポートされます。
p.141 の「[VSS 用の Hyper-V のオンラインおよびオフラインバックアップについて](#)」を参照してください。
- WMI バックアップ方式 (Hyper-V Server 2016 以降向け) では、オンラインとオフラインのバックアップを採用していません。
p.82 の「[WMI バックアップ方式: リストアの前後における仮想マシンの状態](#)」を参照してください。
- VSS バックアップ方式の場合: バックアップの開始時に仮想マシンが一時停止状態だった場合、バックアップが完了すると、仮想マシンは保存済み状態になります。
- WMI バックアップ方式では、オプションの[一貫性レベル (Consistency level)](ポリシーの[詳細 (Advanced)]の[Hyper-V]タブ) がサポートされます。利用可能な設定は、[アプリケーションの整合性、次にクラッシュ整合 (Application consistent then crash consistent)]、[アプリケーションの整合性 (Application consistent)]、[クラッシュ整合 (Crash consistent)]です。

WMI バックアップ方式では、次の点に注意してください。

- バックアップ中に仮想マシンが一時停止の状態、[一貫性レベル (Consistency level)]が[アプリケーションの整合性 (Application consistent)]に設定されている場合、スナップショットの作成中にバックアップは失敗します。[一貫性のレベル (Consistency level)]が[アプリケーションの整合性、次にクラッシュ整合 (Application consistent then crash consistent)]または[クラッシュ整合 (Crash consistent)]に設定される場合、バックアップは成功します。リストア後に仮想マシンはオフの状態になります。
- バックアップ中に仮想マシンが保存済みの状態で、[一貫性レベル (Consistency level)]が[アプリケーションの整合性 (Application consistent)]に設定されている

る場合、スナップショットの作成中にバックアップは失敗します。[一貫性のレベル (Consistency level)]が[アプリケーションの整合性、次にクラッシュ整合 (Application consistent then crash consistent)]または[クラッシュ整合 (Crash consistent)]に設定される場合、バックアップは成功します。リストア後に仮想マシンは保存済みの状態になります。

p.43 の「[一貫性のレベルのパラメータ \(WMI\)](#)」を参照してください。

- NetBackup for Hyper-V では、仮想マシンの表示名に一定の文字制限があります。p.20 の「[Hyper-V 仮想マシンの表示名に対する NetBackup の文字制限](#)」を参照してください。
- NetBackup for Hyper-V はファイバートランスポートデータ転送方式によるリストアをサポートしません。
- Hyper-V 仮想マシンのリストアについて詳しくは、以下を参照してください。

p.82 の「[個々のファイルのリストアに関する注意事項](#)」を参照してください。
p.85 の「[仮想マシン全体のリストアに関する注意事項](#)」を参照してください。
- NetBackup for Hyper-V のサポートについて詳しくは、次のドキュメントを参照してください。
 - [NetBackup ソフトウェア互換性リスト](#)
 - [『Support for NetBackup in virtual environments』](#)

Hyper-V 仮想マシンの表示名に対する NetBackup の文字制限

Hyper-V 仮想マシンが NetBackup ポリシーに含まれている場合、特定の文字は仮想マシンの表示名で許可されません。

表示名に不正な文字が含まれる場合にはバックアップが失敗することがあります。

NetBackup では、次の文字が仮想マシンの表示名で許可されます。

- 大文字と小文字の ASCII 文字 (A-Z、a-z)
- 数字 (0-9)
- 下線文字 (_)
- プラス記号 (+)
- 左右のカッコ ()
- 空白
- ハイフン (-)。ただし、表示名の最初にはハイフンを使用できません。
- ピリオド (.)。次の制限事項に注意してください。

[VM バックアップからのファイルリカバリを有効にする (Enable file recovery from VM backup)]オプションを使用する場合の vhd または vhdx 名と VM パスの NetBackup 文字制限

表示名の最後にはピリオドを使用できません。たとえば、vm1. の表示名は使用できません。

メモ: 他の文字は許可されません。

仮想マシンを自動的に選択するポリシーの場合: 仮想マシンをリストに表示する場合には、表示名の空白は問い合わせのテストの結果で「%20」に変換されます。

VM 名に対するその他の文字制限は、次の場所で入手できる『NetBackup クラウド管理者ガイド』で確認できます。

<http://www.veritas.com/docs/000003214>

[VM バックアップからのファイルリカバリを有効にする (Enable file recovery from VM backup)]オプションを使用する場合の vhd または vhdx 名と VM パスの NetBackup 文字制限

[VM バックアップからのファイルリカバリを有効にする (Enable file recovery from VM backup)]オプションを含む Hyper-V ポリシーの場合は、vhd 名や vhdx 名あるいは VM パスのすべての位置に非 ASCII 文字を使うことはできません。非 ASCII 文字には、たとえば日本語や漢字 (マルチバイト) があります。仮想ディスク名または VM パスに非 ASCII 文字が含まれていると、バックアップジョブは完了しますが、VM のファイルを個別にバックアップからリストアすることはできません。

代わりに、VM 全体をリストアできます。

Linux 仮想マシンに関する注意事項

次の注意事項は Linux ゲストオペレーティングシステムの仮想マシンに適用されます。

- VSS または WMI のスナップショット方式を使用して Linux VM でファイルシステムを静止するには、適切な統合サービスを VM にインストールする必要があります。利用可能な統合サービスのリストについては、『仮想環境における NetBackup 7.7.x と 8.x のサポート』を参照してください。
- マウントされていない LVM2 ボリュームは /dev で始まる必要があります。マウントされていない LVM2 ボリュームのパスが /dev で始まっていない場合、仮想マシンのバックアップは失敗します。注: ボリュームのパスは LVM ボリューム構成ファイルの dir パラメータで設定されます。この構成ファイルの例は /etc/lvm/lvm.conf などです。

- Linux ファイルまたはディレクトリの場合、NetBackup for Hyper-V には Linux 物理ホストの NetBackup と同じパス名制限があります。パス名の長さが 1023 文字を超えるファイルまたはディレクトリは、個別にバックアップまたはリストアすることはできません。このようなファイルは仮想マシン全体のバックアップから仮想マシン全体をリストアするときにリストアできます。

NetBackup がバックアップしないファイルについて詳しくは、『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1 UNIX および Linux』のバックアップからのファイルの除外に関するトピックを参照してください。

- NetBackup ポリシーの [VM バックアップからのファイルリカバリを有効にする (Enable file recovery from VM backup)] オプションは、次のように設定されている Linux ゲスト OS 内のディスクではサポートされません。
 - ディスクが LVM (Linux Logical Volume Manager) を介して論理ボリュームに分割されます。
 - LVM ボリュームがシンプロビジョニングで作成されました。
- Hyper-V 仮想マシンのリストアについて詳しくは、以下を参照してください。
 - p.82 の「[個々のファイルのリストアに関する注意事項](#)」を参照してください。
 - p.85 の「[仮想マシン全体のリストアに関する注意事項](#)」を参照してください。

Hyper-V による NetBackup 通信の設定

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup Legacy Network Service ログオン \(vnetd.exe\) のドメインユーザーアカウントへの変更](#)
- [Hyper-V リソースの使用に関するグローバル制限の設定](#)

NetBackup Legacy Network Service ログオン (vnetd.exe) のドメインユーザーアカウントへの変更

Hyper-V フェールオーバークラスタのすべてノードで VM を検索するように NetBackup Hyper-V インテリジェントポリシーを設定できます。

重要! ポリシーでクラスタノードを検索することを許可するには、NetBackup Legacy Network Service のログオンをドメインユーザーアカウントに設定する必要があります。ログオンはデフォルト (ローカルシステムアカウント) のままにしないでください。ログオンを変更しないと、ポリシーは、クラスタの他のノードでは VM を検索しなくなります。

メモ: VM はクラスタノード間を自動的に移行できるので、クラスタ全体を検索するようにポリシーを許可しておくことが重要です。VM が現在対応しているノードが、その VM の前回のバックアップ以降、変更されている可能性があります。

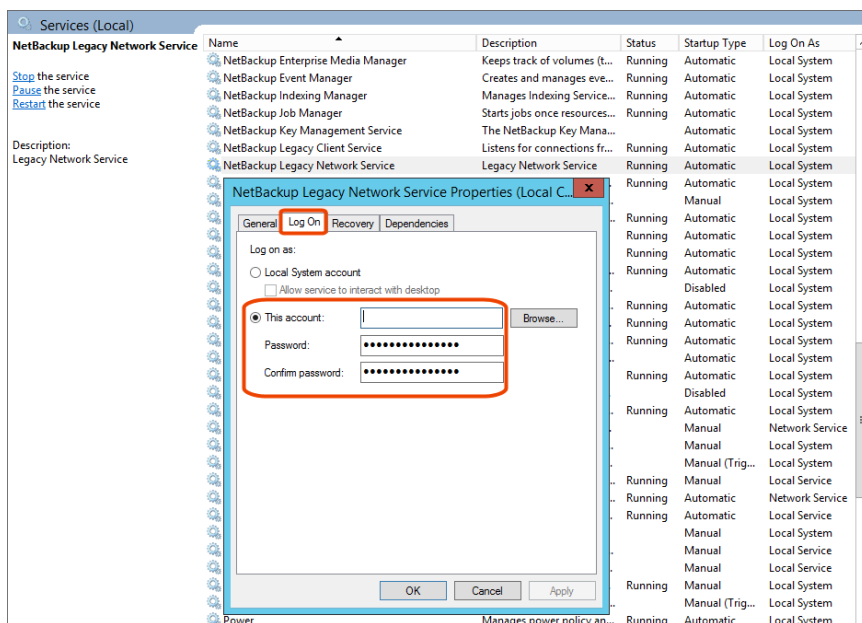
フェールオーバークラスタを検出するために必要な権限を確認する方法

- ◆ Failover Cluster Manager ユーザーとして Failover Cluster Manager を実行します。

- Failover Cluster Manager ホストで、[スタート (Start)]をクリックし、[管理ツール (Administrative Tools)]をクリックして、[Failover Cluster Manager]を右クリックします。
- [別のユーザーとして実行 (Run as different user)]をクリックし、Failover Cluster Manager のユーザー名とパスワードを指定します。

NetBackup Legacy Network Service (vnetd.exe) ログオンをドメインユーザーアカウントに変更するには

- 1 ログオンアカウントが、ドメインの管理者グループまたは Hyper-V ノード上の管理者グループに属することを確認します。この手順では、管理者権限が必要です。
- 2 ポリシーが検索対象とする Hyper-V Server ノード上で、[サービス (Services)]を開きます (services.msc を実行します)。
- 3 NetBackup Legacy Network Service をダブルクリックします。このサービスは vnetd.exe です。



- 4 [ログオン (Log On)]タブをクリックし、[アカウント (This account)]をクリックします。
- 5 ドメインユーザーアカウントのユーザー名とパスワードを入力します。
 [アカウント (This account)]に対し、ユーザー名を domain\username 形式で入力します。
- 6 [OK]をクリックします。

- 7 NetBackup Legacy Network Service を再起動します。
- 8 ポリシーの検索対象とする各クラスターノードに対して、次の手順を繰り返します。

Hyper-V リソースの使用に関するグローバル制限の設定

プライマリサーバーの[リソース制限 (Resource limits)]ホストプロパティで、Hyper-V リソース形式で実行できる同時バックアップの数を制御できます。これらの設定は、プライマリサーバーのすべての NetBackup ポリシーに適用されます。

たとえば、Hyper-V Server の負荷を避けるために、サーバーごとに並列スナップショット数の制限を設定できます。

メモ: リソース制限は仮想マシンの自動選択 (問い合わせビルダー) を使用するポリシーにのみ適用されます。仮想マシンが手動で選択されている場合、[リソース制限 (Resource limit)]の設定は影響しません。

メモ: ポリシーごとの同時ジョブの数を制限するには、ポリシーの[属性 (Attributes)]タブにある[ポリシーごとにジョブ数を制限する (Limit jobs per policy)]設定を使います。このオプションの効果はポリシーが仮想マシンを選択する方法によって決まります。

Hyper-V リソースの使用に関する制限を設定するには

- 1 NetBackup Web UI を開きます。
- 2 [ホスト (Hosts)]、[ホストプロパティ (Host properties)]の順に選択します。プライマリサーバーを選択します。必要に応じて、[接続 (Connect)]をクリックします。次に、[プライマリサーバーの編集 (Edit primary server)]をクリックします。
- 3 [リソース制限 (Resource limits)]を展開します。次に、[Hyper-V]をクリックします。
- 4 [リソース制限 (Resource limit)]列をクリックして、リソースの制限を変更します。これらの設定は、プライマリサーバーのすべてのポリシーに適用されます。

各リソース形式のデフォルトは 0、つまり制限なしです。

表 3-1 に制限を示します。

表 3-1 Hyper-V のリソース形式と制限

リソース形式	バックアップ方式	リソースの制限
1 サーバーあたりの実行中のスナップショット数 (Active Snapshots Per Server)	VSS	Hyper-V Server あたりの実行中のバックアップジョブの最大数を制御します。スタンドアロンの Hyper-V Server と、クラスタ内のすべての Hyper-V Server に適用されます。 このリソース形式の通常設定は 2 です。 次の例を参照してください。 例 1: ■ Hyper-V インテリジェントポリシーは、1 台の Hyper-V Server 上に 32 台の仮想マシンを検出します。 ■ 1 サーバーあたりの実行中のスナップショット数 (Active Snapshots Per Server): 12。 NetBackup アクティビティモニターには、32 個のスナップショットジョブが表示されます。12 個のスナップショットジョブとそのバックアップジョブはアクティブです。20 個のスナップショットジョブはキューに投入されます。実行中のバックアップジョブが完了すると、キューに投入されたスナップショットジョブが実行中になります。 例 2: ■ クラスタには 2 つのノード (Node1 と Node2) があり、各ノードに 32 台の仮想マシンがあります。 ■ Hyper-V インテリジェントポリシーは、クラスタ内に 64 台の仮想マシンを検出します。 ■ 1 サーバーあたりの実行中のスナップショット数 (Active Snapshots Per Server): 12。 NetBackup アクティビティモニターには、64 個のスナップショットジョブが表示されます。Node1 上の仮想マシンに対し 12 個のスナップショットジョブが実行中で、Node2 上の仮想マシンに対し 12 個のスナップショットジョブが実行中です。40 個のスナップショットジョブがキューに投入されます。実行中のバックアップジョブが完了すると、キューに投入されたスナップショットジョブが実行中になります。

リソース形式	バックアップ方式	リソースの制限
1 クラスタあたりの実行中のスナップショット数 (Active Snapshots Per Cluster)	VSS	Hyper-V クラスタあたりの実行中のバックアップジョブの最大数を制御します。 このリソース形式の通常設定は 4 です。 例 1: ■ クラスタには 2 つのノード (Node1 と Node2) があり、各ノードに 32 台の仮想マシンがあります。 ■ Hyper-V インテリジェントポリシーは、クラスタ内に 60 台の仮想マシンを検出します。 ■ 1 クラスタあたりの実行中のスナップショット数 (Active Snapshots Per Cluster): 20。 ■ 1 サーバーあたりの実行中のスナップショット数 (Active Snapshots Per Server): 無制限。 NetBackup アクティビティモニターには、60 のスナップショットジョブが表示されます。クラスタ内の仮想マシンに対し、20 個のスナップショットジョブが実行中です。40 個のスナップショットジョブがキューに投入されます。実行中のバックアップジョブが完了すると、キューに投入されたジョブが実行中になります。 例 2: ■ クラスタには 2 つのノード (Node1 と Node2) があり、各ノードに 32 台の仮想マシンがあります。 ■ Hyper-V インテリジェントポリシーは、クラスタ内に 60 台の仮想マシンを検出します。 ■ 1 クラスタあたりの実行中のスナップショット数 (Active Snapshots Per Cluster): 20。 ■ 1 サーバーあたりの実行中のスナップショット数 (Active Snapshots Per Server): 5。 NetBackup アクティビティモニターには、60 個のスナップショットジョブが表示されます。Node1 と Node2 上の仮想マシンに対し 10 個のスナップショットジョブが実行中です。50 個のスナップショットジョブがキューに投入されます。[1 クラスタあたりの実行中のスナップショット数 (Active Snapshots Per Cluster)] 設定が大きい場合でも、[1 サーバーあたりの実行中のスナップショット数 (Active Snapshots Per Server)] 設定によって実行中のジョブの数が制御されます。

リソース形式	バックアップ方式	リソースの制限
1 サーバーあたりのスナップショット操作 (Snapshot Operations Per Server)	VSS	Hyper-V Server 上の、またはクラスタ内の Hyper-V Server 上のスナップショットの作成や削除など、同時 VSS 操作の最大数を制御します。バックアップのスナップショット作成フェーズとスナップショット削除フェーズのみ適用されます。同時バックアップジョブの最大数は制御されません。 このリソース形式の通常設定は 1 です。 各 VM バックアップは、スナップショットジョブと以降のバックアップジョブから成ります。メモ: [1 サーバーあたりのスナップショット操作 (Snapshot Operations Per Server)] は、スナップショットジョブの一部である、VSS スナップショットの作成と削除を制御します。スナップショットの作成が完了すると、バックアップジョブが開始します。バックアップジョブが実行中の場合、スナップショット作成が完了していても、スナップショットジョブが実行中と表示されます。そのため、このリソースは、実行中のバックアップジョブの数を制御しません。次の例を参照してください。 例 1: ■ Hyper-V インテリジェントポリシーは、1 台の Hyper-V Server 上に 32 台の仮想マシンを検出します。 ■ 1 サーバーあたりのスナップショット操作 (Snapshot Operations Per Server): 2。 ■ 1 サーバーあたりの実行中のスナップショット数 (Active Snapshots Per Server): 無制限。 NetBackup アクティビティモニターには、32 個のスナップショットジョブが表示されます。2 個のスナップショットジョブが実行中です。30 個のスナップショットジョブはキューに投入されます。最初のスナップショットジョブでスナップショットの作成が完了すると、そのバックアップジョブが開始し、3 番目のスナップショットジョブが実行中になります。2 番目のスナップショットジョブでスナップショットの作成が完了すると、そのバックアップジョブが開始し、4 番目のスナップショットジョブが実行中になります。すべてのスナップショットが作成されると、実行中のバックアップジョブは 32 となります。 例 2: ■ Hyper-V インテリジェントポリシーは、1 台の Hyper-V Server 上に 32 台の仮想マシンを検出します。 ■ 1 サーバーあたりのスナップショット操作 (Snapshot Operations Per Server): 2。 ■ 1 サーバーあたりの実行中のスナップショット数 (Active Snapshots Per Server): 10。 NetBackup アクティビティモニターには、32 個のスナップショットジョブが表示されます。2 個のスナップショットジョブが実行中です。30 個のスナップショットジョブはキューに投入されます。最初のスナップショットジョブでスナップショットの作成が完了すると、そのバックアップジョブが開始し、3 番目のスナップショットジョブが実行中になります。2 番目のスナップショットジョブでスナップショットの作成が完了すると、そのバックアップジョブが開始し、4 番目のスナップショットジョブが実行中になります。このプロセスは、10 のスナップショットジョブとそのバックアップジョブが実行中になるまで続きます。最初バックアップジョブが完了したら、11 番目のスナップショットジョブが実行中になります。その後も同様です。

リソース形式	バックアップ方式	リソースの制限
1 クラスタあたりのスナップショット操作 (Snapshot Operations Per Cluster)	VSS	クラスタ内のスナップショットの作成やスナップショットの削除など、同時 VSS 操作の最大数を制御します。バックアップのスナップショット作成フェーズとスナップショット削除フェーズのみ適用されます。同時バックアップジョブの最大数は制御されません。 例: ■ クラスタには 2 つのノード (Node1 と Node2) があり、各ノードに 32 台の仮想マシンがあります。 ■ Hyper-V インテリジェントポリシーは、クラスタ内に 60 台の仮想マシンを検出します。 ■ 1 クラスタあたりのスナップショット操作 (Snapshot Operations Per Cluster): 5。 ■ 1 クラスタあたりの実行中のスナップショット数 (Active Snapshots Per Cluster): 12。 NetBackup アクティビティモニターには、60 個のスナップショットジョブが表示されます。5 個のスナップショットジョブが実行中です。55 個のスナップショットジョブはキューに投入されます。最初のスナップショットジョブでスナップショットの作成が完了すると、対応するバックアップジョブが開始し、6 番目のスナップショットジョブが実行中になります。2 番目のスナップショットジョブでスナップショットの作成が完了すると、そのバックアップジョブが開始し、7 番目のスナップショットジョブが実行中になります。12 のバックアップジョブが実行中になると、13 番目以降のバックアップジョブはキューに投入されます。これは、[1 クラスタあたりの実行中のスナップショット数 (Active Snapshots Per Cluster)] が 12 に設定されているためです。

リソース形式	バックアップ方式	リソースの制限
Hyper-V Server あたりの実行中のバックアップ数 (Active Backups Per Hyper-V Server)	WMI	Hyper-V Server あたりの実行中のバックアップジョブの最大数を制御します。スタンドアロンの Hyper-V Server と、クラスタ内のすべての Hyper-V Server に適用されます。 このリソース形式の通常設定は 2 です。 例 1: ■ Hyper-V インテリジェントポリシーは、1 台の Hyper-V Server 上に 32 台の仮想マシンを検出します。 ■ Hyper-V Server あたりの実行中のバックアップ数 (Active Backups Per Hyper-V Server): 12。 NetBackup アクティビティモニターには、32 個のスナップショットジョブが表示されます。12 個のスナップショットジョブとそのバックアップジョブはアクティブです。20 個のスナップショットジョブはキューに投入されます。実行中のバックアップジョブが完了すると、キューに投入されたスナップショットジョブが実行中になります。 例 2: ■ クラスタには 2 つのノード (Node1 と Node2) があり、各ノードに 32 台の仮想マシンがあります。 ■ Hyper-V インテリジェントポリシーは、クラスタ内に 40 台の仮想マシンを検出します (Node1 上に 10 台、Node2 上に 30 台)。 ■ Hyper-V Server あたりの実行中のバックアップ数 (Active Backups Per Hyper-V Server): 12。 NetBackup アクティビティモニターには、40 のスナップショットジョブが表示されます。Node1 上の仮想マシンに対し 10 のスナップショットジョブが実行中で、Node2 上の仮想マシンに対し 12 のスナップショットジョブが実行中です。Node2 上の仮想マシンに対し、18 のスナップショットジョブがキューに投入されます。

リソース形式	バックアップ方式	リソースの制限
Hyper-V クラスタあたりの実行中のバックアップ数 (Active Backups Per Hyper-V Cluster)	WMI	Hyper-V クラスタあたりの実行中のバックアップジョブの最大数を制御します。 このリソース形式の通常設定は 6 です。 例 1: ■ クラスタには 2 つのノード (Node1 と Node2) があり、各ノードに 32 台の仮想マシンがあります。 ■ Hyper-V インテリジェントポリシーは、クラスタ内に 60 台の仮想マシンを検出します。 ■ Hyper-V クラスタあたりの実行中のバックアップ数 (Active Backups Per Hyper-V Cluster): 20。 ■ Hyper-V Server あたりの実行中のバックアップ数 (Active Backups Per Hyper-V Server): 無制限。 NetBackup アクティビティモニターには、60 個のスナップショットジョブが表示されます。クラスタ上の仮想マシンに対し 20 個のスナップショットジョブが実行中です。40 個のスナップショットジョブがキューに投入されます。実行中のバックアップジョブが完了すると、キューに投入されたスナップショットジョブが実行中になります。 例 2: ■ クラスタには 2 つのノード (Node1 と Node2) があり、各ノードに 32 台の仮想マシンがあります。 ■ Hyper-V インテリジェントポリシーは、クラスタ内に 60 台の仮想マシンを検出します。 ■ Hyper-V クラスタあたりの実行中のバックアップ数 (Active Backups Per Hyper-V Cluster): 20。 ■ Hyper-V Server あたりの実行中のバックアップ数 (Active Backups Per Hyper-V Server): 5。 NetBackup アクティビティモニターには、60 個のスナップショットジョブが表示されます。Node1 と Node2 上の仮想マシンに対し 10 個のスナップショットジョブが実行中です。50 個のスナップショットジョブがキューに投入されます。[Hyper-V クラスタあたりの実行中のバックアップ数 (Active Backups Per Hyper-V Cluster)]設定が大きい場合でも、[Hyper-V Server あたりの実行中のバックアップ数 (Active Backups Per Hyper-V Server)]設定によって実行中のジョブの数が制御されます。

Hyper-V 用 NetBackup ポリシーの設定

この章では以下の項目について説明しています。

- [Hyper-V ポリシーの作成](#)
- [\[属性 \(Attributes\)\] タブでポリシーごとのジョブ数を制限する \(Hyper-V\)](#)
- [VM がポリシーで手動で選択される場合は、仮想マシンのホスト名と表示名が一意である必要があります。](#)
-
- [Hyper-V - 高度な属性](#)
- [Hyper-V 仮想マシンの参照](#)
- [代替クライアントによる仮想マシンのバックアップの前提条件 \(VSS\)](#)
- [代替クライアントによる仮想マシンのバックアップの構成](#)
- [仮想マシン内の NetBackup クライアントの要件](#)

Hyper-V ポリシーの作成

ポリシーを構成する前に、Hyper-V Server がオンラインになっていることを確認します。NetBackup は、Hyper-V Server と通信できる必要があります。

次の手順を使用して、手動で選択する Hyper-V 仮想マシンをバックアップするポリシーを作成します。

仮想マシンを自動的に選択するポリシーを作成するには、次のトピックを参照してください。

p.56 の「[仮想マシンの自動選択の Hyper-V ポリシーの作成](#)」を参照してください。

仮想マシンを手動で選択して、**Hyper-V** ポリシーを作成するには

- 1 NetBackup Web UI を開きます。
- 2 左側で[保護 (Protection)]、[ポリシー (Policies)]の順に選択します。
- 3 [追加 (Add)]を選択します。
- 4 ポリシー形式として[Hyper-V]を選択します。
- 5 ポリシーストレージユニットまたはストレージユニットグループ (または[任意 (Any available)])を選択します。
- 6 ほとんどの場合、[クライアント側の重複排除 (Client-side deduplication)]オプションはデフォルト([ホストプロパティで構成された個々のクライアント設定を使用 (Use individual client settings configured in host properties)])のままでかまいません。
このオプションについて詳しくは『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。
- 7 [スケジュール (Schedules)]で、次のいずれかのスケジュールを定義します。
 - 完全バックアップ
 - 差分増分バックアップ
 - 累積増分バックアップ

メモ: [Hyper-V]タブの VSS バックアップ方式の場合、増分バックアップでは[VM バックアップからのファイルリカバリを有効にする (Enable file recovery from VM backup)]オプションを選択する必要があります。

- 8 [クライアント (Clients)]タブを選択します。
- 9 [サーバーの種類 (Server type)]を選択します。このオプションでは、NetBackup でバックアップする VM を検索する環境の種類を指定します。

Hyper-V スタンドアロン/クラスタ	スタンドアロンの Hyper-V Server またはクラスタ。
System Center Virtual Machine Manager	Hyper-V Server またはクラスタを管理する SCVMM サーバー。

この手順では、Hyper-V standalone/cluster オプションのみを使用します。System Center Virtual Machine Manager オプションについては、次を参照してください。

p.71 の「[SCVMM 環境での仮想マシンのバックアップについて](#)」を参照してください。

p.56 の「[仮想マシンの自動選択の Hyper-V ポリシーの作成](#)」を参照してください。

- 10 [サーバー名 (Server name)]には、Hyper-V サーバーまたはクラスタの名前を入力します。このホストは仮想マシンのバックアップを実行する NetBackup クライアントを備えている必要があります。

重要: IPv6 アドレスは[サーバー名 (Server Name)]ではサポートされません。代わりに完全修飾ドメイン名 (FQDN) またはホスト名を使用してください。

- 11 [バックアップ用の仮想マシン (Virtual machines for backup)]の選択に使用するオプションを選択します。

手動で選択 (Select manually)

バックアップ対象の仮想マシンを手動で選択するには:

- [追加 (Add)]を選択します。
 - [VM 表示名の入力 (Enter the VM display name)]で、バックアップを作成する仮想マシンの名前を入力します。次に[追加 (Add)]を選択します。
- あるいは、[仮想マシンの参照 (Browse virtual machines)]を選択して、バックアップを作成する仮想マシンを選択します。その後、[選択 (Select)]を選択します。

NetBackup が仮想マシンの IP アドレスを入手できない場合、IP アドレスは[NONE]と表示されます。

これらのフィールドに関する詳細情報を利用できます。

p.46 の「[Hyper-V 仮想マシンの参照](#)」を参照してください。

Hyper-V インテリジェント
ポリシーの問い合わせを
通じて自動的に選択
(Select automatically
through Hyper-V
Intelligent Policy query)

このオプションは、仮想マシンを自動的に選択するルールを設定します。SCVMM サーバーが管理する VM の場合には、このオプションは必須です。

仮想マシンの自動選択については、別のトピックで説明しています。

p.54 の「[Hyper-V 仮想マシンを選択するためのオプション](#)」を参照してください。

p.56 の「[仮想マシンの自動選択の Hyper-V ポリシーの作成](#)」を参照してください。

p.71 の「[SCVMM 環境での仮想マシンのバックアップについて](#)」を参照してください。

12 Hyper-V タブを選択します。

このタブのオプションについて詳しくは、次のトピックを参照してください。利用可能なオプションは、選択されているバックアップ方式によって決まります。

p.37 の「バックアップ方式 (Hyper-V)」を参照してください。

p.36 の「」を参照してください。

p.40 の「Hyper-V - 高度な属性」を参照してください。

13 [作成 (Create)] を選択して、ポリシーを保存します。

[属性 (Attributes)] タブでポリシーごとのジョブ数を制限する (Hyper-V)

[ポリシーごとにジョブ数を制限する (Limit jobs per policy)] オプションは、ポリシーが仮想マシンをどのように選択するかに応じて、次のように動作します。

仮想マシンを自動的に選択するポリシーの場合 (問い合わせビルダー)

[ポリシーごとにジョブ数を制限する (Limit jobs per policy)] オプションは、ポリシーによって同時に動作する親 (検出) ジョブの数を制御します。このオプションはスナップショットジョブの数および親ジョブが起動するバックアップ (bpbkar) ジョブの数を制限しません。たとえば、このオプションが 1 に設定されており、100 台の仮想マシンを検出するポリシーのバックアップを始めた場合、すべてのスナップショットジョブと 100 台の仮想マシンのそれぞれのバックアップジョブは同時に実行することが許可されます。[ポリシーごとにジョブ数を制限する (Limit jobs per policy)] に対し、最初の検出ジョブの件数だけがカウントされます。ポリシーの第 2 バックアップを始める場合、その検出ジョブは最初のバックアップの子ジョブがすべて完了するまで開始できません。

仮想マシンの手動選択を使用するポリシーの場合

[ポリシーごとにジョブ数を制限する (Limit jobs per policy)] は、ポリシーが同時にバックアップできる仮想マシンの数を制御します。検出ジョブが不要なので、各仮想マシンのバックアップはスナップショットジョブから始まります。[ポリシーごとにジョブ数を制限する (Limit jobs per policy)] の設定は、各スナップショットに対してカウントされます。このオプションが 1 に設定されている場合、ポリシーで指定されている次の仮想マシンのバックアップは、最初のスナップショットジョブおよびそのバックアップが完了するまで開始されません。

p.25 の「Hyper-V リソースの使用に関するグローバル制限の設定」を参照してください。

VM がポリシーで手動で選択される場合は、仮想マシンのホスト名と表示名が一意である必要があります。

同じ名前を持つ仮想マシンは、次のように設定されているポリシーで問題を生じる可能性があります。

- プライマリサーバーのポリシーは、[クライアント (Clients)] タブの [手動で選択 (Select manually)] オプションを使用して、バックアップする VM を選択します。

■

これらのポリシーは、選択した VM ではなく、同じ名前を持つ別の VM のバックアップを作成する可能性があります。その場合は、選択した VM のバックアップは作成されません。これらのポリシーが機能するためには、仮想マシンの表示名またはホスト名が一意である必要があります。

次のオプションを検討してください。

- 表示名またはホスト名で VM を識別する手動のポリシーの場合は、VM 名を変更して各 VM が一意のホスト名または表示名を持つようにします。

■

■

Hyper-V をポリシー形式として選択すると [Hyper-V] タブが表示されます。

次のトピックでは、Hyper-V のバックアップオプションについて説明します。

p.37 の「[バックアップ方式 \(Hyper-V\)](#)」を参照してください。

p.37 の「[最適化オプション \(Hyper-V\)](#)」を参照してください。

p.38 の「[プライマリ VM 識別子オプション \(Hyper-V\)](#)」を参照してください。

p.39 の「[非 VSS VM のオフラインバックアップの有効化 \(VSS を使用した Hyper-V\)](#)」を参照してください。

p.40 の「[クラスタ共有ボリュームタイムアウト \(VSS を使用した Hyper-V\)](#)」を参照してください。

p.40 の「[Hyper-V - 高度な属性](#)」を参照してください。

バックアップ方式 (Hyper-V)

表 4-1 Hyper-V ポリシーのバックアップ方式

バックアップ方式	
ボリュームシャドウコピーサービス (VSS)	Windows Server 2016 より前のバージョンの Windows Server を実行する古い Hyper-V ホストの場合は、この方法を選択します。この方式はブロックレベルの増分バックアップまたはアクセラレータをサポートしません。
Windows Management Instrumentation (WMI)	この方式は、Windows 2016 以降を実行する Hyper-V ホストにお勧めします。これにより、より高速な Hyper-V バックアップ機能が有効になり、ブロックレベルの増分バックアップまたはアクセラレータで必要になります。仮想マシンは、5 より新しい VM 構成バージョンである必要があります。

最適化オプション (Hyper-V)

表 4-2 HYPER-V の最適化

オプション	バックアップ方式	説明
VM バックアップからのファイルリカバリを有効にする	VSS、WMI	このオプションを使用すると、テキストファイルやその他のドキュメントなど、ゲスト OS の個々のファイルをバックアップからリストアできます。このオプションは、完全および増分スケジュールをサポートしています。 メモ: このオプションの有無にかかわらず、仮想マシン全体をリストアできます。
Block Level Incremental バックアップを有効にする	WMI	仮想マシンのブロックレベルバックアップに使用します。仮想マシンの高速バックアップを実行するには、Microsoft 社の RCT (Resilient Change Tracking) を使用します。 また、このオプションはバックアップイメージのサイズを減らします。 メモ: このオプションを選択した場合、デフォルトで[Block Level Incremental (BLI) バックアップを実行する (Perform block level incremental backups)]([属性 (Attributes)]タブの) が自動的に選択され、グレー表示されます。 アクセラレータを使用する (Use Accelerator) NetBackup アクセラレータは Microsoft 社の RCT (Resilient Change Tracking) を使用して、高速のバックアップ (完全バックアップと増分バックアップ) を実行します。

オプション	バックアップ方式	説明
削除されたブロックのエクスクルード (Exclude deleted blocks)	WMI	仮想マシンのファイルシステム内の未使用か削除されたブロックを除くことによってバックアップイメージのサイズを減らします。このオプションは独自のマッピング技術を使用して、ファイルシステム内の空いているセクタ (割り当てられているが空) を識別します。 このオプションがサポートするファイルシステムは、Windows NTFS と Linux ext2、ext3、ext4 です。また、Windows Logical Disk Manager (LDM) とLinux Logical Volume Manager (LVM2) をサポートします。
スワップおよびページングファイルのエクスクルード	WMI	ゲスト OS システムのページファイル (Windows) またはスワップファイル (Linux) のデータを除外することでバックアップイメージのサイズを減らします。 メモ: このオプションはバックアップからスワップおよびページングファイルをエクスクルードしません。それらのファイルのデータのみがエクスクルードされます。ファイルがリストアされる場合には、空のファイルとしてリストアされます。 メモ: Linux 仮想マシンの場合、このオプションは仮想マシンをリストアするときにスワップファイルを無効にします。仮想マシンがリストアされた後にスワップファイルを再設定する必要があります。スワップファイルを有効にして仮想マシンをリストアするには、[スワップおよびページングファイルのエクスクルード (Exclude swap and paging files)]を選択しないでください。

プライマリ VM 識別子オプション (Hyper-V)

この設定は、NetBackup がバックアップに仮想マシンを選択するときに仮想マシンを認識する名前の形式を指定します。

表 4-3 [プライマリ VM 識別子 (Primary VM identifier)]オプション

オプション	説明
VM ホスト名 (VM hostname)	仮想マシンのネットワークホスト名を指定します。 メモ: Hyper-V Server またはクラスタの VM の場合、ホスト名は仮想マシンが動作しているときだけ利用可能です。[VM ホスト名 (VM hostname)]を選択しても、仮想マシンがバックアップの時に動作していなければ、バックアップは失敗することがあります。 メモ: ポリシーの[クライアント (Clients)]タブで、[サーバー形式 (Server type)]が[System Center Virtual Machine Manager]になっている場合、電源がオフになっている状態でも、NetBackup はホスト名で VM をバックアップできます。

オプション	説明
VM 表示名 (VM display name)	Hyper-V マネージャコンソールに表示される仮想マシンの名前を指定します。 メモ: NetBackup for Hyper-V では、現時点で US-ASCII 以外の文字を含む仮想マシンの表示名はサポートされません。表示名にそのような文字が含まれている場合、[VM ホスト名 (VM hostname)] または [VM GUID] を選択します。 メモ: 仮想マシンが NetBackup ポリシーに含まれている場合は、仮想マシンの表示名に使うことができる文字に制限があります。
VM GUID	仮想マシンが作成されたときに仮想マシンに割り当てられた一意の ID を指定します。 SCVMM 環境では、VM GUID は VM ID として参照されます。

注意: ポリシーを作成し、次に [プライマリ VM 識別子 (Primary VM identifier)] を変更する場合、[クライアント (Clients)] タブで行った仮想マシンの選択を削除する必要があります。そうでない場合、NetBackup はバックアップする仮想マシンを識別できなくなることがあります。

たとえば、[プライマリ VM 識別子 (Primary VM identifier)] を VM ホスト名 から VM 表示名 に変更し、仮想マシンの表示名がホスト名とは異なる場合、[クライアント (Clients)] タブのホスト名を使用できないため、仮想マシンはバックアップされないことに注意してください。[クライアント (Clients)] タブのホスト名エントリを削除し、ネットワークを参照して、表示名で仮想マシンを選択する必要があります。

メモ: 仮想マシンを作成する場合は、ホスト名と表示名の両方に同じ名前を使用することを検討してください。[プライマリ VM 識別子 (Primary VM identifier)] が変更された場合でも、[クライアント (Clients)] タブの既存のエントリはまだ機能します。

非 VSS VM のオフラインバックアップの有効化 (VSS を使用した Hyper-V)

VSS バックアップ方式の場合、このオプションは仮想マシンのオフラインバックアップの実行を NetBackup に許可するかどうかを決定します。このオプションは、Linux など、VSS をサポートしないゲストオペレーティングシステムのために意図されています。

メモ: オンラインバックアップとオフラインバックアップは Microsoft 社のバックアップ形式であり、NetBackup では設定されません。

このオプションを有効にすると、NetBackup は仮想マシンのオフラインバックアップを実行できます。

特定の状況で、仮想マシンがオンラインバックアップのために静止できない場合、仮想マシンは [保存済み (Saved)] 状態である必要があります。このため、バックアップはオフラ

インで実行されます。仮想マシンへのユーザーアクセスはバックアップ中に割り込まれることがあります。バックアップの完了後、仮想マシンは元の状態に戻されます。

このオプションが無効の場合、NetBackup は仮想マシンのオフラインバックアップを実行できません。オンラインバックアップのみ実行できます (仮想マシンへのユーザーアクセスは割り込まれません)。オンラインバックアップを実行できない場合、バックアップジョブは状態 **156** で失敗します。

オンラインバックアップとオフラインバックアップについては、詳細情報を参照できます。

クラスタ共有ボリュームタイムアウト (VSS を使用した Hyper-V)

デフォルトは **180** です (3 時間待機)。3 時間の待機は、単一の CSV に複数の仮想マシンがある場合にお勧めします。

別のバックアップによって共有ボリュームが解放されるまで NetBackup を待機させない場合は、この値を **0** に設定します。別のクラスタノードがこのバックアップに必要な共有ボリュームを同時にバックアップする場合にはバックアップは状態コード **156** で失敗します。

このタイムアウトパラメータの適切な値は次の要因によって決まります。

- 同じ CSV に存在する仮想マシンのバックアップジョブの平均時間。ジョブの期間は仮想マシンのサイズと I/O の速度によって決まります。
- 同じ CSV 上の仮想マシンの数。

Hyper-V - 高度な属性

Hyper-V バックアップの次のパラメータを設定できます。ほとんどの場合、最適な設定はデフォルトです。

利用可能な設定は、選択したバックアップ方式 (VSS または WMI) によって異なります。

表 4-4 Hyper-V 詳細属性

構成パラメータ	バックアップ方式	説明
プロバイダの形式 (Provider Type)	VSS	p.41 の「 [プロバイダ形式 (Provider type)] 構成パラメータ (VSS) 」を参照してください。
スナップショット属性 (Snapshot Attribute)	VSS	p.41 の「 [スナップショット属性 (Snapshot attribute)] 構成パラメータ (VSS) 」を参照してください。
仮想ディスクの選択 (Virtual disk selection)	WMI	p.42 の「 仮想ディスクの選択パラメータ (WMI) 」を参照してください。

構成パラメータ	バックアップ方式	説明
既存のスナップショット処理 (Existing snapshot handling)	WMI	p.42 の「 既存のスナップショット処理 (Existing snapshot handling) 」パラメータ (WMI)」を参照してください。
一貫性レベル (Consistency level)	WMI	p.43 の「 一貫性のレベルのパラメータ (WMI) 」を参照してください。

[プロバイダ形式 (Provider type)] 構成パラメータ (VSS)

[プロバイダ形式 (Provider type)] 構成パラメータは、スナップショットを作成する VSS スナップショットプロバイダの形式を決定します。

自動 (Auto)	利用可能なプロバイダをハードウェア、ソフトウェア、システムの順に選択するよう試行されます。
システム (System)	ブロックレベルのコピーオンライトスナップショットに Microsoft システムプロバイダを使用します。 [ハードウェア (Hardware)] 形式とは違って、[システム (System)] プロバイダは特定のハードウェアを必要としません。
ソフトウェア (Software)	このリリースでは保証されません。
ハードウェア (Hardware)	ディスクアレイのハードウェアプロバイダを使用します。ハードウェアプロバイダは、ハードウェアストレージアダプタまたはコントローラと連携して、ハードウェアレベルで VSS スナップショットを管理します。 たとえば、EMC 社の CLARiiON アレイまたは HP 社の EVA アレイに存在するデータをバックアップするのにそのアレイのスナップショットプロバイダを使用する場合は、[ハードウェア (Hardware)] を選択します。アレイと選択したスナップショット属性によっては、そのアレイの特定の事前構成が必要となることがあります。『NetBackup Snapshot Manager for Data Center 管理者ガイド』を参照してください。

[スナップショット属性 (Snapshot attribute)] 構成パラメータ (VSS)

[スナップショット属性 (Snapshot attribute)] 構成パラメータは、作成する VSS スナップショットの形式を決定します。

自動	VSS Provider のデフォルトのスナップショット形式を使用します。
差分 (Differential)	コピーオンライト形式のスナップショットを使用します。たとえば、EMC CLARiiON SnapView スナップショットを使用して EMC 社の CLARiiON アレイをバックアップするには、[差分 (Differential)] を選択します。

プレックス (Plex) クローンのスナップショットまたはミラーのスナップショットを使用します。たとえば、HP EVA Snapclone スナップショットを使用して HP 社の EVA アレイをバックアップするには、[プレックス (Plex)]を選択します。

仮想ディスクの選択パラメータ (WMI)

仮想マシンのどの種類のディスクをバックアップに含めるかを決定します。このパラメータは、バックアップのサイズを減らすことができますが、使用には注意が必要です。次のオプションは複数の仮想ディスクを備えている仮想マシン専用です。

- すべてのディスクのインクルード (Include all disks)
このオプションはデフォルトです。仮想マシン用に構成されるすべての仮想ディスクをバックアップします。
- [ブートディスクを除外 (Exclude boot disk)]
仮想マシンのブートディスク (たとえば C ドライブ) はバックアップに含まれません。他のディスク (D など) はバックアップされます。ブートドライブ用の仮想マシンテンプレートなど、ブートディスクを再作成する別の手段がある場合に、このオプションを検討します。

メモ: このバックアップからリストアされる仮想マシンは起動できません。データファイルはリストアされたデータディスクで利用可能です。

- データディスクを除外 (Exclude data disks)
仮想マシンのデータディスク (たとえば D ドライブ) はバックアップに含まれません。ブートディスクのみバックアップされます。データディスクをバックアップする別のポリシーがある場合にのみ、このオプションを検討してください。

メモ: 仮想マシンがバックアップからリストアされるとき、データディスクの仮想マシンデータは失われるか不完全になる可能性があります。

[既存のスナップショット処理 (Existing snapshot handling)] パラメータ (WMI)

このオプションは、NetBackup が仮想マシンバックアップの新しいスナップショットを作成する前に NetBackup スナップショットが発見されたときに NetBackup がとる処理を指定します。スナップショットを作成した後、NetBackup は通常はバックアップが成功したらスナップショットを削除します。

NetBackup スナップショットが存在する場合は中止

NetBackup バックアップで WMI バックアップ用に以前に作成された仮想マシンのスナップショット(チェックポイント)が存在する場合、NetBackup はその仮想マシンに対するジョブのみを中止します。このオプションは、NetBackup のデフォルトの操作です。

NetBackup nbhypervtool.exe ツールを使って、仮想サーバーの NetBackup スナップショットを削除できます。このツールは Hyper-V サーバーの次の場所にあります。

```
install_path\NetBackup\bin\nbhypervtool.exe
```

たとえば、VM の名前を指定してスナップショットを削除します。

```
nbhypervtool.exe deleteNbuCheckpoints -vmname VM_name
```

VM_name は VM の名前です。

VM の GUID を指定してスナップショットを削除するには

```
nbhypervtool.exe deleteNbuCheckpoints -vmguid VM_guid
```

ここで、VM_guid は VM の GUID です。

NetBackup スナップショットを削除してバックアップを続行

NetBackup で以前に作成された仮想マシンのスナップショットがある場合、NetBackup は古いスナップショットを削除し、更新済みのスナップショットを作成して、仮想マシンのバックアップを続行します。

p.40 の「Hyper-V - 高度な属性」を参照してください。

一貫性のレベルのパラメータ (WMI)

このオプションは、NetBackup によるスナップショットの作成前に仮想マシンの I/O が静止したかどうかを判断します。

- アプリケーション整合、次にクラッシュ整合 (Application consistent then crash consistent)

NetBackup は、アプリケーション整合スナップショットを作成するために仮想マシンで I/O を 2 回静止します。アプリケーション整合スナップショットの作成が 2 回とも失敗すると、NetBackup はクラッシュ整合スナップショットを作成してバックアップを続行します。(アプリケーション整合とクラッシュ整合について詳しくは別の 2 つのオプションを参照してください)。

- アプリケーション整合 (Application consistent)

この設定はデフォルトです。仮想マシンの I/O は NetBackup がスナップショットを作成する前に静止します。ファイルのアクティビティを静止しないと、スナップショットのデータの一貫性は保証されません。一貫性がない場合には、そのバックアップデータは、少ないか値が 0 になることがあります。

ほとんどの場合、デフォルトを受け入れてください。

メモ: 仮想マシンが保存済みまたは一時停止の状態である場合、静止することはできず、バックアップジョブは失敗します。別の整合性レベルオプションのいずれかを使用する必要があります。

[アプリケーション整合 (Application consistent)] オプションの次の前提条件に注意してください。

- 最新バージョンの **Hyper-V** 統合サービスをインストールして、それが **VM** 内で動作している必要があります。
- **Hyper-V** 統合サービスを **VM** 設定で有効にする必要があります。
- **クラッシュ整合 (Crash consistent)**
仮想マシン上の I/O を静止せずにスナップショットが作成されます。この場合、バックアップデータのデータ整合性の分析を手動で実行する必要があります。

注意: ほとんどの場合、[クラッシュ整合 (Crash consistent)] は推奨されません。この設定を使用した場合、スナップショットの作成時に **NetBackup** ですべての必要なデータをディスクにフラッシュできないことがあります。その結果、スナップショットで取得されるデータは完全ではないことがあります。

仮想ディスクの選択におけるディスクのエクスクルーードオプションについて

ブートディスクまたはデータディスクを除外するためには、次の要件に注意してください。

- 仮想マシンは複数のディスクを備えている必要があります。
- **NetBackup** ではブートディスクを識別する必要があります。
- ブートディスクは管理対象ボリューム (**Windows LDM** または **Linux LVM**) の一部分であってはなりません。ブートディスクは単一ディスクに完全に含まれている必要があります。

ブートディスクは次を含む必要があります。

- ブートパーティション。
- システムディレクトリ (**Windows** のシステムディレクトリまたは **Linux** のブートディレクトリ)。

重要! ディスクのエクスクルーードオプションは、次の場合のみを対象とします。

- [ブートディスクのエクスクルーード (**Exclude boot disk**)]: ブートドライブ用の仮想マシンテンプレートなど、ブートディスクを再作成する別の手段がある場合に、このオプションを検討します。[ブートディスクのエクスクルーード (**Exclude boot disk**)] が有効な場合、ポリシーはブートディスクをバックアップしません。

メモ: 仮想マシンがバックアップからリストアされる時、ブートディスクの仮想マシンデータは失われるか不完全になる可能性があります。

[ブートディスクのエクスクルード (Exclude boot disk)]では、次の点に注意してください。

- 仮想マシンにブートディスクのみがあり他のディスクがない場合、ブートディスクはバックアップされます。除外されません。
- 仮想ディスクを追加して、次のバックアップの前にこのオプションを変更すると、予想外の結果になることがあります。
p.45 の「」を参照してください。
- データディスクの除外に関して、次の点に注意してください。
 - 仮想マシンに 1 つのディスクのみ (C: など) が含まれている場合、ドライブ C はバックアップされ、除外されません。
 - 仮想マシンのブートディスクが独立したディスクで、さらに独立したデータディスクがある場合、ブートディスクはバックアップされます。ただし、NetBackup は独立したディスクのデータをバックアップできないため、リストアされたブートディスクにはデータが含まれません。

メモ: 仮想マシンがバックアップからリストアされる時、データディスクの仮想マシンデータは失われるか不完全になる可能性があります。

注意: これらの規則に従わない場合、[ディスクを除外 (Exclude disks)]オプションが予想外の結果を招く場合があります。

ブートディスクまたはデータディスクをエクスクルードしたバックアップからのデータのリストア

- [VM バックアップからのファイルリカバリを有効にする (Enable file recovery from VM backup)]がバックアップポリシーで有効になった場合: [仮想ディスクの選択 (Virtual disk selection)]オプションがエクスクルードしなかった仮想マシンのそれらの部分からの個々のファイルをリストアできます。
-

Hyper-V 仮想マシンの参照

Hyper-V 仮想マシンを参照する方法

- 1 NetBackup Web UI を開きます。
- 2 仮想マシンを追加するポリシーを開きます。
- 3 [クライアント (Clients)] タブで、[サーバー名 (Server name)] を入力します。
- 4 [手動で選択 (Select manually)] を選択します。
- 5 [追加 (Add)] ボタンを選択します。

次の表では、Hyper-V 仮想マシンの選択に使うことができるオプションを説明します。

表 4-5 Hyper-V 仮想マシンを選択するためのオプション

オプション	説明
VM 表示名を入力 (Enter the VM display name)	メモ: 入力する名前の種類は、ポリシーの [Hyper-V] タブにある [プライマリ VM 識別子 (Primary VM identifier)] 設定に応じて変わります。 仮想マシンのホスト名、表示名、または GUID を入力します。ホスト名または表示名の形式はシステムによって異なります。仮想マシン名は、ネットワーク構成およびゲスト OS での名前の定義方法に応じて、完全修飾名またはその他の名前になります。入力した名前または GUID が NetBackup で見つからない場合、ポリシー検証は失敗します。 [仮想マシンの参照 (Browse virtual machines)] オプションにチェックマークが付いていないことを確認します。
仮想マシンの参照 (Browse virtual machine)	Hyper-V Server またはクラスターノードを検出するためにこのオプションをクリックします (左ペインに表示)。リストから仮想マシンを選択できます (右ペインで)。 表示される仮想マシン名は、キャッシュファイルから導出されている可能性があります。使用するサイトに仮想マシンが多数存在する場合は、ネットワーク上で仮想マシンを再検出するよりもキャッシュファイルを使用する方が高速に処理できます。仮想マシンの電源が入っていない場合でも、キャッシュファイルを最後に作成したときに電源が入っていたなら、その名前がリストに表示されます。 仮想マシンの表示名が Hyper-V マネージャで最近変更された場合は、バックアップで使用された仮想マシン名は変更されないことに注意してください。 NetBackup が仮想マシンの IP アドレスを入手できない場合、IP アドレスは [NONE] と表示されます。

代替クライアントによる仮想マシンのバックアップの前提条件 (VSS)

VSS のバックアップ方式では、Hyper-V Server 以外のホストにインストールされている NetBackup クライアントを使用して、仮想マシンをバックアップできます。この別のホストは代替クライアントと呼ばれます。NetBackup クライアントは Hyper-V Server に存在する必要がありますが、このクライアントは仮想マシンのバックアップを実行しません。バックアップ I/O 処理は代替クライアントによって処理され、Hyper-V Server のコンピュータリソースの負担が減少します。

NetBackup メディアサーバーは、Hyper-V Server の代わりに代替クライアントにインストールできることに注意してください。この構成では、代替クライアントのホストがメディアサーバーの処理を実行します。

代替クライアントによる仮想マシンのバックアップについては、以下の前提条件に注意してください。

- VSS バックアップ方式である必要があります。
- VSS スナップショットプロバイダは、Hyper-V ライターでのトランスポート可能なスナップショットをサポートしている必要があります。トランスポート可能なスナップショットとは、代替クライアントにインポートできるスナップショットです。
VSS プロバイダのベンダーに確認します。
- VSS プロバイダは、プライマリクライアント (Hyper-V Server) と代替クライアントの両方にインストールする必要があります。
- すべての仮想マシンファイルは、Hyper-V ライターを使ったトランスポート可能なスナップショットが VSS プロバイダによってサポートされている Hyper-V ホストボリュームに存在する必要があります。
- プライマリクライアント (Hyper-V Server) と代替クライアントでは、同じ Windows オペレーティングシステム、ボリューム管理システム、ファイルシステムが実行されている必要があります。これらの各 I/O システムコンポーネントは、代替クライアントでは、プライマリクライアントで使用されているバージョン以上である必要があります。
- プライマリクライアントと代替クライアントは NetBackup の同じバージョンを実行する必要があります。たとえば、プライマリクライアントで NetBackup の新しいバージョンを使用し、代替クライアントで以前のバージョンを使用することはサポートされていません。

代替クライアントによる仮想マシンのバックアップの構成

このトピックでは、代替クライアントによるバックアップのポリシー作成に固有の詳細について説明します。このトピックは、より大まかな手順に対する補足です。ポリシー作成の詳細な手順については、次を参照してください。

p.32 の「[Hyper-V ポリシーの作成](#)」を参照してください。

代替クライアントによる仮想マシンのバックアップを構成する方法

- 1 NetBackup Web UI を開きます。
- 2 [保護 (Protection)]、[ポリシー (Policies)] の順に選択します。
- 3 [追加 (Add)] をクリックします。
- 4 [属性 (Attributes)] タブで、[Hyper-V] をポリシー形式として選択します。
- 5 バックアップのスケジュールを作成します。
- 6 [クライアント (Clients)] タブで、[サーバー名 (Server name)] を入力します。
- 7 [手動で選択 (Select manually)] を選択します。
- 8 [追加 (Add)] ボタンを選択します。

p.46 の「[Hyper-V 仮想マシンの参照](#)」を参照してください。

メモ: [バックアップ対象 (Backup selections)] タブは [ALL_LOCAL_DRIVES] に設定されます。

- 9 [Hyper-V] タブを選択し、[ボリュームシャドウコピーサービス (VSS) (Volume Shadow Copy Service (VSS))] を選択します。
 - 10 [オフホストバックアップを実行する (Perform off-host backup)] を選択し、[使用 (Use)] リストから [代替クライアント (Alternate client)] を選択します。[マシン (Machine)] フィールドに代替クライアントの名前を入力します。
 - 11 [Hyper-V] タブでその他のオプションを確認します。
- p.36 の「」を参照してください。
- 12 [作成 (Create)] を選択して検証し、ポリシーを保存します。

仮想マシン内の NetBackup クライアントの要件

NetBackup クライアントは Hyper-V Server に必要ですが、次の場合を除いて、仮想マシンには必要ありません。

- 仮想マシン内にある個々の仮想ドライブをバックアップする場合。たとえば、物理ホスト上にある場合と同様に vhd ファイル (または vhdx ファイル) 上にある仮想ドライブをバックアップする場合。
- パススルー構成で仮想マシンがアクセスする物理ディスクをバックアップする場合。VSS ハードウェアスナップショットプロバイダを使用してパススルー構成のディスクをバックアップするには、代替クライアント構成が必要です。

p.145 の「[NetBackup での Hyper-V パススルーディスクについて](#)」を参照してください。

- NetBackup エージェントを使用してデータベースまたはアプリケーションをバックアップする場合。

Hyper-V インテリジェントポリシーの設定

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup](#) の問い合わせ規則の基本原則
- [Hyper-V インテリジェントポリシーに関する重要な注意事項](#)
- [Hyper-V インテリジェントポリシーのための **NetBackup** の必要条件](#)
- [Hyper-V インテリジェントポリシーの設定: タスクの概要](#)
- [Hyper-V 仮想マシンを選択するためのオプション](#)
- [仮想マシンの自動選択の **Hyper-V** ポリシーの作成](#)
- [問い合わせビルダーの詳細モードでの使用](#)
- [問い合わせの AND と OR](#)
- [NetBackup 問い合わせビルダーの例](#)
- [問い合わせの **IsSet** 演算子](#)
- [改行文字を含む仮想マシンのメモの問い合わせ規則](#)
- [問い合わせビルダーのフィールドの参照](#)
- [Hyper-V の\[問い合わせのテスト \(**Test query**\)\]画面](#)

NetBackup の問い合わせ規則の基本原則

仮想マシンの自動選択の場合、NetBackup はバックアップ用を選択する Hyper-V 仮想マシンを判断するのに問い合わせ規則を使います。ポリシーの [クライアント (Clients)] タブの問い合わせビルダーで規則を作成します。

問い合わせ規則は次から成っています。

- 「Displayname」のようなキーワード (多くのキーワードが利用可能です)。
例: 特定の文字を含んでいる表示名を用いて仮想マシンを自動選択する場合は、規則に「Displayname」キーワードが必要です。
- 「Contains」、「StartsWith」、または「Equal」のような演算子。
演算子は、NetBackup がキーワードをどのように分析するかを記述します。例: 「Displayname StartsWith」では、特定の文字で始まる表示名が NetBackup により検索されます。
- キーワードの値。
「Displayname」キーワードの値が「prod」であるとしします。この場合、NetBackup は、表示名に「prod」という文字が含まれている仮想マシンを検索します。
- 問い合わせを調整または展開するための省略可能な結合要素 (AND、AND NOT、OR、OR NOT)。

ポリシーは、これらの要素を使って、バックアップ対象の仮想マシンを検出し、選択します。

表 5-1 に規則の例を示します。

表 5-1 規則の例

規則	説明
Displayname Contains "vm"	NetBackup は、表示名のどこかに文字 vm を含む仮想マシンを選択します。
Displayname EndsWith "vm"	NetBackup は、表示名が文字 vm で終わる仮想マシンを選択します。
HypervServer AnyOf "hv1", "hv2"	NetBackup は Hyper-V Server hv1 または hv2 上の仮想マシンを選択します。
Powerstate Equal poweredOn	NetBackup は、現在オンになっている仮想マシンのみを選択します。

Hyper-V インテリジェントポリシーに関する重要な注意事項

NetBackup の Hyper-V インテリジェントポリシーは、ポリシーにおける Hyper-V 仮想マシンの選択に対する別のアプローチです。この機能を有効に使用するには、事前の計画、準備、注意が必要です。

表 5-2 仮想マシンの自動選択に関する重要事項

注意	説明
慎重に規則を作成してください。	手動でバックアップ対象の仮想マシンを選択する代わりに、仮想マシンの自動選択のガイドラインを作成します。ガイドラインは規則と呼ばれます。ポリシーの問い合わせビルダーで規則を入力します。 規則を作成すると、NetBackup はそれらの規則に従います。 規則で、ホスト名に「prod」を含んでいる仮想マシンをバックアップするように決められている場合、NetBackup はそれを実行します。ホスト名に「prod」が含まれている環境に追加される仮想マシンは、自動的に選択され、ポリシー実行時にバックアップされます。「prod」を含まない名前の仮想マシンはバックアップされません。他の仮想マシンを自動的にバックアップさせるには、問い合わせ規則を変更 (または追加ポリシーを作成) する必要があります。
仮想環境への変更はバックアップ時間に影響する場合があります。	多くの仮想マシンが環境に一時的に追加され、問い合わせ規則の範囲内である場合、それらのマシンはバックアップされます。したがって、バックアップに予想以上の時間がかかる可能性があります。
問い合わせ規則をテストしてください。	問い合わせ規則を事前にテストしてください。ポリシーには、用途に合った問い合わせのテスト機能があります。問い合わせが予想どおりに動作したことを確認することが重要です。確認を怠ると、この問い合わせで選択する仮想マシンの数が誤って多くなりすぎたり、少なすぎたりする場合があります。 ポリシーの [プライマリ VM 識別子 (Primary VM identifier)] パラメータは、自動選択プロセスに影響する可能性があることにも注意してください。
問い合わせのテストはバックアップリストを作成しません。 NetBackup はバックアップリストをバックアップの実行時に作成します。	自動選択処理は動的です。仮想環境での変更が、バックアップ実行時に問い合わせ規則で選択する仮想マシンに影響する可能性があります。 メモ: 仮想マシンが変更された場合、バックアップ対象に選択された仮想マシンは問い合わせのテスト結果でリストされた仮想マシンと同一ではないことがあります。
ポリシーはバックアップされる仮想マシンのリストを表示しません。 アクティビティモニターを使用します。	仮想マシンを ([仮想マシンの参照 (Browse for Virtual Machines)] 画面で) 手動で選択した場合、選択した仮想マシンはポリシーの [クライアント (Clients)] タブに表示されます。ただし、問い合わせビルダーを自動選択に使用した場合、選択した仮想マシンは [クライアント (Clients)] タブのリストに表示されません。 バックアップされた仮想マシンのリストを表示するには、NetBackup アクティビティモニターを使用します。

注意	説明
ポリシーを保存するとき、問い合わせ規則は検証されません。	ポリシーを保存するとき、ポリシーの検証では問い合わせ規則が確認されず、バックアップ対象の仮想マシンは選択されません。仮想環境が変更される可能性があるため、仮想マシンの選択はバックアップの実行まで待つ必要があります。その結果、ポリシーを保存するとき、 NetBackup はバックアップリストとポリシー属性を照合しません。問い合わせ規則でポリシーの属性と互換性のない仮想マシンを選択した場合、ポリシーの検証ではそれに対してフラグを設定できません。不一致は、 NetBackup がバックアップ時にバックアップリストを判断するときに明らかになります。

Hyper-V インテリジェントポリシーのための NetBackup の必要条件

Hyper-V 仮想マシンの自動選択に関する次の必要条件に注意してください。

- **NetBackup** を実行するシステムには **Hyper-V Server** へのアクセス権が必要です。
- **Hyper-V** クラスタ内の VM をバックアップするポリシーの場合: **NetBackup** プライマリサーバーはクラスタのどの **Hyper-V** ノードにもインストールされていないようにします。プライマリサーバーがノードの 1 つにインストールされている場合、**NetBackup** Web UI にログインできません。
- ポリシーの[プライマリ VM 識別子 (Primary VM identifier)]オプションが[VM 表示名 (VM display name)]に設定されている場合、特定の特殊文字は名前で使用できません。
サポートされる文字は次のとおりです。ASCII 文字 a-z (大文字および小文字)、数字 0-9、ハイフン (-)、ピリオド (.), 下線文字 (_)、プラス記号 (+)、左右のカッコ (), スペース。
表示名にサポートされていない文字が含まれる場合には、[プライマリ VM 識別子 (Primary VM identifier)]を[VM GUID]に設定し、またはホスト名が利用可能な場合には[VM ホスト名 (VM hostname)]に設定してください。
- **Hyper-V** インテリジェントポリシーについてのサポート情報と追加要件については、次の文書を参照してください。

Hyper-V インテリジェントポリシーの設定: タスクの概要

ここでは、**Hyper-V** 仮想マシンの自動選択の **NetBackup** ポリシーを設定するための大まかな概要を示します。詳しくは表のリンク先を参照してください。

表 5-3 仮想マシンの自動選択: タスクの概要

自動選択を構成する手順	説明および注意事項
Hyper-V ポリシーの設定	ポリシーの[属性 (Attributes)]タブを使用します。 p.32 の「 Hyper-V ポリシーの作成 」を参照してください。
ポリシーの問い合わせビルダーで、仮想マシン選択の規則を設定します。	ポリシーの[クライアント (Clients)]タブで、[Hyper-V インテリジェントポリシーの問い合わせを通じて自動的に選択 (Select automatically through Hyper-V Intelligent Policy query)]をクリックします。 仮想マシン選択のホストを選択します (デフォルトは Hyper-V Server です)。 規則を追加するには問い合わせビルダーのドロップダウンフィールドを使います。 p.56 の「 仮想マシンの自動選択の Hyper-V ポリシーの作成 」を参照してください。 p.54 の「 Hyper-V 仮想マシンを選択するためのオプション 」を参照してください。
規則のテスト	[クライアント (Clients)]タブの問い合わせビルダーの[問い合わせのテスト (Test query)]をクリックします。仮想マシンは規則に基づいて[インクルード (Included)]または[エクスクルード (Excluded)]とラベル付けされます。 メモ: 仮想マシンのリストは[クライアント (Clients)]タブに保存されません。 メモ: 問い合わせ規則は[バックアップ対象 (Backup Selections)]タブにも表示されます。バックアップ対象は All_LOCAL_DRIVES に事前設定されます (表示されません)。
バックアップの実行	ポリシーの実行時に、NetBackup は問い合わせビルダーの規則を参照し、仮想マシンのリストを作成してそれらをバックアップします。
バックアップの確認	どの仮想マシンがバックアップされたかを確認するには、アクティビティモニターを使用します。

Hyper-V 仮想マシンを選択するためのオプション

このトピックでは、Hyper-V ポリシーのポリシー[クライアント (Clients)]タブのオプションについて説明します。NetBackup Web UI で、[保護 (Protection)]、[ポリシー (Policies)]の順にクリックし、Hyper-V ポリシーを開きます。

これらのオプションを使用して、手動で仮想マシンを選択したり、または NetBackup を構成して自動で仮想マシンを選択できます。自動選択する場合には、ポリシーの問い合わせビルダーで選択基準 (規則) を指定します。バックアップジョブが実行されると、NetBackup は現在条件を満たしている仮想マシンを検出し、それらの仮想マシンをバックアップします。

p.56 の「[仮想マシンの自動選択の Hyper-V ポリシーの作成](#)」を参照してください。

表 5-4 仮想マシンの選択オプション

オプション	説明
サーバー形式 (Server type)	NetBackup でバックアップを作成する VM を検索する環境の種類を選択します。
サーバー名 (Server name)	Hyper-V Server または SCVMM サーバーの名前を入力します。 クラスタ環境の場合は、次をメモします。 ■ クラスタ (または Hyper-V クラスタノードのいずれか) の名前を入力します。 ■ NetBackup Legacy Network Service ログオンをクラスタユーザーに設定します。 ■ NetBackup プライマリサーバーは、クラスタ内の Hyper-V ノードにインストールしないでください。プライマリサーバーがノードの 1 つにインストールされている場合、NetBackup Web UI にログオンできません。
手動で選択 (Select manually)	このオプションの[追加 (Add)]をクリックして、手動で仮想マシンの名前を入力するか、参照してリストから選択します。 p.46 の「 Hyper-V 仮想マシンの参照 」を参照してください。 メモ: 残りのフィールドとオプションは、仮想マシンの自動選択に使用します。
Hyper-V インテリジェントポリシーの問い合わせを通じて自動的に選択 (Select automatically through Hyper-V Intelligent Policy query)	このオプションをクリックすると、NetBackup は、問い合わせビルダーに入力した規則に基づき、バックアップに必要な仮想マシンを自動的に選択します。

表 5-5 問い合わせビルダー

オプション	説明
問い合わせビルダー (Query Builder) ([結合 (Join)], [フィールド (Field)], [演算子 (Operator)], [値 (Value)])	これらのフィールドを使用して、仮想マシンの自動選択の規則を定義します。各フィールドを左から右に向かって指定して、規則を調整します。 [追加 (Add)]を選択して、[問い合わせ (Query)]ペインにこの規則を追加します。 問い合わせの選択をクリアするには、[リセット (Reset)]オプションを選択します。 p.63 の「 問い合わせビルダーのフィールドの参照 」を参照してください。 p.59 の「 NetBackup 問い合わせビルダーの例 」を参照してください。
詳細モード (Advanced mode)	規則を手動入力するには、問い合わせビルダーを詳細モードにします。 p.58 の「 問い合わせビルダーの詳細モードでの使用 」を参照してください。 p.63 の「 問い合わせビルダーのフィールドの参照 」を参照してください。 p.59 の「 NetBackup 問い合わせビルダーの例 」を参照してください。

オプション	説明
基本モード (Basic mode)	問い合わせビルダーを基本モードにします。 p.63 の「 問い合わせビルダーのフィールドの参照 」を参照してください。
[処理 (Actions)]>[編集 (Edit)]	基本モードで既存の問い合わせ規則を変更するには、このオプションを次のように使います。 ■ 規則を特定し、次に[編集 (Edit)]をクリックします。 ■ 問い合わせビルダーのフィールドで新しい選択を行います。 ■ [保存 (Save)]をクリックします。
[処理 (Actions)]、[削除 (Remove)]	基本モードの場合に問い合わせ規則を削除します。
問い合わせのテスト (Test query)	このオプションをクリックすると、NetBackup が問い合わせビルダーの規則に基づいてどの仮想マシンを選択するかをテストできます。 メモ: このテストオプションは、ポリシーのバックアップリストを作成しません。次のバックアップがこのポリシーから実行されるとき、NetBackup は仮想マシンを再検出し、問い合わせ規則を確認します。この場合、NetBackup は規則と一致する仮想マシンをバックアップします。

仮想マシンの自動選択の Hyper-V ポリシーの作成

NetBackup は入力された条件に基づいてバックアップ対象の Hyper-V 仮想マシンを自動的に選択できます。NetBackup ポリシーの[クライアント (Clients)]タブにある問い合わせビルダーで条件 (規則) を指定します。規則を設定して、バックアップ対象として特定の仮想マシンを含めたり、仮想マシンを除外したりできます。問い合わせビルダーは基本モードまたは詳細モードで動作できます。

バックアップジョブが実行されると、NetBackup は現在問い合わせ規則を満たしている仮想マシンのリストを作成し、それらの仮想マシンをバックアップします。

基本モードで仮想マシンの自動選択を構成する方法

- 1 NetBackup Web UI を開きます。
- 2 左側で[保護 (Protection)]、[ポリシー (Policies)]の順に選択します。
- 3 [追加 (Add)]ボタンを選択します。
- 4 [属性 (Attributes)]タブで、ポリシー形式に[Hyper-V]を選択します。
- 5 必要に応じて、他のポリシーを選択します (たとえば、スケジュールを作成します)。
- 6 [クライアント (Clients)]タブを選択し、オプション[Hyper-V インテリジェントポリシーの問い合わせを通じて自動的に選択 (Select automatically through Hyper-V Intelligent Policy query)]を選択します。

[手動で選択 (Select manually)]オプションを使用して仮想マシンを選択した場合、これらの仮想マシンはポリシーから削除されます。

7 [サーバーの種類 (Server type)]を選択します。

このオプションでは、**NetBackup** でバックアップする VM を検索する環境の種類を指定します。

Hyper-V Standalone/Cluster スタンドアロンの Hyper-V Server またはクラスタ。

System Center Virtual Machine Manager Hyper-V Server またはクラスタを管理する SCVMM サーバー。

8 [サーバー名 (Server name)]には、Hyper-V Server、クラスタ、SCVMM サーバーのいずれかの名前を入力します。

重要: IPv6 アドレスは[サーバー名 (Server Name)]ではサポートされません。代わりに完全修飾ドメイン名 (FQDN) またはホスト名を使用してください。

別のトピックで、SCVMM の必要条件について説明します。

クラスタ環境の場合は、次の点に注意します。

- クラスタ (または Hyper-V クラスタノードのいずれか) の名前を[サーバー名 (Server Name)]フィールドに入力します。
- **NetBackup Legacy Network Service** ログオンをドメインユーザーアカウントに設定します。
- **NetBackup** プライマリサーバーは、クラスタ内の Hyper-V ノードにインストールしないでください。プライマリサーバーがノードの 1 つにインストールされている場合、**NetBackup Web UI** にログオンできません。

9 [基本モード (Basic mode)]タブを選択します。規則を作成するには、問い合わせビルダーのフィールドから選択します。

- 最初の規則を使用する場合は、規則の形式にもよりますが、最初は[フィールド (Field)]リストを使用してください。最初の規則の場合、[結合 (Join)]フィールドで利用可能な唯一の選択肢は空白 (なし) または **NOT** です。
[フィールド (Field)]のキーワードを選択します。

- [演算子 (Operator)]を選択します。

- [値 (Value)]を示します。
手動で値を入力できます (一重または二重引用符で値を囲みます)。
フォルダアイコンをクリックして、値を参照することもできます。[フィールド (Field)]キーワードによっては、[値 (Value)]リストを使って値を選択できます。
フォルダアイコンを使って参照すると、大規模な環境では時間がかかることがあるので注意してください。

p.63 の「[問い合わせビルダーのフィールドの参照](#)」を参照してください。

矢印アイコンは、[結合 (Join)]、[フィールド (Field)]、[演算子 (Operator)]、[値 (Value)]フィールドを空白にリセットします。

10 [追加 (Add)] ボタンを選択して、[問い合わせ (Query)] ペインにこの規則を追加します。

11 他の規則を必要に応じて作成します。

p.63 の「[問い合わせビルダーのフィールドの参照](#)」を参照してください。

p.59 の「[NetBackup 問い合わせビルダーの例](#)」を参照してください。

12 問い合わせに基づいて NetBackup が現在選択している仮想マシンを参照するには、[問い合わせのテスト (Test query)] をクリックします。

ポリシーの選択の規則と一致する現在の環境の仮想マシンには、[インクルード (Included)] というラベルが付いています。ただし、[問い合わせのテスト (Test query)] オプションではポリシーのバックアップリストが作成されないので注意してください。次のバックアップがこのポリシーから実行されるとき、NetBackup は仮想マシンを再検出し、問い合わせ規則を確認します。この場合、NetBackup は問い合わせ規則と一致する仮想マシンをバックアップします。

仮想マシンのリストは保存されますが、ポリシーの[クライアント (Clients)] タブには仮想マシンは表示されません。

問い合わせビルダーの詳細モードでの使用

問い合わせビルダーの詳細モードを使用すると、グループ化のカッコの使用など、仮想マシンの選択規則をより柔軟に作成できます。

詳細モードで問い合わせビルダーを使用する方法

1 NetBackup Web UI を開きます。

2 左側で[保護 (Protection)]、[ポリシー (Policies)]の順に選択します。

3 Hyper-V ポリシーを作成して Hyper-V Server を指定します。

補足情報については、次の項の最初のいくつかの手順を参照してください。

p.56 の「[仮想マシンの自動選択の Hyper-V ポリシーの作成](#)」を参照してください。

4 [クライアント (Clients)] タブを選択します。

5 オプション[Hyper-V インテリジェントポリシーの問い合わせを通じて自動的に選択 (Select automatically through Hyper-V Intelligent Policy query)]を選択します。

6 問い合わせビルダーを特定し、[詳細モード (Advanced mode)] タブを選択します。

7 問い合わせビルダーのフィールドを使用して、問い合わせ規則を追加できます。規則を手動で入力することもできます。

例:

```
Displayname Contains "vm"
```

- 8 規則を既存の規則に挿入するには、新しい規則の開始位置にカーソルを配置し、その規則を入力します。

フィールドで作成した規則は、問い合わせの最後に表示されます。その規則を別の場所にカットアンドペーストできます。
- 9 複合問い合わせ上に評価順序を正しく作成するためには、必要に応じカッコを使って規則をグループ化します。複合問い合わせには、AND、AND NOT、OR、または OR NOT で結合された 2 つ以上の規則が含まれます。

問い合わせの AND と OR

問い合わせビルダーの[結合 (Join)]フィールドは、規則を結合するためのコネクタを提供します (AND、AND NOT、OR、OR NOT)。問い合わせビルダーでの AND と OR の効果は、一見、明らかではないことがあります。

要するに、AND と OR は次のように機能します。

- AND は問い合わせの範囲を制限または限定します。
- OR は、問い合わせでの追加を可能にし、問い合わせの範囲を拡張します。

注意: バックアップリストに追加の仮想マシンを含めることを目的とした規則を結合するのに AND を使わないでください。たとえば、AND は、「仮想マシン X および仮想マシン Y を含める」ことを意味するために使うことはできません。

例: 名前に「vm1」か「vm2」を含む仮想マシンを含めるには、OR を使用して規則を結合します。

```
Displayname Contains "vm1"  
OR Displayname Contains "vm2"
```

これらの規則を結合するのに AND を使用した場合:

```
Displayname Contains "vm1"  
AND Displayname Contains "vm2"
```

結果は異なります。バックアップリストには、名前に vm1 と vm2 の両方を含む仮想マシン (「acmevm1vm2」など) のみが含まれます。「acmevm1」の名前の仮想マシンはバックアップリストに含まれません。

NetBackup 問い合わせビルダーの例

次の表に、問い合わせ規則の例を示します。問い合わせビルダーを使うには、[クライアント (Client)] タブ上で [Hyper-V インテリジェントポリシーの問い合わせを通じて自動的に選択 (Select automatically through Hyper-V Intelligent Policy query)] を選択する必要があります。

利用可能な問い合わせビルダーのキーワードは、ポリシーの[クライアント (Clients)]タブで選択した[サーバー形式 (Server Type)]によって異なるため、次の例は 2 つのグループに分けられます。

- 表 5-6 では、サーバー形式[Hyper-V スタンドアロン/クラスタ (Hyper-V Standalone/Cluster)]の例を示します。
- 表 5-7 では、サーバー形式[System Center Virtual Machine Manager]の例を示します。

詳細モードで問い合わせ規則を参照するには、[詳細モード (Advanced mode)]を選択します。一連の規則をグループ化するためのカッコの使用は、このモードでのみサポートされます。

表 5-6 サーバー形式[Hyper-V スタンドアロン/クラスタ (Hyper-V Standalone/Cluster)]の問い合わせビルダーの例

問い合わせの例	バックアップジョブの実行時の問い合わせ結果
問い合わせ規則を指定しない ([問い合わせ (Query)] ペインは空)	すべての仮想マシンがバックアップリストに追加されます。ホスト名を持たないか、または表示名に無効な文字がある仮想マシンは例外です。
Displayname Contains "prod"	表示名に文字列「prod」が含まれるすべての仮想マシンがバックアップリストに追加されます。
Displayname AnyOf "grayfox7", "grayfox9"	「grayfox7」と「grayfox9」という名前の仮想マシンがバックアップリストに追加されます。各値をそれぞれ引用符で囲み、カンマで区切る必要があることに注意してください。
powerstate Equal "poweredOn"	電源が入っているすべての仮想マシンがバックアップリストに追加されます。
powerstate Equal "poweredOn" AND HypervServer Equal "HV_serv1"	電源が入っている状態で、Hyper-V Server HV_serv1 上に存在するすべての仮想マシンがバックアップリストに追加されます。
IsClustered Equal TRUE	クラスタ Hyper-V Server 内にあるすべての仮想マシンがバックアップリストに追加されます。
Displayname Contains "pre-prod" AND IsClustered Equal FALSE	「pre-prod」を含む表示名で、クラスタ Hyper-V Server 内に存在しないすべての仮想マシンがバックアップリストに追加されます。
IsClustered Equal TRUE AND Notes Contains "pre-prod"	クラスタ Hyper-V Server 内にある仮想マシンがその[注意事項 (Notes)]フィールドに「pre-prod」を含む場合、その仮想マシンをバックアップリストに追加します。
Displayname StartsWith "prod" OR Notes Contains "prod"	表示名が「prod」で始まるか、[注意事項 (Notes)]に「prod」を含む仮想マシンをバックアップリストに追加します。
ConfigurationVersion Greater "5"	5 よりも大きい VM 構成バージョンを持つ仮想マシンをバックアップリストに追加します。

表 5-7 サーバー形式[System Center Virtual Machine Manager]の問い合わせビルダーの例

問い合わせの例	バックアップジョブの実行時の問い合わせ結果
Name StartsWith "prod"	「prod」で始まる表示名を持つすべての VM をバックアップリストに追加します。 メモ: SCVMM にある VM の場合は、その電源がオフになっている状態でも、Hyper-V インテリジェントポリシーでホスト名を使ってその VM をバックアップできます。この例では、ポリシーの[プライマリ VM 識別子 (Primary VM identifier)]が[VM ホスト名 (VM hostname)]に設定されている場合でも、電源がオンまたはオフであるかに関係なく VM がバックアップリストに追加されます。
Displayname Contains "VM"	「VM」を含むネットワークホスト名を持つすべての VM をバックアップリストに追加します。 Name StartsWith "prod" の例について、この表の注意事項を参照してください。
VMHost AnyOf "hv1","hv2" AND Description Contains "pre-prod"	[説明 (Description)]フィールドに「pre-prod」を含み、Hyper-V Server「hv1」または「hv2」に存在するすべての VM をバックアップリストに追加します。 SCVMM の[説明 (Description)]フィールドは、Hyper-V の VM の[メモ (Notes)]フィールドに似ています。
Generation Equal "2"	[生成 (Generation)]が 2 のすべての VM をバックアップリストに追加します。
IsUndergoingLiveMigration Equal FALSE	ライブマイグレーション中でないすべての VM をバックアップリストに追加します。
VirtualMachineState Equal "Running"	実行中のすべての VM をバックアップリストに追加します。
Cloud Contains "cloud9" AND HasSharedStorage Equal TRUE	VM が共有ストレージを持つクラスタ内にある場合に、名前に cloud9 を含む SCVMM クラウドの一部である VM をすべてバックアップリストに追加します。
IsHighlyAvailable Equal TRUE AND IsFaultTolerant Equal FALSE	CSV クラスタに存在し、耐障害性のマークが付けられていないすべての VM をバックアップリストに追加します。
VMConfigurationVersion Greater "5"	5 よりも大きい VM 構成バージョンを持つ仮想マシンをバックアップリストに追加します。

問い合わせの IsSet 演算子

問い合わせでは、IsSet 演算子を使用して、ある特定の仮想マシンをバックアップに含めるか、バックアップから除外できます。

例: Notes が関連付けられていないバックアップリストから仮想マシンを除外するのに IsSet を使用できます。

表 5-8 IsSet 演算子を使用した問い合わせの例

IsSet 演算子を使用した問い合わせ規則	仮想マシンの選択に対する問い合わせの影響
Displayname Contains "prod" AND Notes IsSet	INCLUDED: 仮想マシンに Notes がある場合で、表示名に文字列「prod」を含んでいる仮想マシン。 EXCLUDED: Notes がない仮想マシン。 この問い合わせに Notes IsSet がなければ、Notes のない仮想マシンは除外できません。
クラスタに含まれる「dev」 AND Notes IsSet	INCLUDED: クラスタ内の仮想マシンに Notes も存在する場合に、名前に文字列「dev」が含まれるクラスタ内の仮想マシン。 EXCLUDED: Notes がない仮想マシンと、Notes はあるが名前に「dev」が含まれているクラスタ内にはない仮想マシン。 この問い合わせに Notes がなければ、Notes のない仮想マシンは除外できません。

ポリシーの[プライマリ VM 識別子 (Primary VM identifier)]パラメータは、NetBackup がどの仮想マシンをバックアップできるかに大きく影響します。このパラメータは問い合わせのテスト結果に影響します。

改行文字を含む仮想マシンのメモの問い合わせ規則

仮想マシンのメモに改行文字が含まれる場合は、問い合わせビルダーのフォルダアイコンを使って参照すると正しい値を返さないことがあります。その結果、問い合わせ規則はバックアップする VM を選択しない場合があります。

例: 次の単語の間に改行が含まれる VM のメモの場合

Server Location
Building A

参照アイコンは、「Aを構築するサーバーロケーション」を返します。問い合わせ規則の結果は次のとおりです。

Notes Contains "Server Location Building A"

改行文字が問い合わせに含まれていないので、VM のバックアップが作成されない場合があります。バックアップに VM を含めるには、参照アイコンを使わずに問い合わせを手動で作成します。

この例では、次の問い合わせを作成します: Notes Contains "Server Location"
AND Notes Contains "Building A"。

問い合わせビルダーのフィールドの参照

問い合わせビルダーを使って、バックアップする仮想マシンを自動選択する規則を入力できます。

表 5-9 は問い合わせビルダーで規則を作成するためのドロップダウンフィールドとオプションの説明です。

表 5-9 問い合わせビルダーのドロップダウンオプション: [結合 (Join)]、
[フィールド (Field)]、[演算子 (Operator)]、[値 (Value)]

問い合わせビルダーのドロップダウンフィールド	説明
結合 (Join)	規則を結合するコネクタを選択します。 最初の規則には、ブランク (なし) または NOT のいずれかを選択します。規則を追加した後、利用可能なコネクタは、AND、AND NOT、OR、OR NOT です。
フィールド (Field)	規則を構築するパラメータを選択します。 p.64 の 表 5-10 を参照してください。
演算子 (Operator)	演算子を選択します。 p.67 の 表 5-12 を参照してください。
値 (Value(s))	[フィールド (Field)]パラメータの値を指定します。 入力する値は、一重引用符または二重引用符で囲む必要があります。複数の値をカンマで区切って指定できます。 p.69 の 表 5-13 を参照してください。
参照	他のドロップダウンフィールドでの選択内容に応じて、値を参照できます。
追加	ドロップダウンで現在選択している内容を、新しい規則として[問い合わせ (Query)]ペインに追加します。
	問い合わせフィールドをデフォルト値にリセットします。

[フィールド (Field)](キーワード)

次の表に、[フィールド (Field)]ドロップダウンで利用可能なキーワードを示します。この表では、([値 (Values)]フィールドの) 各キーワードの値で大文字と小文字が区別されるかどうかを示します。

[フィールド (Field)]キーワード自体により、仮想マシンが含まれるか、除外されるかが決定されないことに注意してください。仮想マシンの選択は、構築する規則 ([結合 (Join)]、[フィールド (Field)]、[演算子 (Operator)]、[値 (Value(s))]) に基づきます。

利用可能なキーワードは、選択した[サーバー形式 (Server Type)]によって異なります。

- [Hyper-V スタンドアロン/クラスタ (Hyper-V Standalone/Cluster)] キーワードの説明については、表 5-10を参照してください。
- [System Center Virtual Machine Manager] キーワードの説明については、表 5-11を参照してください。

表 5-10 サーバー形式 [Hyper-V スタンドアロン/クラスタ (Hyper-V Standalone/Cluster)] の場合: [フィールド (Field)] ドロップダウンのキーワード

フィールドキーワード	データ形式	説明
ConfigurationVersion	数字	仮想マシンの構成バージョン。
Displayname	英数字の文字列	仮想マシンの表示名。 値は大文字と小文字が区別されます。
HypervServer	英数字の文字列	Hyper-V Server の名前。 値は大文字と小文字が区別されません。
IsClustered	ブール値	仮想マシンがクラスタ内の Hyper-V Server にある場合、TRUE です。
Notes	英数字の文字列	Hyper-V マネージャの仮想マシンの[概略 (Summary)]タブに仮想マシンについて記録された注意事項。 値は大文字と小文字が区別されます。
Powerstate	英字	仮想マシンの状態。 値は、poweredOff、poweredOn、suspended、starting、offCritical です。

表 5-11 サーバーの種類が[System Center Virtual Machine Manager]の場合は、[フィールド (Field)]ドロップダウンリストのキーワード

フィールドキーワード	データ形式	説明
BackupEnabled	ブール値	BackupEnabled プロパティが統合サービスで有効な場合は TRUE。
クラウド (Cloud)	英数字の文字列	VM を一部として含む SCVMM クラウドの名前。 値は大文字と小文字が区別されません。
CloudVMRoleName	英数字の文字列	SCVMM クラウドの VM ロールの名前。 値は大文字と小文字が区別されません。
ComputerName	英数字の文字列	VM のネットワークホスト名。 値は大文字と小文字が区別されません。

フィールドキーワード	データ形式	説明
CostCenter	英数字の文字列	VM のコストセンター名。 値は大文字と小文字が区別されません。
説明 (Description)	英数字の文字列	SCVMM での VM の説明。このフィールドは Hyper-V の VM のメモフィールドに似ています。 値は大文字と小文字が区別されます。 メモ: VM の説明フィールドに改行文字が含まれる場合は、問い合わせビルダーのフォルダアイコンを使って参照すると正しい値を返さないことがあります。
DRState	英数字の文字列	VM のディザスタリカバリの状態。 値は Disabled または Enabled です。
世代 (Generation)	数字の文字列	SCVMM サーバーが管理する VM の数字の[世代 (Generation)] (またはタイプ)。
HasPassThroughDisk	ブール値	VM にパススルーディスクが構成されている場合は TRUE。
HasSharedStorage	ブール値	共有ストレージが構成されたクラスタ内に VM が存在する場合は TRUE。
HasVirtualFibreChannelAdapters	ブール値	VM が仮想ファイバーチャネルアダプタを搭載している場合は TRUE。これらのアダプタによって、Hyper-V VM がファイバーチャネル SAN アレイリソースに直接にアクセスできるようになります。
HostGroupPath	英数字の文字列	VM への完全なホストグループパス。 値は大文字と小文字が区別されません。
IsDREnabled	ブール値	Microsoft Azure Site Recovery Provider (旧名 Hyper-V Recovery Manager) で VM のディザスタリカバ리를管理している場合は TRUE。
IsFaultTolerant	ブール値	VM に耐障害性のマークが付けられている場合 (ホスト障害の場合でも中断することなく実行可能な場合) は TRUE。
IsHighlyAvailable	ブール値	仮想マシンが CSV クラスタ内の Hyper-V Server にある場合は TRUE。
IsPrimaryVM	ブール値	VM がセカンダリ VMM サイトにレプリケートされるように構成されているプライマリ VM である場合は TRUE。
IsRecoveryVM	ブール値	VM がセカンダリ Virtual Machine Manager (VMM) サイトでの (プライマリ VM の) レプリケートコピーである場合は TRUE。

フィールドキーワード	データ形式	説明
IsTestReplicaVM	ブール値	VM がフェールオーバーテスト用に Microsoft Azure Site Recovery Provider (旧名 Hyper-V Recovery Manager) で指定されたレプリケートコピーである場合は TRUE。テストフェールオーバーはレプリカ VM で開始され、本番サイトまたは実行中のレプリケーションを中断することなく仮想化ワークロードをテストします。 IsTestReplicaVM Equal 'FALSE' といった問い合わせを作成することにより、そのような VM をバックアップから除外できます。
IsUndergoingLiveMigration	ブール値	VM が Hyper-V ライブマイグレーション機能により、ある Hyper-V Server から別の Hyper-V Server に移行中の場合は TRUE。
名前 (Name)	英数字の文字列	SCVMM での VM の表示名。 値は大文字と小文字が区別されます。
OperatingSystem	英数字の文字列	VM のゲストオペレーティングシステム。 値は大文字と小文字が区別されません。
所有者 (Owner)	英数字の文字列	VM の所有者の名前。 値は大文字と小文字が区別されません。
RecoveryPointObjective	数字	この VM のリカバリポイント目標 (RPO) 値。 RPO は、時間の経過とともに測定される最大許容データ損失です。バックアップストレージでは、RPO はエラーが発生する場合に正常な動作を再開するために必要なデータの最大の経過時間です。たとえば、RPO を 30 分に設定すると、30 分ごとにシステムのバックアップが必要になります。
タグ (Tag)	英数字の文字列	タグの名前。タグとは、NetBackup での VM の論理グループの文字列です。 値は大文字と小文字が区別されません。
TotalSize	数字	VM のすべての VHD のディスクの合計サイズ(バイト単位)です。
UserRole	英数字の文字列	管理者、ファブリック管理者またはテナント管理者など、VM が関与しているユーザーロール。 値は大文字と小文字が区別されません。
VirtualMachineState	英数字の文字列	仮想マシンの電源の状態。 値は大文字と小文字が区別されません。 Hyper-V には、PowerOff や Running など VM の状態を表す多くの可能値があります。

フィールドキーワード	データ形式	説明
VMConfigurationVersion	数字	仮想マシンの構成バージョン。 次の点に注意してください。 このオプションは SCVMM 2016 以降でのみ機能します。SCVMM 2012 で、仮想マシンの構成バージョンは使用できないため、NetBackup では構成バージョンを取得できません。NetBackup プライマリサーバーが SCVMM 2016 および SCVMM 2012 を保護する場合、VMConfigurationVersion を IsSet 演算子と使用できます。例: Name Contains "Production" AND VMConfigurationVersion IsSet AND VMConfigurationVersion Greater "5.0" この例では、SCVMM 2012 の仮想マシンが選択されています。VMConfigurationVersion IsSet 規則が「false」を返すためです。SCVMM 2016 では、VMConfigurationVersion IsSet は「true」を返します。問い合わせは名前に「Production」を含み、5.0 以降の構成バージョンである仮想マシンを選択できます。
VMHost	英数字の文字列	この VM の Hyper-V ホストの名前。 値は大文字と小文字が区別されません。
VMResource	英数字の文字列	高可用性 VM のリソース。 値は大文字と小文字が区別されません。
VMResourceGroup	英数字の文字列	高可用性 VM のリソースグループ。 値は大文字と小文字が区別されません。

演算子

表 5-12 では、[演算子 (Operator)] ドロップダウンリストで利用可能な演算子について説明しています。

表 5-12 [演算子 (Operator)] ドロップダウンの演算子

演算子	説明
AnyOf	[値 (Value(s))] フィールドで指定した値のいずれかに一致します。 たとえば、[値 (Value(s))] フィールドの表示名が「vm01」、「vm02」、「vm03」である場合、AnyOf はこれらのいずれかの名前を持つ VM に一致します。VM の名前が指定したどの値とも同一でなければ、一致しません。「vm01A」と名付けられた VM は一致しません。

演算子	説明
Contains	[値 (Value(s))]フィールドの値が文字列に出現する場合、その値と一致します。 たとえば、[値 (Value(s))]エントリが「dev」である場合、 Contains は「01dev」、「01dev99」、「devOP」、「Development_machine」などの文字列と一致します。
EndsWith	[値 (Value(s))]フィールドの値が文字列の末尾に出現する場合、その値と一致します。 たとえば、[値 (Value(s))]エントリが「dev」である場合、 EndsWith は「01dev」という文字列とは一致しますが、「01dev99」、「devOP」、「Development_machine」とは一致しません。
Equal	[値 (Value(s))]フィールドで指定した値にのみ一致します。 たとえば、検索対象の表示名が「VMtest27」の場合、 Equal は「VMTest27」、「vmtest27」、「vmTEST27」などの仮想マシン名と一致します。「VMtest28」という名前とは一致しません。
Greater	ASCII の照合順序に従って、指定した値より大きい値と一致します。
GreaterEqual	ASCII の照合順序に従って、指定した値以上の値と一致します。
IsSet	値が[フィールド (Field)]のキーワードに対して返されるかどうかを判断します。 IsSet は別の規則と組み合わせて条件として使用し、問い合わせが適切な仮想マシンを確実に選択するようにします。 IsSet を使う規則では、[値 (Value(s))] にエントリを作成しないことに注意してください。
Less	ASCII の照合順序に従って、指定した値より小さい値と一致します。
LessEqual	ASCII の照合順序に従って、指定した値以下の値と一致します。
NotEqual	[値 (Value(s))]フィールドの値と等しくない値と一致します。
StartsWith	[値 (Value(s))]フィールドの値が文字列の最初に出現する場合、その値と一致します。 たとえば、[値 (Value(s))]エントリが「box」の場合、 StartsWith は文字列「box_car」と一致し、「flat_box」と一致しません。

値

表 5-13 は、[値 (Value)]フィールドに入力できる文字について説明しています。[フィールド (Field)]のキーワードでは、大文字と小文字が区別されます。

メモ: [値 (Value)]フィールドで入力する文字列は、一重引用符か二重引用符で囲む必要があります。

表 5-13 [値 (Value)]に入力できる文字

文字の種類	許可される文字列
英数字	A から Z、a から z、0 から 9 (10 進法)、次の特殊文字。 , ~ ! @ \$ % ^ & * () ` - _ = + [] { } ¥ : ; , . < > / ? メモ: ポリシーの[プライマリ VM 識別子 (Primary VM identifier)]オプションを[VM 表示名 (VM display name)]に設定すると、仮想マシンの表示名では次の文字のみがサポートされます: A から Z、a から z、0 から 9、ハイフン (-)、ピリオド (.), 下線文字 (_)、プラス記号 (+)、左右のカッコ ()、スペース。
ワイルドカード	* (アスタリスク) はすべてと一致します。 たとえば、「*prod*」は任意の文字の前または後に付く「prod」という文字列と一致します。 ? (疑問符) は、すべての単一文字と一致します。 たとえば、「prod??」は任意の 2 文字の前に付く「prod」という文字列と一致します。
エスケープ文字	¥ (円記号) は、それに続くワイルドカードまたはメタ文字をエスケープ処理します。 たとえば、アスタリスクを含んでいる文字列 (test* など) を検索するには、「test¥*」と入力します。
引用符	[値 (Value(s)) で入力する文字は一重引用符または二重引用符で囲む必要があることに注意してください。 引用符を含んでいる文字列を検索するには、各引用符をエスケープ処理するか (¥"), または別の形式の引用符で文字列全体を囲みます。 たとえば、二重引用符を含んでいる文字列 ("name" など) を検索するには、'"name"' (一重引用符で囲む) または "¥"name¥" と入力します。

Hyper-V の[問い合わせのテスト (Test query)]画面

この画面は[問い合わせのテスト (Test query)]をクリックしたときに NetBackup が仮想環境で検出した仮想マシンをリストします。仮想環境を後で変更すると、問い合わせの規則に適合する仮想マシンが変更される可能性があります。たとえば、仮想マシンが追加されると、テスト結果は、バックアップ実行時にバックアップのために選択される仮想マシンと同一ではないことがあります。

次のバックアップがこのポリシーから実行される場合、NetBackup は仮想マシンを再検出し、問い合わせ規則を確認して、規則と一致する仮想マシンをバックアップします。

バックアップされた仮想マシンのリストは保存されますが、仮想マシンはポリシーの[クライアント (Clients)]タブに表示されません。アクティビティモニターを使用して仮想マシンのジョブを表示できます。

[問い合わせのテスト (Test query)]機能はバックグラウンドで実行されます。テストの実行中、ポリシーの構成を続行できます。ただし、問い合わせビルダーで加えた変更は、現

在执行中のテストに含まれません。問い合わせビルダーの変更の結果を参照するには、テストを再度開始する必要があります。

問い合わせ (Query)	問い合わせ条件。
すべて (All)	NetBackup 環境内にある VM の数を表示します。
インクルード (Included)	問い合わせ条件に一致する VM の数を表示します。
エクスクルード (Excluded)	問い合わせ条件に一致しない VM の数を表示します。
失敗 (Failed)	仮想マシンは、ホスト名の問題か他のエラーが原因でバックアップ対象として選択できません。また、問い合わせはこの仮想マシンをエクスクルードすることはできません。 VM に説明が含まれています。例: VM does not have a host name to use as a client name, display name = IsSet 演算子はそのような仮想マシンをフィルタで除外するために使うことができます。IsSet に関する詳細情報が利用可能です。
VM のリスト	選択したタブに基づいた、NetBackup 環境内にある VM の名前。

NetBackup Hyper-V for SCVMM

この章では以下の項目について説明しています。

- [SCVMM 環境での仮想マシンのバックアップについて](#)
- [SCVMM を導入した NetBackup for Hyper-V の注意事項](#)
- [ローカライズされた SCVMM 環境の VM をバックアップする問い合わせの作成](#)

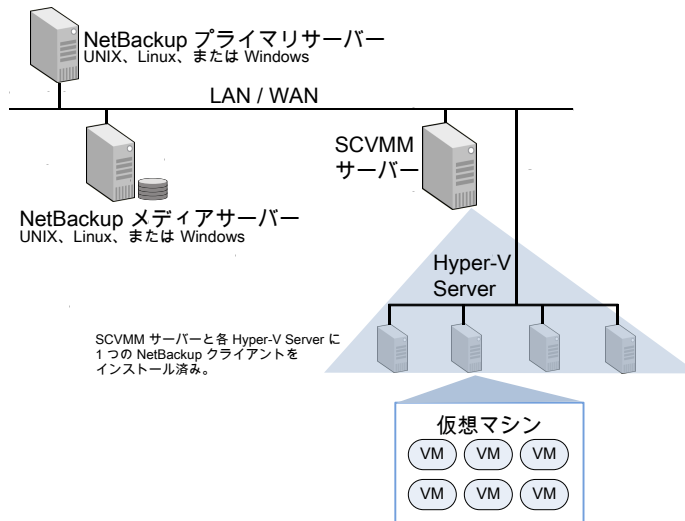
SCVMM 環境での仮想マシンのバックアップについて

NetBackup Hyper-V インテリジェントポリシーは Microsoft 社の SCVMM (System Center Virtual Machine Manager) で管理される VM を保護できます。ポリシーの問い合わせビルダーの問い合わせによって、ポリシーは SCVMM で管理するすべての Hyper-V Server 上の VM を検出して、バックアップできます。

メモ: VM をリストアするには、NetBackup バックアップ、アーカイブ、リストアインターフェースを使用できます。

図 6-1 は、SCVMM 環境の NetBackup を表示します。SCVMM は複数の Hyper-V Server を管理します。NetBackup は Hyper-V Server すべての VM のバックアップを作成してリストアできます。

図 6-1 SCVMM 環境の NetBackup for Hyper-V



メモ: この SCVMM 機能には、NetBackup の Hyper-V インテリジェントポリシー (事前定義済みの問い合わせを使う VM の自動選択) が必要です。

メモ: この SCVMM 機能により、SCVMM 環境に存在する VM の場合は、VM が停止していても、NetBackup がホスト名によってそれらを識別してバックアップを作成できます。

メモ: SCVMM で管理する環境では、動的最適化によって移行が頻繁にトリガされることがあります。再試行が頻繁に実行される場合は、VM の最適化処理を正しく設定し、VM の移行を管理します。

次のトピックでは、SCVMM を導入した NetBackup for Hyper-V についてさらに詳しく説明します。

p.56 の「[仮想マシンの自動選択の Hyper-V ポリシーの作成](#)」を参照してください。

p.59 の「[NetBackup 問い合わせビルダーの例](#)」を参照してください。

p.63 の「[問い合わせビルダーのフィールドの参照](#)」を参照してください。

p.73 の「[SCVMM を導入した NetBackup for Hyper-V の注意事項](#)」を参照してください。

SCVMM を導入した NetBackup for Hyper-V の注意事項

SCVMM を導入した NetBackup for Hyper-V については次の点に注意してください。

- SCVMM 2012 R2 以降が必要です。
サポートされる SCVMM のバージョンについては、[NetBackup ソフトウェア互換性リスト](#)の該当するバージョンを参照してください。
- SCVMM サーバーと各 Hyper-V Server に NetBackup クライアントソフトウェアがインストールされている必要があります。
- NetBackup Hyper-V ポリシー実行時に特定の種類の VM がバックアップリストから除外されます。
 - 削除とマーク付けされる Hyper-V VM。
 - Hyper-V VM テンプレート。
 - SCVMM ライブラリサーバー上に格納されている Hyper-V VM。
 - Hyper-V Server に存在しない VM (VMware VM など)。

メモ: SCVMM では Hyper-V 以外の VM を管理できます。NetBackup for Hyper-V はこのような VM のバックアップを作成しません。たとえば、VMware の VM のバックアップを作成するには、NetBackup for VMware を使います。

[問い合わせのテスト (Test query)] 画面にはこれらの種類の VM が [除外 (Excluded)] としてリストされ、除外の理由を示すメッセージも表示されます ([問い合わせのテスト (Test query)] オプションはポリシーの [クライアント (Clients)] ページで利用可能です)。

- 個別の Hyper-V ホストまたはクラスタで Hyper-V マネージャを通して適用された変更が SCVMM に反映されるまで、最大で 24 時間かかる場合があります。この遅延は Microsoft SCVMM の更新サイクルによるものです。Microsoft 社は、SCVMM 環境では、VM 設定の変更を (個別のホストまたはクラスタの Hyper-V マネージャからではなく) SCVMM を通して行うことを推奨しています。SCVMM コンソールから行われた変更は、SCVMM ですぐに反映されます。
- SCVMM 環境では、VM GUID は VM ID として参照されます。

注意: SCVMM 環境に同じ VM ID を持つ複数の VM が存在する場合、各 SCVMM 更新サイクルではそれらの VM のいずれか 1 つのみが報告されます。同じ VM ID を持つその他の VM は表示されません。NetBackup ポリシーでは現在報告されている、または表示されている VM のみをバックアップできます。同じ VM ID を持つその他の VM は表示されず、バックアップされません。

NetBackup ですべての VM を確実に検出してバックアップするには、SCVMM 環境での VM ID の重複を避ける必要があります。

- SCVMM 環境の VM をバックアップするには、VM を自動的に選択するための問い合わせ (Hyper-V インテリジェントポリシー) を NetBackup ポリシーで使う必要があります。ローカライズされた値 (非英語) が問い合わせに含まれる場合は、ポリシーで VM の選択とバックアップを実行できない場合があります。
p.74 の「ローカライズされた SCVMM 環境の VM をバックアップする問い合わせの作成」を参照してください。

ローカライズされた SCVMM 環境の VM をバックアップする問い合わせの作成

この項では、Hyper-V インテリジェントポリシーで、ローカライズされた SCVMM 環境 (非英語) の VM をバックアップする問い合わせを作成する方法について説明します。

ローカライズされていない (英語) SCVMM 環境の Hyper-V インテリジェンスポリシーを作成するには、以下のトピックを参照してください。

p.56 の「仮想マシンの自動選択の Hyper-V ポリシーの作成」を参照してください。

ローカライズされた SCVMM 環境の VM をバックアップする問い合わせを作成する方法

- 1 ポリシーを開いて、[クライアント (Clients)] タブを選択します。次に、[Hyper-V インテリジェントポリシーの問い合わせを通じて自動的に選択 (Select automatically through Hyper-V Intelligent Policy query)] を選択します。
- 2 [サーバー形式 (Server type)] で、[System Center Virtual Machine Manager] を選択します。
- 3 問い合わせビルダーで、[基本モード (Basic mode)] を選択します。
- 4 [結合 (Join)]、[フィールド (Field)]、[演算子 (Operator)] フィールドから選択して、問い合わせの作成を開始します。
- 5 問い合わせで使う値を [値 (value)] に入力します。
- 6 [保存 (Save)] を選択して、問い合わせを保存します。

Windows Server フェールオーバークラスタのサポート

この章では以下の項目について説明しています。

- [Windows フェールオーバークラスタ上の仮想マシンについて](#)
- [CSV のバックアップとリストアに関する注意](#)
- [クラスタの仮想マシンのポリシーの作成](#)
- [リストアされた仮想マシンのクラスタ内での場所](#)
- [リストア後の仮想マシンの保守](#)

Windows フェールオーバークラスタ上の仮想マシンについて

NetBackup では、次のようなフェールオーバークラスタがサポートされています。

- NetBackup は単一のポリシーを使用して、クラスタ内の高可用性 (HA) 仮想マシンと非 HA 仮想マシンをバックアップできます。
- NetBackup は、仮想マシンがクラスタの異なるノードに移行される場合でもバックアップできます。
- NetBackup は、クラスタまたは任意の Hyper-V ホストに仮想マシン全体をリストアできます。

メモ: NetBackup クライアントは、クラスタの各ノードにインストールされている必要があります。

クラスタ化された仮想マシンを元の場所にリストアする場合は、次の点に注意してください。

- リストア先は、バックアップ時とリストア時における仮想マシンの HA の状態によって異なります (仮想マシンがまだ存在する場合)。
p.78 の「[リストアされた仮想マシンのクラスタ内での場所](#)」を参照してください。
- 仮想マシンは常に非高可用性の状態にリストアされます。それらは高可用性の状態に手動でリセットできます。
- 既存の仮想マシンがリストア時に高可用性の状態である場合は、次の点にも注意してください。
 - そのクラスタリソースは、リストア時に削除されます。
 - そのクラスタグループは、リストア時に削除されません。クラスタグループの削除は、手動で行う必要があります。
p.79 の「[リストア後の仮想マシンの保守](#)」を参照してください。

CSV のバックアップとリストアに関する注意

NetBackup はクラスタ共有ボリューム (CSV) で構成される仮想マシンのバックアップを作成できます。

次の点に注意してください。

- バックアップ時に、クラスタ共有ボリューム (CSV) はオンラインの状態 (「バックアップ進行中、リダイレクトされたアクセス」) となります。バックアップを実行するクラスタノードが CSV の所有者になります。
- クラスタノードは同じ CSV のバックアップを同時に作成できます。
p.40 の「[クラスタ共有ボリュームタイムアウト \(VSS を使用した Hyper-V\)](#)」を参照してください。
- 2 つの仮想マシンを含む単一ノードは、それらの仮想マシンが同じ CSV を使用する場合でも、両方の仮想マシンを同時にバックアップできます。仮想マシンが両方とも同じノードに存在するかぎり、同時バックアップが可能です。
- CSV 上の仮想マシンの正常なバックアップのためには、仮想マシンは CSV ボリュームだけを使う必要があります。Hyper-V Server (CSV ボリュームではない) 上のローカルディスクが仮想マシンに追加されると、ステータス 156 でバックアップは失敗します。
CSV ボリュームのみを使うように仮想マシンを再構成し、バックアップを再試行します。

クラスタの仮想マシンのポリシーの作成

この手順では、CSVを使用する仮想マシンに固有の構成項目に重点を置いて説明します。ポリシーの作成について詳しくは、次を参照してください。

p.32 の「[Hyper-V ポリシーの作成](#)」を参照してください。

CSV クラスタにある仮想マシンのポリシーを作成する方法

- 1 NetBackup Web UI を開きます。
- 2 左側で[保護 (Protection)]、[ポリシー (Policies)]の順に選択します。
- 3 ポリシー形式として[Hyper-V]を選択します。
- 4 [Hyper-V]タブをクリックしてバックアップ方式を選択します (VSS または WMI)。
- 5 VSS のバックアップ方式のみ: [Hyper-V]タブの次のオプションに注意します。

非 VSS VM のオフライン バックアップを有効にする (Enable offline backup for non-VSS VMs) 仮想マシンのオフラインバックアップの実行を NetBackup に許可するかどうかを決定します。

p.39 の「[非 VSS VM のオフラインバックアップの有効化 \(VSS を使用した Hyper-V\)](#)」を参照してください。

クラスタ共有ボリュームタイムアウト (Cluster shared volumes timeout) バックアップジョブが必要とするのと同じ共有ボリュームを別のノードがバックアップ中である場合に、このジョブが待機する時間を指定します。

メモ: このオプションはクラスタが Windows 2012 上にある場合は使用されません。

p.40 の「[クラスタ共有ボリュームタイムアウト \(VSS を使用した Hyper-V\)](#)」を参照してください。

- 6 [クライアント (Clients)]ページで、[Hyper-V Server]フィールドにクラスタの名前を入力します。
- 7 [クライアント (Clients)]タブで、[追加 (Add)]をクリックします。

メモ: この手順では、仮想マシンを手動で選択する方法を説明しています。Hyper-V インテリジェントポリシーによる自動選択については、以下のトピックを参照してください。

p.56 の「[仮想マシンの自動選択の Hyper-V ポリシーの作成](#)」を参照してください。

p.23 の「[NetBackup Legacy Network Service ログオン \(vnetd.exe\) のドメイン ユーザーアカウントへの変更](#)」を参照してください。

- 8 バックアップする仮想マシンのホスト名、表示名、または GUID を入力するか、[仮想マシンの参照 (Browse virtual machines)]をクリックします。

クラスタ名とそのノード (Hyper-V Server) が、[Hyper-V マネージャ (Hyper-V Manager)] の下の左ペインに表示されます。仮想マシンは右側のより大きいペインに表示されます。

[高可用性 (Highly available)] 列は、仮想マシンがクラスタ内で高可用性を備えるように構成されているかどうかを示します。

次の点に注意してください。

- ホスト名または表示名は、[Hyper-V] タブの [プライマリ VM 識別子 (Primary VM identifier)] オプションに従って、リストに表示される必要があります。[プライマリ VM 識別子 (Primary VM identifier)] オプションで [VM ホスト名 (VM hostname)] を選択したものの、仮想マシンのホスト名が表示されない場合、その仮想マシンは [クライアント (Clients)] リストに追加できません。
仮想マシンのホスト名は、仮想マシンが実行中である場合にのみ利用可能です。表示名と GUID は、常に利用可能です。ホスト名が表示されない場合は、仮想マシンの電源が入っていることを確認します。
- 右ペインに [接続できません (Unable to connect)] と表示される場合は、左ペインで強調表示されているノードが停止しているか、NetBackup Client Service が実行されていません。

- 9 仮想マシンを選択したら、[追加 (Add)] または [選択 (Select)] をクリックします。
選択した仮想マシンが [クライアント (Clients)] タブに表示されます。

リストアされた仮想マシンのクラスタ内での場所

クラスタに仮想マシンをリストアする場合、元の場所または異なる場所にリストアできます。しかしバックアップが実行された後で別のノードにフェールオーバーした仮想マシンの場合、元の場所はどこでしょうか。バックアップされたときに仮想マシンが存在したノード (Hyper-V Server)、または仮想マシンが現在存在するノードですか？

次の表は、クラスタの元の場所にリストアする場合の判定表です。仮想マシンがどこにリストアされるかを示します。場所は、バックアップ時およびリストア時の仮想マシンの高可用性 (HA) の状態によって異なります。

表 7-1 クラスタの元の場所にリストアする場合の判定表

バックアップ時の仮想マシンの状態は HA である	リストア時の仮想マシンの状態は HA である	仮想マシンのリストア先のノード (非 HA 状態へ)
はい	はい	WMI と VSS の両方の場合: リストア時に仮想マシンを所有するノードにリストアされます。

バックアップ時の仮想マシンの状態は HA である	リストア時の仮想マシンの状態は HA である	仮想マシンのリストア先のノード (非 HA 状態へ)
はい	いいえ	WMI と VSS の両方の場合: 仮想マシンがバックアップ時に存在したノードにリストアされます。
はい	仮想マシンは存在しません。	WMI と VSS の両方の場合: 仮想マシンがバックアップ時に存在したノードにリストアされます。
いいえ	はい	WMI と VSS の両方の場合: 仮想マシンがバックアップ時に存在したノードにリストアされます。 リストア時に、仮想マシンがバックアップ時に存在したノードと異なるノードに存在する場合、リストアは失敗します。
いいえ	いいえ	WMI と VSS の両方の場合: 仮想マシンがバックアップ時に存在したノードにリストアされます。
いいえ	仮想マシンは存在しません。	WMI と VSS の両方の場合: 仮想マシンがバックアップ時に存在したノードにリストアされます。

メモ: いずれの場合も、仮想マシンは非 HA 状態にリストアされます。

リストア後の仮想マシンの保守

クラスタの仮想マシンのリストアについては、次の点に注意してください。

- 仮想マシンは常に非高可用性の状態にリストアされます。高可用性の状態に仮想マシンを戻すには、[Microsoft Failover Cluster Manager]と[高可用性ウィザード]を使用します。手順については、次の Microsoft 社の文書を参照してください。
[「Hyper-V: Using Hyper-V and Failover Clustering」](#)
- 既存の仮想マシンが高可用性の状態であり、リストアによって仮想マシンが上書きされた場合には、次の点に注意してください。
 - 既存の仮想マシンのクラスタリソースは、リストア時に削除されます。
p.80 の「リストア時のクラスタリソースの削除」を参照してください。
 - 仮想マシンのクラスタグループは、リストア時に削除されません。同じクラスタディスクで 2 つ以上の仮想マシンが作成される場合、クラスタソフトウェアは同じ仮想マシングループにリソースを配置します。別の仮想マシンがそのグループを共有することがあるため、NetBackup はグループを削除しません。

クラスタグループの削除は、手動で行う必要があります。手順については、Microsoft 社のマニュアルを参照してください。

リストア時のクラスタリソースの削除

仮想マシンが高可用性の状態として構成される場合、Windows Server Failover Cluster (WSFC) ソフトウェアはその仮想マシンのグループを作成します。グループには VM リソース、VM 構成リソース、およびディスクリソースなどのさまざまなリソースが含まれます。これらのリソースはグループによって制御されます。

高可用性 (HA) の仮想マシンが元の場所にリストアされる場合、その場所の既存の仮想マシンは削除する必要があります。次の表に記載されているように、WSFC ソフトウェアは、リストアの一部として仮想マシンのグループリソースも自動的に削除します。

表 7-2 リストア時のクラスタリソースの削除: CSV ベースと非 CSV ベース

HA の仮想マシンが CSV ボリュームに基づいている	既存の仮想マシンと共に削除されるグループリソース
はい	VM リソース、VM 構成リソース、およびディスクリソースが削除されます。
いいえ	VM リソースと VM 構成リソースが削除されます。既存のディスクリソースは、クラスタグループの一部として保持されます。

Hyper-V のバックアップとリストア

この章では以下の項目について説明しています。

- [Hyper-V 仮想マシンのバックアップ](#)
- [WMI バックアップ方式: リストアの前後における仮想マシンの状態](#)
- [個々のファイルのリストアに関する注意事項](#)
- [仮想マシン全体のリストアに関する注意事項](#)
- [NetBackup クライアントが存在するホストへの個々の Hyper-V ファイルのリストア](#)
- [Hyper-V の個々のファイルについてのリストアオプション](#)
- [仮想マシンの共有場所への個々の Hyper-V ファイルのリストア](#)
- [Hyper-V 仮想マシン全体のリストア](#)
- [リストアオプション](#)
- [共通ファイルのリストアについて](#)
- [ファイルをリストアする Hyper-V VM ファイルを参照するときに BAR インターフェースに Hyper-V スナップショットファイルがリストされる場合がある](#)

Hyper-V 仮想マシンのバックアップ

仮想マシンのバックアップは **NetBackup** ポリシーから開始できます。バックアップは、ポリシーから手動で開始したり、ポリシーで定義したスケジュールに従って自動的に実行したりできます。

ポリシーを作成するには、NetBackup Web UI を使用できます。

p.32 の「[Hyper-V ポリシーの作成](#)」を参照してください。

既存のポリシーから仮想マシンを手動でバックアップする方法

- 1 NetBackup Web UI を開きます。
- 2 左側で[保護 (Protection)]、[ポリシー (Policies)]の順に選択します。
- 3 ポリシーを選択します。
- 4 [手動バックアップ (Manual backup)]をクリックします。
- 5 バックアップのスケジュール形式を選択します。
- 6 バックアップ対象のクライアント (仮想マシン) を選択します。
- 7 [バックアップ (Backup)]をクリックして、バックアップを開始します。
- 8 バックアップの進捗状況を表示するには、[アクティビティモニター (Activity monitor)]をクリックします。

WMI バックアップ方式: リストアの前後における仮想マシンの状態

VSS バックアップ方式とは異なり、WMI 方式 (Windows Server 2016 以降) はオンラインバックアップとオフラインバックアップの比較にはなりません。

表 8-1 WMI バックアップ方式: リストアの前後における仮想マシンの状態

バックアップ時の状態	リストア後の状態
実行中 (Running)	オフ (Off)
保存済み (Saved)	保存済み (Saved)
一時停止 (Paused)	オフ (Off)
オフ (Off)	オフ (Off)

個々のファイルのリストアに関する注意事項

次の点に注意してください。

- Hyper-V 仮想マシンでウイルス対策保護を実行している場合は、Symantec Endpoint Protection 11.0 Maintenance Release 4 (ビルド 11.0.4000) 以降をお勧めします。仮想マシンで、以前のバージョンの Endpoint Protection ではなく、このバージョンの

Endpoint Protection を実行している場合、仮想マシンのファイルのリストアはより短時間で完了します。

- クロスプラットフォームの個々のファイルのリストアはサポートされません。**Windows** ファイルは **Windows** ゲストオペレーティングシステムにのみリストアできます。**Linux** にはリストアできません。**Linux** ファイルは **Linux** ゲストオペレーティングシステムにのみリストアできます。**Windows** にはリストアできません。
- 仮想マシンの共有場所にファイルをリストアするには、仮想マシンが **NetBackup** クライアント、プライマリサーバー、メディアサーバーと同じドメインに存在する必要があります。
- 約 2 GB より大きい個々のファイルをリストアするには、**NetBackup** クライアントが存在するホストにそのファイルをリストアします。**NetBackup for Hyper-V** では、仮想マシンの共有場所を使用した、大きいファイルのリストアは現在サポートされていません。このファイルサイズの制限は、仮想マシン全体のリストアには適用されません。
[p.87 の「NetBackup クライアントが存在するホストへの個々の Hyper-V ファイルのリストア」](#)を参照してください。
- リストアする個々のファイルを、[VM バックアップからのファイルリカバリを有効にする (Enable file recovery from VM backup)] オプションを使用して作成されたバックアップイメージから選択する場合、選択するファイルは元々同じ仮想マシンのボリュームに存在していたファイルである必要があります。一部のファイルが、あるボリュームに存在し、その他のファイルが別のボリュームに存在していた場合は、リストアが失敗します。
- **Windows** の暗号化ファイルをリストアするには、リストアのターゲットホストで **NetBackup Client Service** に管理者としてログオンする必要があります。[コントロールパネル]の[サービス]で、**NetBackup Client Services** のログオンを[ローカルシステムアカウント]から[管理者]に変更します。
- **NTFS** ファイルシステムの機能を使用するファイルを、**FAT** または **FAT32** ファイルシステムにリストアする場合、**NTFS** ファイルシステムの機能を保持することはできません。

次の点に注意してください。

- **NTFS** で圧縮されたファイルは、**FAT** または **FAT32** ファイルシステムでは圧縮されていないファイルとしてリストアされます。
- **NTFS** で暗号化されたファイルは、**FAT** または **FAT32** ファイルシステムにリストアすることができません。
- **NTFS** ベースのセキュリティ属性が設定されたファイルは、**FAT** または **FAT32** ファイルシステムではその属性なしでリストアされます。
- 代替データストリームが存在するファイルを、**FAT** または **FAT32** ファイルシステムにリストアすると、そのリストアは **NetBackup** の状態コード **2817** で失敗します。

- リストア時に **NetBackup** がハードリンクと元のファイルの間のリンクを再作成するのは、リンクファイルとそのターゲットファイルが同じジョブでリストアされる場合だけです。各ファイルが別々のリストアジョブでリストアされる場合は、別々のファイルとしてリストアされ、リンクは再確立されません。
- **Linux** 仮想マシンでは、仮想マシンの I/O の負荷が高い場合に[VM バックアップからのファイルリカバリを有効にする (Enable file recovery from VM backup)]オプションをオンにして行ったバックアップによって、ファイルのマッピングの問題が発生する場合があります。(Windows Hyper-V は、Linux 仮想マシンのファイルシステムのアクティビティを静止するしくみを提供しません。)

p.135 の「**個々のファイルのリストアの問題**」を参照してください。
- **Linux** 仮想マシンの場合、**ext2**、**ext3**、**ext4** のファイルシステムのみが個々のファイルのリストアでサポートされます。パーティションで他のファイルシステムを使用する場合、バックアップは成功しますが、そのパーティションのファイルは個別にリストアできません。「/」(**root**) パーティションは、**NetBackup** のバックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースでマウントポイントを表示できるように **ext2**、**ext3**、**ext4** でフォーマットする必要があります。
- **Linux ext4** ファイルシステムには、割り当てられた領域に **0** を埋め込まずにファイルのディスク領域を確保する、永続的事前割り当て機能が備わっています。**NetBackup** が事前に割り当てられたファイルを (サポート対象の **ext** ファイルシステムへ) リストアすると、ファイルは事前割り当てを失い、スパーズファイルとしてリストアされます。
- **ext2** または **ext3** ファイルシステムを **ext4** に移行するには、**Ext4 wiki** の次のページに記載されている「**ext3** ファイルシステムの **ext4** への変換」の手順を参照してください。

https://ext4.wiki.kernel.org/index.php/Ext4_Howto#Converting_an_ext3_filesystem_to_ext4

これらの手順に従わなければ、新しく作成された **ext4** ファイルのデータがメモリからディスクへすみやかにフラッシュされません。その結果、**NetBackup** は **ext4** ファイルシステムの最近作成されたファイルのデータをバックアップできません(**NetBackup** スナップショットはファイルを長さ **0** としてキャプチャします)。ファイルシステムが正しく移行されないという事態を回避するために、各バックアップを開始する前に **ext4** ファイルシステムで **Linux** の同期コマンドを実行します。
- **NetBackup** は **Linux** の **FIFO** ファイルとソケットファイルのバックアップをサポートします。ただし、**NetBackup** は **FIFO** ファイルとソケットファイルの個々のリストアをサポートしないことに注意してください。**FIFO** ファイルとソケットファイルは仮想マシン全体をリカバリするときに他の仮想マシンデータとともにリストアできます。
- **Linux** 仮想マシンでは、**NetBackup** はソフトウェア **RAID** ボリュームから個々のファイルをリストアできません。ファイルは仮想マシン全体をリストアするときにリストアされます。
- **NetBackup** は、**LVM2** ボリュームからの個々のファイルのリストアを含む、**Linux** の **LVM2** ボリュームのバックアップとリストアをサポートします。ただし、**NetBackup** は、**LVM2** のスナップショット機能を使用して作成されたスナップショットからの個々のフ

イルのリストアをサポートしないことに注意してください。LVM2 スナップショットがバックアップ時に存在する場合、スナップショットのデータはバックアップで取得されます。このデータは仮想マシン全体をリカバリするときに他の仮想マシンデータとともにリストアできます。

- Windows 2012 R2 Hyper-V Server 上の VM の場合、リストアする VM ファイルを参照するときに BAR インターフェースに Hyper-V スナップショットファイルがリストされる場合があります。スナップショットファイルのデータは、アプリケーションとの整合性がなく、リストアするべきでない場合があります。
スナップショットファイルを識別して、リストアするかどうかを決めるには：
p.102 の「[ファイルをリストアする Hyper-V VM ファイルを参照するときに BAR インターフェースに Hyper-V スナップショットファイルがリストされる場合がある](#)」を参照してください。
- Linux の場合、追加の注意事項が適用されます。
p.21 の「[Linux 仮想マシンに関する注意事項](#)」を参照してください。
- NetBackup for Hyper-V は ClientDirect Restore を使用した個別のファイルのリストアをサポートしません。

仮想マシン全体のリストアに関する注意事項

次の点に注意してください。

- 仮想マシン全体のバックアップは、Hyper-V の役割が有効な Windows Server にのみリストアすることができます。
- デフォルトでは、Hyper-V Server の NetBackup クライアントには、Windows の管理者権限がありません。NetBackup サーバーから仮想マシン全体をリストアできます。管理者権限がない NetBackup クライアントから仮想マシン全体をリストアすることはできません。
- 別のボリューム GUID に差分ディスクのあるボリューム GUID で構成された仮想マシンの場合、リダイレクトリストアはサポートされません。
p.133 の「[リストアした仮想マシンの起動に失敗する](#)」を参照してください。
- [仮想マシンの上書き (Overwrite virtual machine)] オプションを使用して元の場所に仮想マシンをリストアすると、Hyper-V Server 上に存在するその仮想マシンはリストア前に自動的に電源がオフにされ、削除されます。Hyper-V Server 上の仮想マシンの vhd または vhdx ファイルは、バックアップイメージの vhd または vhdx ファイルによって上書きされます。バックアップ後に作成された新しい vhd または vhdx ファイルは削除されません。
- 元の Hyper-V Server の別の場所、または異なるサーバーに仮想マシンをリストアする場合は、次の点に注意してください。[仮想マシンの上書き (Overwrite virtual machine)] オプションを選択すると、同じ仮想マシンが Hyper-V Server 上に存在する場合、その仮想マシンはリストア前に自動的に電源がオフにされ、削除されます。

ただし、削除された仮想マシンの .vhd または .vhdx ファイルは削除されません。これらのファイルは削除する必要があります。

- 仮想マシンを、同じ GUID の仮想マシンが存在する Hyper-V Server にリストアする場合、[仮想マシンの上書き (Overwrite virtual machine)] オプションを選択する必要があります。それ以外の場合、リストアは失敗します。
- [仮想マシンの上書き (Overwrite virtual machine)] オプションを使わずに仮想マシンをリストアする場合は、リストアを開始する前に、現在の仮想マシンおよびその vhd または vhdx ファイルを宛先サーバーから削除する必要があります。仮想マシンを削除しても、宛先のサーバーにその仮想ディスクファイルを 1 つ以上残したままにすると、バックアップの仮想ディスクファイルはリストアされません。
- (この項目は、NetBackup ではなく VSS の制限事項です)。仮想マシン全体のリストアの直後は、仮想マシンのボリュームがバックアップ時よりも大きい場合があります。このような増大は正常です。リストア後、スナップショットに関連するキャッシュファイルがボリュームに残るためです。約 20 分後、キャッシュファイルが自動的に削除され、ボリュームは元のサイズに戻ります。
注: リストアした仮想マシンの新しいバックアップは、バックアップのスナップショットを作成するのに十分な領域が仮想マシンのボリュームにない場合、失敗する可能性があります。Microsoft 社によると、仮想マシンのボリュームに 10% から 15% 以上の空き領域があるかぎり、この状況は発生しません。
- 次のような場合に競合状態が生じる可能性があります。
 - 2 台の仮想マシンの完全リストアを同時に実行するように試みた。
 - 2 台の仮想マシンが両方のリストアジョブでリストア対象に選択された仮想ハードディスクを共有している (vhd または vhdx ファイル)。

2 つのジョブが同じ vhd または vhdx ファイルに同時にアクセスしようとしますが、ファイルにアクセスできるジョブは 1 つのみです。もう一方のジョブはアクセスを拒否され、エラーコード 185 で失敗する場合があります。

p.125 の「Hyper-V に関連する NetBackup の状態コード」を参照してください。

- 別の Hyper-V サーバーに仮想マシンをリストアする場合は、元の Hyper-V サーバーと対象のサーバーに同じ数のネットワークアダプタ (NIC) が必要です。対象のサーバー上のリストアした仮想マシンのネットワークアダプタを構成する必要があります。
p.133 の「リストアした仮想マシンの起動に失敗する」を参照してください。
- 代替の場所への仮想マシンのリストアは仮想ディスクのうちのどれかがパスでアンパサンド (&) を含むと失敗します。回避策として、仮想マシンを元の場所にリストアするか、ステージング場所にリストアして手動で仮想マシンを登録します。

[VM バックアップからのファイルリカバリを有効にする (Enable file recovery from VM backup)] オプションが有効な場合、バックアップ時に仮想マシンに存在したファイルおよびフォルダをリストアできます。

[VM バックアップからのファイルリカバリを有効にする (Enable file recovery from VM backup)]オプションが有効でない場合は、仮想マシン全体のみをリストアできます。

p.93 の「[Hyper-V 仮想マシン全体のリストア](#)」を参照してください。

個々のファイルをリストアするように、次のいずれかの方法で構成を設定することができます。

- 別のコンピュータに NetBackup クライアントをインストールします。コンピュータが仮想マシンにアクセスできるように、仮想マシンで共有を作成します。(仮想マシンは NetBackup クライアントを必要としません) リストア先として UNC パスを指定します。このオプションについて詳しくは次を参照してください。

p.91 の「[仮想マシンの共有場所への個々の Hyper-V ファイルのリストア](#)」を参照してください。

p.92 の「[仮想マシン上の共有場所に Hyper-V をリストアするための NetBackup Client Service の設定](#)」を参照してください。

- ファイルをリストアする仮想マシンに NetBackup クライアントをインストールします。NetBackup クライアントにリストアするのと同じ方法で、仮想マシンにファイルをリストアします。

p.87 の「[NetBackup クライアントが存在するホストへの個々の Hyper-V ファイルのリストア](#)」を参照してください。

- 別のコンピュータに NetBackup クライアントをインストールします。そのコンピュータにファイルをリストアし、次に仮想マシンにそのファイルをコピーします。
暗号化されたファイルをリストアするには、仮想マシンに NetBackup クライアントをインストールして、仮想マシンにファイルを直接リストアする必要があります。

p.87 の「[NetBackup クライアントが存在するホストへの個々の Hyper-V ファイルのリストア](#)」を参照してください。

NetBackup バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを使用して、NetBackup for Hyper-V バックアップからファイルおよびフォルダをリストアすることができます。NetBackup 管理者は、NetBackup Web UI を使用して、Hyper-V ポリシーバックアップのサーバー主導リストアを実行できます。

Hyper-V リストアに関する重要な注意事項については次を参照してください。

NetBackup クライアントが存在するホストへの個々の Hyper-V ファイルのリストア

メモ: RBAC 管理者または類似の権限を持つユーザーのみが、Web UI でリカバリノードからサーバー主導リストアを実行できます。

NetBackup クライアントを備えているホストに個々のファイルをリストアするには、次の手順を行います。

NetBackup クライアントが存在するホストに個々の Hyper-V ファイルをリストアする方法

- 1
- NetBackup Web UI を開きます。
- 2
- 左側で、[リカバリ (Recovery)]、[標準リカバリ (Regular recovery)] の順に選択します。次に、[リカバリの開始 (Start recovery)] をクリックします。
- 3
- 次を選択します。

バックアップおよびリストアに使用するサーバー	Hyper-V バックアップを実行した NetBackup プライマリサーバーを入力します。
リストアのソースクライアント	バックアップされた Hyper-V 仮想マシンを入力します。
リストアの宛先クライアント (Destination client for restores)	物理ホストまたは仮想マシンを入力します。ホストまたは仮想マシンには、NetBackup クライアントが含まれている必要があります。 NetBackup クライアントが存在しない仮想マシンにファイルをリストアするには、別の手順を使用する必要があります。 p.91 の「仮想マシンの共有場所への個々の Hyper-V ファイルのリストア」を参照してください。
リストアのポリシー形式 (Policy type for restores)	[Hyper-V] を入力します。

4 [基本プロパティ (Basic properties)] タブで、次の操作を選択します。

ポリシー形式 (Policy type) [Hyper-V]を入力します。

リストア形式 (Restore type) [通常バックアップ (Normal backups)]を選択します。

ソースクライアント (Source client) バックアップされた Hyper-V 仮想マシンを入力します。

宛先クライアント (Destination client) 物理ホストまたは仮想マシンを入力します。ホストまたは仮想マシンには、NetBackup クライアントが含まれている必要があります。

NetBackup クライアントが存在しない仮想マシンにファイルをリストアするには、別の手順を使用する必要があります。

p.91 の「[仮想マシンの共有場所への個々の Hyper-V ファイルのリストア](#)」を参照してください。

5 [次へ (Next)]をクリックします。

6 NetBackup は自動的に利用可能な最新のバックアップを表示します。または、日付範囲または[バックアップ履歴の使用 (Use backup history)]を選択できます。

7 リストアするファイルを選択します。

8 [次へ (Next)]をクリックします。

9 リカバリオプションを選択します。

次の点に注意してください。

- 元の位置にすべてをリストア (Restore everything to its original location)
宛先クライアントの元のパスまたはフォルダにファイルをリストアするには、このオプションを選択します。バックアップ時の元のボリューム (E:¥ など) が、このリストアの宛先クライアントに存在しない場合、リストアは失敗します。
- すべてを異なる場所にリストア (Restore everything to a different location)
宛先クライアントの異なるパスまたはフォルダにファイルをリストアするには、このオプションを選択します。[宛先 (Destination)]フィールドでフォルダを指定します。
バックアップ時の元のボリューム (E:¥ など) が、このリストアの宛先クライアントに存在しない場合、リストアは失敗します。
NetBackup クライアントが存在しない仮想マシンにファイルをリストアするには、別の手順を使用します。
p.91 の「[仮想マシンの共有場所への個々の Hyper-V ファイルのリストア](#)」を参照してください。
- 個々のディレクトリやファイルを異なる位置にリストア (Restore individual directories and files to different locations)

特定の場所にファイルをリストアするにはこのオプションを選択します。リストア対象に選択した各項目は、[ソース (Source)]列に表示されます。項目をダブルクリックして、リストア先を入力または参照します。

- 10 [次へ (Next)]をクリックします。
- 11 リカバリの詳細を確認します。次に、[リカバリの開始 (Start recovery)]をクリックします。

Hyper-V の個々のファイルについてのリストアオプション

次のリストアオプションから選択します。

表 8-2 個々のファイルのリストアのオプション

オプション	説明
元の位置にすべてをリストア (Restore everything to its original location)	バックアップ時に存在した場所にフォルダおよびファイルをリストアします。
すべてを異なる場所にリストア (Restore everything to a different location)	元の階層の別の場所へのフォルダおよびファイルをリストアします。 [リストア先 (Destination)]を使用してリストアする場所を入力します。 バックアップ時の元のボリューム (E:¥など) が、このリストアの宛先クライアントに存在しない場合、リストアは失敗します。
個々のディレクトリやファイルを異なる位置にリストア (Restore individual directories and files to different locations)	個別に指定した場所にフォルダおよびファイルをリストアします。
既存のファイルの上書きを許可 (Allow overwrite of existing files)	リストア先にリストアするファイルがすでにある場合、リストアにより既存のファイルが上書きされます。
メディアサーバー (Media server)	バックアップイメージが含まれるストレージユニットにアクセスするメディアサーバーを定義します。このような環境の例として複数のメディアサーバーで構成するメディアサーバー重複排除プール (MSDP) があります。 メモ: バックアップイメージを含むストレージユニットが複数のメディアサーバーで共有されていない場合は、このオプションは灰色で表示されます。

オプション	説明
ジョブの優先度 (Job priority)	リストアリソースに対する、リストアジョブの優先度を指定します。優先度が高いとは、最も優先度が高い 1 番目のリストアジョブに、利用可能なドライブが NetBackup によって最初に割り当てられることを意味します。数値を入力します (最大値は 99999)。すべてのリストアジョブのデフォルト値は 0 (ゼロ) です。これは、設定可能な最も低い優先度です。優先度が 0 (ゼロ) より大きいすべてのリストアジョブは、デフォルト設定のリストアジョブより優先されます。

仮想マシンの共有場所への個々の Hyper-V ファイルのリストア

NetBackup クライアントがインストールされていない Hyper-V 仮想マシンに、仮想マシンのファイルをリストアできます。

NetBackup クライアントではない仮想マシンに個々のファイルをリストアする方法

- 1 物理ホストに NetBackup クライアントをインストールします。

ホストは、ファイルのリストア先の仮想マシンと同じドメインに存在する必要があります。このホストには、Hyper-V Server または別のコンピュータを指定できます。

- 2 NetBackup クライアントが存在するホストが仮想マシンにアクセスできるように共有を作成します。この共有で書き込みアクセスが許可されている必要があります。

例: \\virtual_machine1\share_folder

この例で、virtual_machine1 はリストアするファイルの最終的な宛先です。NetBackup クライアントが存在するホストは、リストアのコンジットとして機能します。

- 3 NetBackup Web UI で、[リカバリ (Recovery)]、[標準リカバリ (Regular recovery)]、[リカバリの開始 (Start recovery)] の順に選択します。
- 4 [基本プロパティ (Basic properties)] タブで、次の情報を入力します。

ポリシー形式 (Policy type) [Hyper-V] を指定します。

リストア形式 (Restore type) リストア形式として [通常バックアップ (Normal Backups)] を指定します。

ソースクライアント (Source client) バックアップされた Hyper-V 仮想マシンを指定します。

宛先クライアント (Destination client) NetBackup クライアントが存在するホストを選択します。リストア先の仮想マシンには、このホストの共有が必要です。
このフィールドで仮想マシンを指定しないでください。

- 5 [次へ (Next)]をクリックします。
- 6 NetBackup は自動的に利用可能な最新のバックアップを表示します。または、日付範囲または[バックアップ履歴の使用 (Use backup history)]を選択できます。
- 7 リストアするアイテムを選択します。
- 8 リストアターゲットのセクションで、[すべてを異なる場所にリストア (Restore everything to a different location)]を選択します。

[宛先 (Destination)]フィールドで、宛先の仮想マシンの共有ドライブまたはフォルダを参照する UNC パス名を入力します。

たとえば、virtual_machine1 の E:¥folder1 にファイルをリストアするには、次のように入力します。

¥¥virtual_machine1¥share_folder¥

ファイルは、NetBackup によって仮想マシンの共有場所にリストアされます。
- 9 [次へ (Next)]をクリックします。次に、ウィザードに表示されるプロンプトに従います。
- 10 NetBackup Client Service のログオンを変更する必要がある場合があります。

p.92 の「[仮想マシン上の共有場所に Hyper-V をリストアするための NetBackup Client Service の設定](#)」を参照してください。

仮想マシン上の共有場所に Hyper-V をリストアするための NetBackup Client Service の設定

共有ドライブが存在する Windows の仮想マシンに個々のファイルをリストアするには、NetBackup Client Service にドメインの管理者アカウントでログオンする必要があります。ローカルシステムアカウントでログオンしないでください。管理者アカウントを使用すると、NetBackup で、データのリストア先である仮想マシン上のディレクトリへ書き込むことができます。

NetBackup Client Service にローカルシステムアカウントでログオンしている間にファイルをリストアしようとする、リストアが失敗します。

管理者として NetBackup Client Service にログオンする方法

- 1 仮想マシンへの共有が存在するホストの Windows サービスで、NetBackup Client Service をダブルクリックします。
- 2 [ログオン (Log On)]タブを確認し、管理者としてサービスにログオンしていない場合は、サービスを停止します。
- 3 ログオンを、仮想マシン、および共有が設定されているホストの両方が存在するドメインの管理者アカウントに変更します。
- 4 サービスを再起動します。
- 5 リストアを再試行します。

Hyper-V 仮想マシン全体のリストア

このトピックは NetBackup for Hyper-V に関するものです。

元の Hyper-V Server または別の Hyper-V Server に仮想マシン全体をリストアできません。

仮想マシン全体のリストアに関する重要な注意事項については、次を参照してください。

Hyper-V 仮想マシン全体をリストアするには

- 1 NetBackup の Web UI を起動します。
- 2 左側で、[リカバリ (Recovery)]、[標準リカバリ (Regular recovery)]の順に選択し、[リカバリの開始 (Start recovery)]をクリックします。
- 3 [基本プロパティ (Basic properties)]タブで、次の操作を選択します。

ポリシー形式 (Policy type) [Hyper-V]を入力します。

リストア形式 (Restore type) [仮想マシンのバックアップ (Virtual machine backups)]を選択します。

ソースクライアント (Source client) バックアップされた Hyper-V 仮想マシンを入力します。

宛先クライアント (Destination client) 物理ホストまたは仮想マシンを入力します。ホストまたは仮想マシンには、NetBackup クライアントが含まれている必要があります。

NetBackup クライアントが存在しない仮想マシンにファイルをリストアするには、別の手順を使用する必要があります。

p.91 の「[仮想マシンの共有場所への個々の Hyper-V ファイルのリストア](#)」を参照してください。

- 4 [次へ (Next)]をクリックします。
- 5 NetBackup は自動的に利用可能な最新のバックアップを表示します。または、日付範囲または[バックアップ履歴の使用 (Use backup history)]を選択できます。
- 6 リストアする仮想マシンのバックアップを選択します。
[次へ (Next)]をクリックします。
- 7 リカバリオプションを選択します。各オプションについては、次の表を参照してください。

- 8 Hyper-V 仮想マシンの GUID (Hyper-V virtual machine GUID) バックアップされた仮想マシンの Hyper-V ホスト名と GUID (グローバル一意識別子) が表示されます。この値を使用して、このバックアップが、リストアする仮想マシンを示していることを確認します。GUID は、ホスト名とともに仮想マシンの一意の文字列です。

リストアオプション (Restore Options)

Hyper-V Server にリストア (Restore to Hyper-V server) 元の Hyper-V Server の元の場所に仮想マシンをリストアします。

同一または別の Hyper-V Server 上の異なる場所にリストア (Restore to different locations on same / different Hyper-V server) 元の Hyper-V Server 上の異なる場所または別の Hyper-V Server に仮想マシンをリストアします。

ステージング場所にリストア (Restore to staging location) [ステージングマシン名 (Staging machine name)] および [次のステージングディレクトリにリストア (Restore to the following staging directory)] で指定するサーバー上のステージング場所に仮想マシンのファイルをリストアします。このオプションは、次の場合に使用します。

- 仮想マシン全体をリストアしない場合
- リストア後に NetBackup によって仮想マシンを起動しない場合

たとえば、このオプションを使用して、リストアしたファイルをバックアップ元以外の仮想マシンに .vhd ボリュームとして追加することができます。

仮想マシンの上書き
(Overwrite virtual machine)

([ステージング場所にリストア (Restore to staging location)])を選択した場合は、このオプションは[仮想マシンの上書き (Overwrite existing files)]です)

[Hyper-V Server にリストア (Restore to Hyper-V server)]または[同一または別の Hyper-V Server 上の異なる場所にリストア (Restore to different locations on same / different Hyper-V server)]を選択した場合は、次の点に注意してください。

- 宛先のサーバー上に同じ GUID の仮想マシンが存在する場合、その仮想マシンは、構成およびスナップショットファイルとともに削除されます。宛先のサーバー上に存在する仮想マシンの既存の .vhd ファイルは上書きされます。リストア対象に選択した仮想マシンは、バックアップからリストアされます。
- [仮想マシンの上書き (Overwrite virtual machine)]オプションが選択されていない場合に、同じ GUID を持つ仮想マシンが宛先サーバーに存在すると、NetBackup 状態コード 5 でリストアが失敗します。
- [仮想マシンの上書き (Overwrite virtual machine)]オプションを選択しない場合、仮想マシンの .vhd ファイルが宛先に存在していると、バックアップの .vhd ファイルはリストアされません。

p.136 の「」を参照してください。

[ステージング場所にリストア (Restore to staging location)]を選択した場合は、次の点に注意してください。

- リストアする .vhd ファイルがリストアに指定した場所の宛先サーバーにすでに存在する場合、宛先サーバーのファイルは上書きされます。
- [既存のファイルの上書き (Overwrite existing files)]オプションを選択しない場合、リストアするファイルがリストアに指定した場所にすでに存在しても、ファイルは上書きされません。リストアに選択したその他のファイルはリストアされます。リストアは、部分的な成功として報告されます。

リストア先 (Restore Destinations)

Hyper-V Server

元の場所にリストアするのに[Hyper-V Server にリストア (Restore to Hyper-V server)]を選択した場合は、リストア先が仮想マシンのバックアップ元の Hyper-V Server の名前であることに注意してください。この場合、宛先は変更できません。

その他のリストアオプション (異なる場所へのリストアまたはステージング場所へのリストア) では、リストア先の Hyper-V Server を指定します。

バックアップファイルのリスト (List of backed up files) (ソース (Source))

仮想マシンのバックアップ時に存在していた Hyper-V 仮想マシンのファイルが表示されます。デフォルトでは、表示されるすべてのファイルがリストア対象として選択されます。

リストアによって、宛先のサーバー上にある現在の仮想マシンの特定のファイルを置き換えない場合は、そのファイルのチェックマークをはずします。リストアするファイルの横のチェックマークは付けたままにします。チェックマークをはずしたファイルはリストアされません。ステージングのリストア以外のリストアでは、仮想マシン構成ファイル (.xml、.vsv、および .bin ファイル) と .avhd ファイルの選択を解除できないことに注意してください。

メモ: 共通ファイルを以前のバージョンに置き換えると、共通ファイルを使用する仮想マシンで問題が発生する可能性があります。Hyper-V Server の共通ファイルが上書きされないようにするには、リストアしない共通ファイルのチェックマークをはずします。

表示されるファイルについては、次の点に注意してください。

- .vhd ファイルを選択しないと、NetBackup は元の場所で.vhd ファイルの検索を試行します。元の場所にそれらのファイルが存在しない場合、リストアは失敗します。親の .vhd ファイルが元のマシンの E:\myVhds\ に存在した場合、リストア時にそのファイルを選択しないと、NetBackup は対象のマシンの E:\myVhds\ で親の .vhd ファイルを検索します。ファイルが存在しない場合、リストアは失敗します。
- [Hyper-V Server にリストア (Restore to Hyper-V server)] または [同一または別の Hyper-V Server 上の異なる場所にリストア (Restore to different locations on same / different Hyper-V server)] の場合、このリスト内の任意の.vhd ファイルのチェックマークをはずすことができます。それ以外のすべてのファイルにはあらかじめチェックマークが付けられており、チェックマークをはずすことはできません。
- [ステージング場所にリストア (Restore to staging location)] の場合、リスト内の任意のファイルのチェックマークをはずすことができます。
- 構成ファイル (xml、bin、vsv、スナップショットファイルなど) は、仮想マシン全体のリストア時に常にリストアされます。

すべてを異なるディレクトリにリストアします (Restore everything to different directory)

このフィールドは、[Hyper-V Server にリストア (Restore to Hyper-V server)] を選択した場合は無効です。

異なる場所またはステージング場所へのリストアの場合、[Hyper-V Server] または [ステージングマシン名 (Staging machine name)] で指定したサーバーのパスか他のマシンのパスを入力します。NetBackup によって適切なサブディレクトリが作成されます。

- パスの表示 (View paths)

Hyper-V のファイルがリストアされる宛先のサーバーのディレクトリが表示されます。[すべてを異なるディレクトリにリストアします (Restore everything to different directory)]フィールドで宛先パスを指定する必要があります。
- デフォルトのジョブの優先度を上書き (Override default job priority)

リストアリソースに対する、リストアジョブの優先度を指定します。優先度が高いとは、最も優先度が高い 1 番目のリストアジョブに、利用可能なドライブが NetBackup によって最初に割り当てられることを意味します。数値を入力します (最大値は 99999)。すべてのリストアジョブのデフォルト値は 0 (ゼロ) です。これは、設定可能な最も低い優先度です。優先度が 0 (ゼロ) より大きいすべてのリストアジョブは、デフォルト設定のリストアジョブより優先されます。

- 9 [次へ (Next)]ダイアログボックスをクリックします。
- 10 詳細を確認します。
- 11 [リストアの開始 (Start Restore)]をクリックします。
- リストアが完了すると、リストアした仮想マシンは[保存済み (Saved)]状態または[オフ (Off)]状態になります。リストア後の状態は、バックアップ時の状態および実行された Hyper-V バックアップの形式によって異なります。
- p.141 の「[VSS 用の Hyper-V のオンラインおよびオフラインバックアップについて](#)」を参照してください。

p.86 の「」を参照してください。

p.136 の「」を参照してください。

リストアオプション

次のリストアオプションから選択します。

メモ: 利用可能なオプションは、バックアップを作成するために使用されたバックアップ方式 (WMI または VSS) によって決まります。

表 8-3 リストアオプション

オプション	説明
Hyper-V 仮想マシンの GUID (Hyper-V virtual machine GUID)	バックアップされた仮想マシンの Hyper-V GUID (グローバル一意識別子) が表示されます。この値を使用して、このバックアップが、リストアする仮想マシンを示していることを確認します。GUID は、ホスト名とともに仮想マシンの一意の文字列です。 SCVMM 環境では、VM GUID は VM ID として参照されます。

オプション	説明
リストアオプション (Restore Options)	次のフィールドを参照してください。
元の Hyper-V Server にリストア (Restore to original Hyper-V server)	元の Hyper-V Server の元の場所に仮想マシンをリストアします。
元のまたは別の Hyper-V Server 上の異なる場所にリストア (Restore to different location on the original or different Hyper-V server)	元の Hyper-V Server 上の異なる場所または別の Hyper-V Server に仮想マシンをリストアします。
ステージング場所にリストア (Restore to staging location)	[ステージングマシン名 (Staging machine name)]および[次のステージングディレクトリにリストア (Restore to the following staging directory)]で指定するサーバー上のステージング場所に仮想マシンのファイルをリストアします。このオプションは、次の場合に使用します。 ■ 仮想マシン全体をリストアしない場合 ■ リストア後に NetBackup によって仮想マシンを起動しない場合 たとえば、リストアされたファイルを vhd ボリュームまたは vhdx ボリュームとして仮想マシンに追加するためにこのオプションを使うことができます。この仮想マシンは、バックアップを作成した対象の仮想マシンではないようにしてください。

オプション	説明
仮想マシンの上書き (Overwrite virtual machine) ([ステージング場所にリストア (Restore to staging location)]を選択した場合は、このオプションは[仮想マシンの上書き (Overwrite existing files)]です)	[Hyper-V Server にリストア (Restore to Hyper-V server)]または[同一または別の Hyper-V Server 上の異なる場所にリストア (Restore to different locations on same / different Hyper-V server)]を選択した場合は、次の点に注意してください。 ■ 宛先のサーバー上に同じ GUID の仮想マシンが存在する場合、その仮想マシンは、構成ファイルおよびスナップショットファイルとともに削除されます。宛先のサーバー上に存在する仮想マシンの既存の vhd または vhdx ファイルは上書きされます。リストア対象に選択した仮想マシンは、バックアップからリストアされます。 ■ [仮想マシンの上書き (Overwrite virtual machine)]オプションが選択されていない場合に、同じ GUID を持つ仮想マシンが宛先サーバーに存在すると、リストアが失敗します。 ■ [仮想マシンの上書き (Overwrite virtual machine)]オプションを選択しない場合に、仮想マシンの vhd または vhdx ファイルが宛先に存在していると、バックアップの vhd ファイルまたは vhdx ファイルはリストアされません。 p.136 の「」を参照してください。 [ステージング場所にリストア (Restore to staging location)]を選択した場合は、次の点に注意してください。 ■ vhd ファイルまたは vhdx ファイルがリストア場所の宛先サーバーにすでに存在する場合、宛先サーバーのファイルは上書きされます。 ■ [既存のファイルの上書き (Overwrite existing files)]オプションを選択しない場合、リストアするファイルがリストアに指定した場所の宛先のサーバーにすでに存在しても、ファイルは上書きされません。リストアに選択したその他のファイルはリストアされます。リストアは、部分的な成功として報告されます。
元の GUID を保持 (Retain original GUID)	リストアされた仮想マシンの元の GUID を保持します。 リストアされた仮想マシン用に新しく GUID を生成するには、このオプションをオフにします。 メモ: このオプションは、WMI 方式でバックアップされた、Hyper-V Server 2016 (およびそれ以降) の仮想マシンにのみ適用できます。 メモ: 元の場所へのリストアの場合 ([元の Hyper-V Server にリストア (Restore to original Hyper-V server)]、[元の GUID を保持 (Retain original GUID)]オプションは選択された状態になり、選択を解除できません。 メモ: [ステージング場所にリストア (Restore to staging location)]を選択した場合、NetBackup は新しい GUID を生成しません。
Hyper-V 仮想マシンの元の GUID (Hyper-V virtual machine original GUID)	仮想マシンの元の GUID を示しています。 メモ: このオプションは、Hyper-V Server 2016 以降の仮想マシンにのみ適用されます。

オプション	説明
Hyper-V 仮想マシンの表示名 (Hyper-V virtual machine display name)	リストアされた仮想マシンの新しい表示名を入力することができます。 メモ: このオプションは、Hyper-V Server 2016 以降の仮想マシンにのみ適用されます。 メモ: このオプションは、[ステージング場所にリストア (Restore to staging location)]を選択した場合は利用できません。
リストア先 (Restore Destinations)	次のフィールドを参照してください。
Hyper-V Server	元の場所にリストアするのに[Hyper-V Server にリストア (Restore to Hyper-V server)]を選択した場合は、リストア先が仮想マシンのバックアップ元の Hyper-V Server の名前であることに注意してください。この場合、宛先は変更できません。 その他のリストアオプション (異なる場所へのリストアまたはステージング場所へのリストア) では、リストア先の Hyper-V Server を入力します。
バックアップファイルのリスト (List of backed up files) (ソース (Source))	仮想マシンのバックアップ時に存在していた Hyper-V 仮想マシンのファイルが表示されます。デフォルトでは、表示されるすべてのファイルがリストア対象として選択されます。 リストアによって、宛先のサーバー上にある現在の仮想マシンの特定のファイルを置き換えない場合は、そのファイルの選択を解除します。リストアするファイルの横のチェックマークは付けたままにします。選択されていないファイルはリストアされません。ステージングのリストア以外のリストアでは、次の仮想マシン構成ファイルの選択を解除できないことに注意してください。 xml、vsv、bin ファイル、および avhd または avhdx ファイル。 注意: 共通ファイルを以前のバージョンに置き換えると、共通ファイルを使用する仮想マシンで問題が発生する可能性があります。Hyper-V サーバーの共通ファイルが上書きされないようにするには、リストアしない共通ファイルの選択を解除します。 表示されるファイルについては、次の点に注意してください。 ■ vhd ファイルまたは vhdx ファイルを選択しないと、NetBackup は元の場所で vhd または vhdx ファイルの検索を試行します。元の場所にそれらのファイルが存在しない場合、リストアは失敗します。親の vhd または vhdx ファイルが元の仮想マシンの E:\myVhds¥ に存在した場合、リストア時にそのファイルを選択しないと、NetBackup は対象の仮想マシンの E:\myVhds¥ で親のファイルを検索します。ファイルが存在しない場合、リストアは失敗します。 ■ [Hyper-V Server にリストア (Restore to Hyper-V server)]または[同一または別の Hyper-V Server 上の異なる場所にリストア (Restore to different locations on same / different Hyper-V server)]の場合、このリスト内の任意の vhd ファイルまたは vhdx ファイルの選択を解除できます。その他のすべてのファイルは事前に選択済みで、選択を解除することはできません。 ■ [ステージング場所にリストア (Restore to staging location)]の場合、リスト内の任意のファイルの選択を解除できます。 ■ 構成ファイル (xml、bin、vsv、スナップショットファイルなど) は、仮想マシン全体のリストア時に常にリストアされます。

オプション	説明
すべてを異なるディレクトリにリストアします (Restore everything to different directory)	このフィールドは、[Hyper-V Server にリストア (Restore to Hyper-V server)]を選択した場合は無効です。 異なる場所またはステージング場所へのリストアの場合、[Hyper-V Server]または[ステージングマシン名 (Staging machine name)]で指定したサーバーのパスか他のコンピュータのパスを入力します。NetBackup によって適切なサブディレクトリが作成されます。
パスの表示 (View paths)	Hyper-V のファイルがリストアされる宛先のサーバーのディレクトリが表示されます。[すべてを異なるディレクトリにリストアします (Restore everything to different directory)]フィールドで宛先パスを指定する必要があります。
デフォルトのジョブの優先度を上書き (Override default job priority)	リストアリソースに対する、リストアジョブの優先度を指定します。優先度が高いとは、最も優先度が高い 1 番目のリストアジョブに、利用可能なドライブが NetBackup によって最初に割り当てられることを意味します。数値を入力します (最大値は 99999)。すべてのリストアジョブのデフォルト値は 0 (ゼロ) です。これは、設定可能な最も低い優先度です。優先度が 0 (ゼロ) より大きいすべてのリストアジョブは、デフォルト設定のリストアジョブより優先されます。
メディアサーバー	このオプションを使用して、バックアップイメージが含まれるストレージユニットにアクセスするメディアサーバーを選択できます。このような環境の例として複数のメディアサーバーで構成するメディアサーバー重複排除グループ (MSDP) があります。 メモ: バックアップイメージを含むストレージユニットが複数のメディアサーバーで共有されていない場合は、このオプションは灰色で表示されます。

共通ファイルのリストアについて

多数の仮想マシンに必要なファイルを含む Hyper-V 仮想ハードディスクを作成することによって、ディスク領域を節約できます。同じ vhd または vhdx ファイルのコピーを複数の場所に存在させる代わりに、複数の仮想マシンで単一のファイルを共有できます。2 つ以上の仮想マシン (それぞれが子と呼ばれる) が、この仮想ディスクにアクセスできます。親の vhd または vhdx ファイルは、複数の仮想マシンによって使用されるため、共通ファイルと呼ばれます。

各仮想マシンに固有のファイルは、差分の仮想ディスクに保持されます。これらの仮想ディスクは、親ディスクに対して子の関係になります。親および子の仮想ディスクは、同じ物理ドライブ上または異なる物理ドライブ上に存在します。

仮想マシンに固有のアプリケーションは、共通ファイルに含まれません。代わりに、それは仮想マシンに固有の vhd または vhdx ファイルに存在します。

注意: 共通ファイルのリストア時には注意してください。共通ファイルの以前のバージョンをリストアする (現在のバージョンを上書きする) と、そのファイルを使用する仮想マシンで問題が発生する場合があります。

ファイルをリストアする **Hyper-V VM** ファイルを参照するときに **BAR** インターフェースに **Hyper-V** スナップショットファイルがリストされる場合がある

共通ファイルのリストア時には、次の点に注意してください。

- 共通ファイルをリストアする前に、その共通ファイルを使用する仮想マシンが[オフ (Off)]状態または[保存済み (Saved)]状態であることを確認します。それ以外の場合、仮想マシンによって共通ファイルがロックされることがあり、リストアは失敗します。
- 現在サーバーに存在する共通ファイルを保持するには、[バックアップファイルのリスト (List of backed up files)]で、共通の vhd ファイルまたは vhdx ファイルの選択を解除します。選択されていない宛先の Hyper-V サーバーのファイルは、リストアによって置き換えられません。
- 既存の共通ファイルを上書きするには、[バックアップファイルのリスト (List of backed up files)]のすべての vhd ファイルまたは vhdx ファイルを選択します。ただし、共通ファイルが宛先のサーバーで使用されている場合、リストアは失敗します。リストアを正常に実行するには、共通ファイルを使用する仮想マシンが[オフ (Off)]状態または[保存済み (Saved)]状態である必要があります。
- 共通ファイルをリストアするときに宛先サーバーに存在する共通ファイルを上書きしないようにするには、[すべてを異なる位置にリストアします (Restore everything to a different location)]を指定します。

ファイルをリストアする **Hyper-V VM** ファイルを参照するときに **BAR** インターフェースに **Hyper-V** スナップショットファイルがリストされる場合がある

リストアする VM ファイルを参照すると、**NetBackup** の[バックアップ、アーカイブおよびリストア (Backup, Archive, and Restore)]インターフェースに **Hyper-V** スナップショットファイルがリストされる場合があります。

この例では、apvm-AutoRecovery.avhd は **Hyper-V** スナップショットファイル (apvm.vhd は親 vhd ファイル) です。

VM を元の場所または別の場所にリストアするときに、**NetBackup** は自動的にスナップショットデータを適切なデータとして使用するか、無視します。

ただし、次の場合、**Hyper-V** スナップショットファイルをリストアするか、リストアから除外するかを決める必要があります。

- **BAR** インターフェースで[仮想マシンのバックアップからリストア (Restore from Virtual Machine Backup)]を選択します。
- さらに、[マークされたファイルのリストア (Restore Marked Files)]ダイアログボックスで、[ステージング場所にリストア (Restore to staging location)]を選択します。

この場合、次の基準(**Hyper-V Server** バージョンに基づく)に基づいて、スナップショットファイルを識別し、リストアするかどうかを決めます。

Windows 2012 R2 Hyper-V Server

Linux ゲスト OS の VM の場合: Hyper-V スナップショットファイルは ChildVhd.avhd または ChildVhd.avhdx です。このスナップショットのデータはアプリケーションで一貫していません。ほとんどのインスタンスでこのファイルをリストアしないことが最善です。

メモ: [Hyper-V Server にリストア (Restore to Hyper-V server)]または[同一または別の Hyper-V Server 上の異なる場所にリストア (Restore to different locations on same / different Hyper-V server)]を選択すると、NetBackup は自動的にスナップショットファイルを除外します。

メモ: スナップショットの親ファイル (例では apvm.vhd) と他の VM ファイルでデータは完全です。VM データをリストアするには、それらのファイルをリストアする必要があります。

2014 年 4 月の 2012 R2 アップデートが適用された Windows 2012 R2 Hyper-V Server

Linux ゲスト OS の VM の場合: Hyper-V スナップショットファイル名は、`vmname_guid.avhd` または `vmname_guid.avhdx` です。このスナップショットのデータはアプリケーションで一貫していません。ほとんどのインスタンスでこのファイルをリストアしないことが最善です。

メモ: [Hyper-V Server にリストア (Restore to Hyper-V server)]または[同一または別の Hyper-V Server 上の異なる場所にリストア (Restore to different locations on same / different Hyper-V server)]を選択すると、NetBackup は自動的にスナップショットファイルを除外します。

メモ: スナップショットの親ファイル (例では apvm.vhd) と他の VM ファイルでデータは完全です。VM データをリストアするには、それらのファイルをリストアする必要があります。

2014 年 4 月の 2012 R2 アップデートが適用された、または適用されていない Windows 2012 R2 Hyper-V Server

Windows 2012/2012 R2 ゲスト OS の VM の場合: Hyper-V スナップショットファイルは、`AutoRecovery.avhd` または `AutoRecovery.avhdx` です。このスナップショットのデータはアプリケーションで一貫しています。VM データをリストアするには、このファイルを親 `vhd(x)` ファイルと共にリストアする必要があります。

ファイルをリストアする **Hyper-V VM** ファイルを参照するときに **BAR** インターフェースに **Hyper-V** スナップショットファイルが
リストされる場合がある

メモ: [Hyper-V Server にリストア (Restore to Hyper-V server)] または [同一または別の Hyper-V Server 上の異なる場所にリストア (Restore to different locations on same / different Hyper-V server)] を選択すると、NetBackup は自動的にスナップショットデータをリストアに含めます。

アクセラレータを使用した Hyper-V のバックアップ

この章では以下の項目について説明しています。

- 仮想マシンの **NetBackup Accelerator** について
- アクセラレータ: 完全スケジュールと増分スケジュール
- **NetBackup** アクセラレータが仮想マシンとどのように連携して働くか
- **Accelerator** 仮想マシンの注意および要件
- 仮想マシンのアクセラレータ強制再スキャン (スケジュールの属性)
- アクセラレータには **OptimizedImage** 属性が必要
- アクセラレータバックアップおよび **NetBackup** カタログ
- バックアップジョブ詳細ログのアクセラレータメッセージ
- 仮想マシンでのアクセラレータの **NetBackup** ログ
- ネットワークを介して転送されたアクセラレータバックアップのデータ量の報告について
- **NetBackup** コマンド出力でのネットワーク転送されたデータとのアクセラレータのイメージサイズの置換

仮想マシンの **NetBackup Accelerator** について

メモ: アクセラレータは、変更頻度が高くない仮想マシンデータに使うのが最適です。

アクセラレータには次の利点があります。

- 従来のバックアップより完全バックアップを速く実行できます。バックアップホストとサーバーの間に、コンパクトなバックアップストリームを作成するので、ネットワーク回線容量が少なくすみます。
アクセラレータはバックアップのために変更されたデータブロックだけを送信します。その後、**NetBackup** は変更されたブロックデータが含まれている **NetBackup** の完全な従来のイメージを生成します。
-
- バックアップホストの I/O を減らします。
- バックアップホストの CPU 負荷を減らします。

アクセラレータ: 完全スケジュールと増分スケジュール

NetBackup アクセラレータは完全バックアップと増分バックアップをサポートしています。

メモ: 初回の完全バックアップ後、完全スケジュールのアクセラレータバックアップには、従来の増分バックアップとほぼ同じ I/O とパフォーマンスの効果が表れます。しかし、**NetBackup** カタログには、バックアップが従来の完全バックアップであった場合(非アクセラレータ)、すべてのカタログの参照が含まれます。

メモ: お客様がアクセラレータを有効にした **Hyper-V** ポリシーを設定している場合、以前のいずれかのリリースからアップグレードすると、最適化は最初のバックアップでのみ失われます。

NetBackup アクセラレータが仮想マシンとどのように連携して働くか

NetBackup Accelerator では、バックアップストリームとバックアップイメージを次のように作成します。

-
- 回目のバックアップでは、**NetBackup** は、前回のバックアップ以降変更されたデータを識別します。変更されたブロックとヘッダー情報のみが、完全な仮想ディスクバックアップを作成するためにバックアップに含まれます。
- バックアップホストは、次のもので構成される **tar** のバックアップストリームをメディアサーバーに送信します。仮想マシンで変更されたブロック、前回のバックアップ ID、変更されていないブロックのデータエクステンツ (ブロックオフセットとサイズ)。

- メディアサーバーは仮想マシンにより変更されたブロック、バックアップ ID および変更されていないブロックのデータエクステントに関する情報を読み込みます。メディアサーバーは、読み込んだバックアップ ID とデータエクステントから、既存のバックアップにあるその他仮想マシンデータの場所を特定します。
- メディアサーバーはストレージサーバーを次のもので構成される新しく完全なイメージを生成するために指示します。それは、新しく変更されたブロックとストレージサーバーに存在する既存の変更されていないブロックです。ストレージサーバーは既存のブロックに書き込むのではなく、イメージにリンクすることがあります。

Accelerator 仮想マシンの注意および要件

Accelerator 仮想マシンについて次のことに注意してください。

- 次のストレージ先のディスクストレージ単位をサポートします。
 - クラウドストレージ。サポート対象のクラウドストレージベンダーが提供するストレージ。
 - NetBackup メディアサーバー重複排除プール。NetBackup メディアサーバーに加え、NetBackup 5200 シリーズアプライアンスではメディアサーバー重複排除プールストレージをサポートします。
 - 認定されたサードパーティ OpenStorage デバイス。

ストレージユニットが Accelerator をサポートしているか確認するには、現在サポートされている OST 製造元の NetBackup ハードウェア互換性リストを参照してください。

- 必要に応じ、NetBackup デバイスマッピングファイルを更新してください。NetBackup のデバイスマッピングファイルには、NetBackup が使うことができるすべてのストレージデバイス装置タイプが含まれています。アクセラレータに対応する新規デバイスまたはアップグレードされたデバイスのサポートを加えるには、Cohesity Technical Support Web サイトから最新のデバイスマッピングファイルをダウンロードします。

デバイスマップファイルに関する情報とそのダウンロード方法については『NetBackup の管理者ガイド Vol. I』を参照してください。

- ストレージユニットグループは、グループでのストレージユニットの選択がフェールオーバーの場合にのみサポートされます。
- 完全バックアップと増分バックアップをサポートします。あらゆる Accelerator バックアップでは (完全スケジュールまたは増分スケジュールにより) 仮想マシンの完全なイメージを作成します。
- 増分バックアップ (累積または差動) は、次のために使用できます。ファイルマップのオーバーヘッドを減らし、NetBackup カタログに記録されるファイル数を減らすため。累積バックアップでは、どのファイルが変更したか判断するために、ランダムなインデッ

クス付け方法を使わないので多くのファイルマップを含むことがあります。差分バックアップは累積バックアップより速いことがあります。

- ポリシーを作成するとき、ポリシーに関連付けられるストレージユニットを検証できない場合は、後でバックアップジョブが始まる時ストレージユニットが検証されることに留意してください。アクセラレータがストレージユニットをサポートしない場合、バックアップは失敗します。bpbrmログに、以下のいずれかのようなメッセージが表示されます。

```
Storage server %s, type %s, doesn't support image include.
```

```
Storage server type %s, doesn't support accelerator backup.
```

- **Accelerator** では、ストレージの[OptimizedImage]属性が有効になっている必要があります。
p.108 の「[アクセラレータには OptimizedImage 属性が必要](#)」を参照してください。

仮想マシンのアクセラレータ強制再スキャン (スケジュールの属性)

[アクセラレータ強制再スキャン (**Accelerator forced rescan**)]を使用すると、仮想マシンのすべてのデータがバックアップされます。このバックアップは、ポリシーの最初のアクセラレータバックアップに似ています。したがって、強制再スキャンジョブの場合、アクセラレータの最適化の割合は **0** です。バックアップの所要時間は、アクセラレータを使わない場合の完全バックアップの所要時間とほぼ同様です。

アクセラレータには OptimizedImage 属性が必要

アクセラレータでは、ストレージの OptimizedImage 属性が有効になっている必要があります。

ストレージが適切に構成されているかを確認するには、次のストレージオプションの文書を参照してください。

- **NetBackup** メディアサーバー重複排除プール。
OptimizedImage 属性はデフォルトで有効になっています。以前のリリースでストレージサーバーとプールを作成した場合は、OptimizedImage の構成を行う必要があります。
『[NetBackup Deduplication ガイド UNIX、Windows および Linux](#)』を参照してください。
- サードパーティディスクアプライアンスへのバックアップ。
ストレージデバイスは、OptimizedImage 属性をサポートしている必要があります。
『[NetBackup OpenStorage Solutions ガイド for Disk](#)』を参照してください。

- NetBackup がサポートするクラウドストレージ。
『NetBackup クラウド管理者ガイド』を参照してください。

アクセラレータバックアップおよび NetBackup カタログ

アクセラレータを使用しても、NetBackup カタログのサイズに影響はありません。アクセラレータを使用する完全バックアップでは、アクセラレータなしで同じデータを完全バックアップする場合と同じカタログサイズになります。これは、増分バックアップでも同様です。アクセラレータを使用するとき、アクセラレータなしの同じバックアップより大きいカタログ領域を必要としません。

ただし、Web UI で[ファイルハッシュの計算 (Calculate file hash)]オプションを有効にすると、NetBackup カタログは 20% 以上増加する見込みです。このオプションは、ファイルハッシュの情報を NetBackup カタログに保存するために使用します。詳しくは、『NetBackup Web UI 管理者ガイド』を参照してください。

カタログの影響が生じる可能性は、完全バックアップにアクセラレータをどのくらい頻繁に使用するかに応じます。アクセラレータを使用する完全バックアップは、通常の完全バックアップより高速に完了します。このため、増分バックアップの代わりにアクセラレータによる完全バックアップを使いたいと考える場合もあるでしょう。ただし、完全バックアップでは増分バックアップより大きなカタログ領域が必要なので、増分バックアップを完全バックアップに入れ替えるとカタログサイズが増します。増分バックアップを完全バックアップに変更する場合、増分バックアップに比べて完全バックアップに必要なカタログ領域の大きさに対して、アクセラレータによる完全バックアップがどの程度有利かを評価する必要があります。

バックアップジョブ詳細ログのアクセラレータメッセージ

仮想マシンを最初にバックアップするときは、そのバックアップにアクセラレータは使用されません。[ジョブの詳細 (Job Details)]ログには次のメッセージが表示されます。

```
7/25/2012 4:45:35 PM - Info bpbrm(pid=6192) There is no complete  
backup image match with track journal, a regular full backup will  
be performed
```

...

```
7/25/2012 4:53:22 PM - Info bpbkar32(pid=5624) accelerator sent  
5844728320 bytes out of 5844726784 bytes to server, optimization 0.0%
```

それ以降の仮想マシンのバックアップでアクセラレータを使う場合は、次のメッセージが[ジョブ詳細のログ (job details)]に表示されます。

```
7/27/2012 4:40:01 AM - Info bpbrm(pid=412) accelerator enabled
```

...

```
7/27/2012 4:43:07 AM - Info bpbkar32(pid=4636) accelerator sent
74764288 bytes out of 5953504256 bytes to server, optimization 98.7%
```

このメッセージはアクセラレータの主要トレースです。この例では、アクセラレータはバックアップデータの 98.7 % 削減に成功しました。

仮想マシンでのアクセラレータの NetBackup ログ

アクセラレータは、それ自体のログディレクトリを必要としません。アクセラレータに関するログメッセージについては、次の NetBackup の標準ログディレクトリを参照してください。

表 9-1 アクセラレータ情報を含む場合がある NetBackup ログ

ログディレクトリ	場所
UNIX の場合: /usr/openv/netbackup/logs/bpbbrm Windows の場合: <code>install_path¥NetBackup¥logs¥bpbbrm</code>	NetBackup プライマリサーバーまたはメディアサーバー
UNIX の場合: /usr/openv/netbackup/logs/bptm Windows の場合: <code>install_path¥NetBackup¥logs¥bptm</code>	NetBackup メディアサーバー
/usr/openv/netbackup/logs/bpbkar Windows の場合: <code>install_path¥NetBackup¥logs¥bpbkar</code>	バックアップホスト
/usr/openv/netbackup/logs/bpfis Windows の場合: <code>install_path¥NetBackup¥logs¥bpfis</code>	バックアップホスト
VxMS ログ	

ログディレクトリを作成するには、NetBackup サーバーおよびバックアップホストで、次のコマンドを実行します。

Windows の場合:

```
install_path¥NetBackup¥logs¥mklogdir.bat
```

UNIX または Linux の場合:

```
/usr/openv/netbackup/logs/mklogdir
```

ネットワークを介して転送されたアクセラレータバックアップのデータ量の報告について

アクセラレータバックアップの報告では、一部の **NetBackup** コマンドは、各アクセラレータバックアップについて、ネットワークを介して転送されたデータ量を報告できます。通常、転送されたデータ量はアクセラレータバックアップイメージのサイズよりも大幅に小さくなります。

各アクセラレータバックアップについて、**NetBackup** は、クライアント(または VM)の変更されたブロックを前回のバックアップから変更されていないデータと組み合わせて、バックアップイメージを合成します。ただし、**NetBackup** はバックアップの発生時に変更されたデータのみをネットワーク経由で送信します。その結果として生じるバックアップイメージは、ネットワークを移動するバックアップデータの量よりも大幅に大きくなる場合があります。バックアップの報告では、バックアップイメージのサイズとネットワークを介して転送されたデータ量を区別することが重要です。

アクセラレータバックアップでは、ネットワーク転送されたデータを `bpdjobs`、`bpimagelist`、`bpclimagelist` という **NetBackup** コマンドの出力に表示させることができます。

表 9-2 には、これらのコマンドのデフォルトの場所がリストされます。

表 9-2 `bpdjobs`、`bpimagelist`、`bpclimagelist` のデフォルトの場所

コマンド	デフォルトの場所
<code>bpdjobs</code> 、 <code>bpimagelist</code>	Windows の場合: <code>install_path¥NetBackup¥bin¥admincmd¥</code> UNIX および Linux の場合 <code>/usr/opensv/netbackup/bin/admincmd/</code>
<code>bpclimagelist</code>	Windows の場合: <code>install_path¥NetBackup¥bin¥</code> UNIX および Linux の場合 <code>/usr/opensv/netbackup/bin/</code>

次の例では、`bpimagelist` コマンドを使って、`acmevm2` のバックアップの結果を示しています。

```
bpimagelist -backupid acmevm2
```

出力例は次のとおりです。

```
IMAGE acmevm2 0 0 12 acmevm2 accl_vmware 40 *NULL* root f 0 9 14344
79628 558 2147483647 0 0 7799632 28196 1 2 0 accl_vmware_1434479628_FULL.f *NULL
* *NULL* 0 1 0 0 0 *NULL* 0 0 1 0 0 1434479628 1434479628 *NULL* 0 0 0 *NULL* 9
0 0 3398732 0 0 *NULL* *NULL* 0 1434479620 0 0 *NULL* *NULL* 0 0 0 225792
HISTO 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
FRAG 1 -1 3319 76 0 0 0 @aaaab acmevm6.acme.com 262144 0 0 -1 102
4 1;PureDisk; acmevm6.acme.com;msdp_dp;PureDiskVolume;0 2147483647
0 65545 0 0 0 6 0 1434480186 1 1 *NULL* *NULL* 0 0
FRAG 1 1 7796313 0 0 0 0 @aaaab acmevm6.acme.com 262144 0 0 -1 10
28 1;PureDisk; acmevm6.acme.com;msdp_dp;PureDiskVolume;0 214748364
7 0 65545 0 0 0 6 0 1434480186 1 1 *NULL* *NULL* 0 0
```

この例では、キロバイト単位のバックアップイメージサイズは **7799632** で、ネットワークを介して転送されたデータ量は **225792** です。

次のコマンドを使って、アクセラレータバックアップでネットワークを介して転送されたデータ量を表示できます。

bpimagelist

```
bpimagelist -backupid backup_id [-l | -L | -json | -json_compact]
```

括弧 [] は省略可能な要素を示し、垂直線 | は括弧内のオプションのいずれか 1 つのみを選択できることを示します。

表 9-3 では、ネットワーク転送されたデータのフィールドが bpimagelist 出力でどのように表示されるかについて説明します。

表 9-3 アクセラレータバックアップでネットワーク転送されたデータ量を表示する bpimagelist オプション

bpimagelist オプション	ネットワーク転送されたデータのフィールドが表示される方法
オプションなし	このフィールドはラベル付けされていません。たとえば、225792 と入力します。 この項の前半に記載されている bpimagelist の例の出力を参照してください。
-l	このフィールドはラベル付けされていません (オプションなしと同じ)。たとえば、225792 と入力します。
-L	このフィールドはラベル付けされています。例: Kilobytes Data Transferred: 225792

bpimagelist オプション	ネットワーク転送されたデータのフィールドが表示される方法
-json	このフィールドはラベル付けされています。例: "kilobytes_data_transferred": 225792,
-json_compact	このフィールドはラベル付けされています。例: "kilobytes_data_transferred":225792,

bpdbjobs

```
bpdbjobs -jobid job_id -report -most_columns
```

または

```
bpdbjobs -jobid job_id -report -all_columns
```

ネットワーク転送されたデータのフィールドは出力の最後に表示されます。

bpclimagelist

```
bpclimagelist -client client_name
```

このコマンドは、通常でアクセラレータバックアップのイメージサイズを表示するフィールドにネットワーク転送されたデータのみを表示します。このコマンドを使ってネットワーク転送されたデータを表示するには、**NetBackup** 設定を構成する必要があります。

p.113 の「[NetBackup コマンド出力でのネットワーク転送されたデータとのアクセラレータのイメージサイズの置換](#)」を参照してください。

これらのコマンドについて詳しくは、『**NetBackup** コマンドリファレンスガイド』の該当ページを参照してください。

NetBackup コマンド出力でのネットワーク転送されたデータとのアクセラレータのイメージサイズの置換

bpimagelist、bpdbjobs、bpclimagelist の出力を構成して、バックアップイメージサイズの代わりに、ネットワークを介して転送されたアクセラレータバックアップのデータの量を表示できます。

アクセラレータのイメージサイズを表示するデフォルトの bpimagelist 出力を次に示します (円で囲まれた値 **7799632** を参照)。ネットワーク転送されたデータはこの出力の終端部に表示されます (**225792**)。

```
IMAGE acmevm2 0 0 12 acmevm2 accl_vmware 40 *NULL* root f 0 9 14344
79628 558 2147483647 0 0 7799632 28196 1 2 0 accl_vmware_1434479628_FULL.f *NULL
* *NULL* 0 1 0 0 0 *NULL* 0 0 1 0 0 1434479628 1434479628 *NULL* 0 0 0 *NULL* 9
0 0 3398732 0 0 *NULL* *NULL* 0 1434479620 0 0 *NULL* *NULL* 0 0 0 225792
HISTO 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
FRAG 1 -1 3319 76 0 0 0 @aaaab acmevm6.acme.com 262144 0 0 -1 102
4 1;PureDisk; acmevm6.acme.com;msdp_dp;PureDiskVolume;0 2147483647
0 65545 0 0 0 6 0 1434480186 1 1 *NULL* *NULL* 0 0
FRAG 1 1 7796313 0 0 0 0 @aaaab acmevm6.acme.com 262144 0 0 -1 10
28 1;PureDisk; acmevm6.acme.com;msdp_dp;PureDiskVolume;0 214748364
7 0 65545 0 0 0 6 0 1434480186 1 1 *NULL* *NULL* 0 0
```

NetBackup コマンド出力を構成して、イメージサイズフィールドにネットワーク転送されたデータを表示できます。出力で、イメージサイズの値がネットワーク転送されたデータの値に置換されます(次の例を参照)。これで、コマンド出力からイメージサイズを読み取るスクリプトによって、ネットワーク転送されたデータの量が読み取られるようになります。

次のbpimagelist 出力では、イメージサイズフィールドにネットワーク転送されたデータ(225792)が表示されます。

```
IMAGE acmevm2 0 0 12 acmevm2 accl_vmware 40 *NULL* root f 0 9 14344
79628 558 2147483647 0 0 225792 28196 1 2 0 accl_vmware_1434479628_FULL.f *NULL
* *NULL* 0 1 0 0 0 *NULL* 0 0 1 0 0 1434479628 1434479628 *NULL* 0 0 0 *NULL* 9
0 0 3398732 0 0 *NULL* *NULL* 0 1434479620 0 0 *NULL* *NULL* 0 0 0 225792
HISTO 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
FRAG 1 -1 3319 76 0 0 0 @aaaab acmevm6.acme.com 262144 0 0 -1 102
4 1;PureDisk; acmevm6.acme.com;msdp_dp;PureDiskVolume;0 2147483647
0 65545 0 0 0 6 0 1434480186 1 1 *NULL* *NULL* 0 0
FRAG 1 1 7796313 0 0 0 0 @aaaab acmevm6.acme.com 262144 0 0 -1 10
28 1;PureDisk; acmevm6.acme.com;msdp_dp;PureDiskVolume;0 214748364
7 0 65545 0 0 0 6 0 1434480186 1 1 *NULL* *NULL* 0 0
```

メモ:

これらのコマンドのラベル付き出力(たとえば、bpimagelist の -L オプション)でも同じ変更が発生します。たとえば、Kilobytesフィールドには、アクセラレータバックアップのイメージサイズではなく、転送データ値(この例では 225792)が表示されます。

bpimagelist、bpdjobs、bpclimagelist のアクセラレータのイメージサイズフィールドのネットワーク転送されたデータの報告を有効にする方法

- ◆

bpsetconfig コマンドを使って、出力の変更を有効にします。
- bpclimagelist コマンドに対してこの変更を有効にするには、プライマリサーバーで bpsetconfig コマンドを入力します。bpimagelist または bpdjobs に対してこの変更を有効にするには、bpimagelist または bpdjobs を実行するサーバー上で bpsetconfig コマンドを入力します。
- 報告対象のアクセラレータバックアップの形式に基づいて使う bpsetconfig コマンドについては、表 9-4 を参照してください。

表 9-4

bpimagelist、bpclimagelist、bpdjobs 出力のアクセラレータのイメージサイズフィールドのネットワーク転送されたデータの報告を有効にする方法

報告対象のバックアップ形式	入力するコマンド
アクセラレータ仮想マシンの増分バックアップ (VMware と Hyper-V)	Windows の場合 echo REPLACE_IMAGE_SIZE_WITH_DATA_TRANSFERRED = REPLACE_IMAGE_SIZE_FOR_ACCL_INC_VIRTUAL install_path¥NetBackup¥bin¥admincmd¥bpsetconfig UNIX および Linux の場合 echo "REPLACE_IMAGE_SIZE_WITH_DATA_TRANSFERRED = REPLACE_IMAGE_SIZE_FOR_ACCL_INC_VIRTUAL" /usr/openv/netbackup/bin/admincmd/bpsetconfig
アクセラレータ仮想マシンのすべてのバックアップ (VMware と Hyper-V、完全と増分)	Windows の場合 echo REPLACE_IMAGE_SIZE_WITH_DATA_TRANSFERRED = REPLACE_IMAGE_SIZE_FOR_ACCL_ALL_VIRTUAL install_path¥NetBackup¥bin¥admincmd¥bpsetconfig UNIX および Linux の場合 echo "REPLACE_IMAGE_SIZE_WITH_DATA_TRANSFERRED = REPLACE_IMAGE_SIZE_FOR_ACCL_ALL_VIRTUAL" /usr/openv/netbackup/bin/admincmd/bpsetconfig

報告対象のバックアップ形式	入力するコマンド
アクセラレータのすべての増分バックアップ (物理クライアントと仮想マシン)	Windows の場合 <pre>echo REPLACE_IMAGE_SIZE_WITH_DATA_TRANSFERRED = REPLACE_IMAGE_SIZE_FOR_ACCL_INC_ALL install_path¥NetBackup¥bin¥admincmd¥bpsetconfig</pre> UNIX および Linux の場合 <pre>echo "REPLACE_IMAGE_SIZE_WITH_DATA_TRANSFERRED = REPLACE_IMAGE_SIZE_FOR_ACCL_INC_ALL" /usr/opensv/netbackup/bin/admincmd/bpsetconfig</pre>
すべてのアクセラレータバックアップ (完全と増分、物理クライアント、仮想マシン)	Windows の場合 <pre>echo REPLACE_IMAGE_SIZE_WITH_DATA_TRANSFERRED = REPLACE_IMAGE_SIZE_FOR_ACCL_ALL_ALL install_path¥NetBackup¥bin¥admincmd¥bpsetconfig</pre> UNIX および Linux の場合 <pre>echo "REPLACE_IMAGE_SIZE_WITH_DATA_TRANSFERRED = REPLACE_IMAGE_SIZE_FOR_ACCL_ALL_ALL" /usr/opensv/netbackup/bin/admincmd/bpsetconfig</pre>

コマンド出力をデフォルト設定にリセットする方法

- ◆ アクセラレータイメージサイズフィールドのネットワーク転送されたデータの報告を無効にする(デフォルトに戻る)には、次を入力します。

Windows の場合

```
echo REPLACE_IMAGE_SIZE_WITH_DATA_TRANSFERRED =
REPLACE_IMAGE_SIZE_DISABLED |
install_path¥NetBackup¥bin¥admincmd¥bpsetconfig
```

UNIX および Linux の場合

```
echo "REPLACE_IMAGE_SIZE_WITH_DATA_TRANSFERRED =
REPLACE_IMAGE_SIZE_DISABLED" |
/usr/opensv/netbackup/bin/admincmd/bpsetconfig
```

推奨する実施例および詳細情報

この章では以下の項目について説明しています。

- [ベストプラクティス](#)

ベストプラクティス

NetBackup for Hyper-V について以下を推奨します。

- 仮想マシンを作成する場合は、仮想マシンのホスト名と表示名の両方に同じ名前を使用します。NetBackup ポリシーの[プライマリ VM 識別子 (Primary VM identifier)] オプションが変更された場合でも、NetBackup ポリシーの[クライアント (Clients)] タブの既存のエントリはまだ動作します。
[p.38 の「プライマリ VM 識別子オプション \(Hyper-V\)」](#)を参照してください。
- VM が共通の親ディスクを共有する仮想デスクトップインフラストラクチャでは、元の場所に VM をリストアするときに、VM の親ディスクではなく差分ディスクをリストアします。同じリストアパスに、親ディスクがすでに存在することを確認してください。
[マークされたファイルのリストア (Restore Marked Files)] ダイアログの[バックアップファイルのリスト (List of backed up files)] で、親ディスクのチェックマークをはずします。次の例では、親ディスク vm1.vhdx は選択されていません。

List of backed up files:

Source	Backup Date
☐ C:\Users\Public\Documents\Hyper-V\Virtual Hard Disks\watchdogs...	Aug 15, 2016 12:28:39 AM
☒ C:\Users\Public\Documents\Hyper-V\Virtual Hard Disks\diff.vhdx	Aug 15, 2016 12:28:39 AM
☐ C:\Users\Public\Documents\Hyper-V\Virtual Hard Disks\vm1.vhdx	Aug 15, 2016 12:28:39 AM

メモ: 親ディスクを元の場所にリストアする場合、親ディスクを共有する他のリンクされた VM は使用できません。それらの VM の親ディスクに対する接続は失われます。代わりに、親ディスクなしで差分ディスクをリストアして、同じリストアパスに、親ディスクがすでに存在することを確認してください。確認できないと、親ディスクが存在しないためにリストアは失敗します。

メモ: この問題は、代替の場所に VM をリストアするときには該当しません。リストアの場所の他の VM が親ディスクを共有していないのであれば、差分ディスクとともに親ディスクをリストアすることができます。

注意: 元の場所にリストアする場合に、親ディスクをリストアしてから、リンクされた VM の差分ディスクをリストアされた親ディスクに再接続してそれらの VM を編集すると、VM のデータが消失する可能性があります。

NetBackup および Hyper-V には、他にも詳細情報があります。

- サポート対象の Hyper-V Server のリストについては、次の場所から入手できる NetBackup ソフトウェア互換性リストの該当するバージョンを参照してください。
[NetBackup のすべてのバージョンの互換性リスト](#)
- NetBackup による Hyper-V のサポートについて詳しくは、次を参照してください。
『仮想環境での NetBackup のサポート』
- Microsoft TechNet では、さまざまな情報を参照できます。
たとえば、『Hyper-V Getting Started Guide』を参照します。
<http://technet.microsoft.com/en-us/library/cc732470.aspx>

トラブルシューティング

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup for Hyper-V のログとその作成方法](#)
- [ポリシーの作成中のエラー](#)
- [Hyper-V に関連する NetBackup の状態コード](#)
- [複数の仮想マシンのバックアップジョブがハングアップする](#)
- [Windows NTFS シャドウストレージの表示またはサイズ調整](#)
- [Hyper-V 統合コンポーネントがインストールされていない](#)
- [LDM ボリュームと状態コード 1](#)
- [Hyper-V スナップショット \(avhd または avhdx ファイル\) と状態コード 1](#)
- [同じ CSV に存在する仮想マシンをバックアップする場合、Windows の警告 1584 は無視できる](#)
- [代替クライアントによるバックアップの問題](#)
- [リストアした仮想マシンの起動に失敗する](#)
- [リストアされた仮想マシンの再起動に関する問題: Why did the computer shut down unexpectedly?](#)
- [個々のファイルのリストアの問題](#)
-
- [WMI 方式を使ったバックアップ中に VM にユーザーチェックポイントが存在する場合、リストア後に VM の仮想ディスク設定を変更できない](#)
- [WMI のディスク作成のタイムアウト値の増加](#)

- [Linux VM と永続的なデバイス名前](#)

NetBackup for Hyper-V のログとその作成方法

NetBackup for Hyper-V バックアップまたはリストアに関するログメッセージについては、次の NetBackup ログフォルダを参照してください。

表 11-1 Hyper-V バックアップおよびリストアに関連する NetBackup ログ

ログフォルダ	メッセージの内容	場所
<code>install_path\NetBackup\logs\bpbrm</code>	バックアップおよびリストア	NetBackup プライマリサーバーまたはメディアサーバー
<code>install_path\NetBackup\logs\bptm</code>	バックアップおよびリストア	NetBackup メディアサーバー
<code>install_path\NetBackup\logs\bpacd</code>	スナップショット作成、バックアップ、およびリストア	Hyper-V Server の NetBackup クライアント
<code>install_path\NetBackup\logs\bpfis</code>	スナップショットの作成およびバックアップ	Hyper-V Server の NetBackup クライアント
<code>install_path\NetBackup\logs\bpbkar</code>	バックアップ	Hyper-V Server の NetBackup クライアント
<code>install_path\NetBackup\logs\bpbrd</code>	リストア	NetBackup プライマリサーバー
<code>install_path\NetBackup\logs\btar</code>	リストア	Hyper-V Server の NetBackup クライアント
<code>install_path\NetBackup\logs\bpVMreq</code>	リストア	NetBackup プライマリサーバーまたはメディアサーバー、および Hyper-V Server の NetBackup クライアント
<code>install_path\NetBackup\logs\bpVMutil</code>	ポリシーの構成およびリストア	Hyper-V Server の NetBackup クライアント
<code>install_path\NetBackup\logs\bnproxy</code>	ポリシーの構成	NetBackup プライマリサーバーまたはメディアサーバー

ログフォルダ	メッセージの内容	場所
install_path¥NetBackup¥logs¥vxms	バックアップ時のファイルマッピングおよび VxMS API。 このフォルダには vhd ログも含まれます。このログには、仮想マシンの .vhd ファイルの形式が記載されています。NetBackup サポートでは、トラブルシューティングの目的で、vhd ログを使用してユーザーの仮想マシンの環境を再現する場合があります。	Hyper-V Server の NetBackup クライアント
¥Program Files¥Common Files¥Symantec Shared¥VxFI¥4¥logs¥	スナップショットの作成および VSS API。	Hyper-V Server の NetBackup クライアント p.121 の「 VxFI ログの有効化 」を参照してください。

メモ: これらのログフォルダは、ログの記録用にあらかじめ存在している必要があります。これらのフォルダが存在しない場合は作成する必要があります。

これらログフォルダのほとんどを作成するには、NetBackup サーバーおよび Hyper-V Server で次のコマンドを実行します。

Windows の場合:

```
install_path¥NetBackup¥logs¥mklogdir.bat
```

UNIX の場合 (プライマリサーバーまたはメディアサーバー上):

```
/opt/openssl/netbackup/logs/mklogdir
```

スナップショットに関連するログ、ログレベル、必要なフォルダについて詳しくは、『NetBackup Snapshot Manager for Data Center 管理者ガイド』を参照してください。

NetBackup ログについて詳しくは、『NetBackup トラブルシューティングガイド』を参照してください。

VxFI ログの有効化

デフォルトでは、VxFI ログはエラーレベルで記録されます。適切なプロバイダに合わせてログ構成ファイルを変更することによって、ログの詳細度を上げることができます。

VxFI ログレベルを上げる方法

- 1 NetBackup クライアントがインストールされている Hyper-V Server の Windows デスクトップで、次の場所に移動します。

¥Program Files¥Common Files¥Symantec Shared¥VxFI¥4¥ConfigFiles¥

このフォルダには、各プロバイダ用の構成ファイル (vss.conf および emccclariionfi.conf など) が含まれます。これらのファイルは、VxFI プロバイダのロードが成功した後で、通常、NetBackup ポリシーの検証時に生成されます。

- 2 適切なプロバイダに合わせて、.conf ファイルを次のように編集します。

TRACELEVEL エントリを次のように変更します。

```
"TRACELEVEL"=dword:00000006
```

デフォルトの TRACELEVEL の値は 00000001 です。

VSS および WMI プロバイダのログが Hyper-V に関連することに注意してください。

- 1 VxMS ログディレクトリを作成します。

```
install_path¥NetBackup¥logs¥vxms
```

注意: ログを記録するには、VxMS フォルダが必要です。

注意: NetBackup mklogdir.bat コマンドを実行している場合は、VxMS ログディレクトリはすでに存在します。

- 2 Windows のレジストリで、DWORD レジストリエントリ vxms_VERBOSE を次の場所に作成します。

```
[HKEY_LOCAL_MACHINE] > [SOFTWARE] > [Veritas] > [NetBackup] > [CurrentVersion] > [Config]
```

- 3 ログ記録レベルを設定するため、vxms_VERBOSE の数値を 0 以上に設定します。数値が多いほど詳細なログとなります。

利用可能なログレベルについては、表 11-2 を参照してください。

- 4 ログの保存場所を変更するには:

- regedit を開き、次の場所に移動します。

```
[HKEY_LOCAL_MACHINE] > [SOFTWARE] > [Veritas] > [NetBackup] > [CurrentVersion]
```

- 文字列値 (REG_SZ) を持つレジストリエントリ vxmslogdir を作成します。文字列値に、既存のフォルダの絶対パスを指定します。

注意: VxMS ログフォルダに NTFS 圧縮を使用してログの容量を圧縮できます。新しいログは圧縮された形式でのみ書き込まれるようになります。

注意: VxMS ログの場所が変わると、ログアシスタントはログを収集しません。

VxMS のログレベル

表 11-2 は、VxMS のログレベルを示します。

メモ: 5 より高いログレベルはログアシスタントでは設定できません。

メモ: 5 より高いログレベルはごく一部の特別なケースでのみ使用します。このレベルにすると、ログファイルとメタデータのダンプによりディスク容量とホストパフォーマンスに多大の負荷がかかります。

表 11-2 VxMS のログレベル

レベル	説明
0	ログなし。
1	エラーログ。
2	レベル 1 + 警告メッセージ。
3	レベル 2 + 情報メッセージ。
4	レベル 3 と同じ。
5	非常に詳細 (レベル 1 を含む) + 補助的な証拠ファイル (.mmf, .dump, VDDK logs, .xml, .rvpmem)。 VDDK メッセージのログレベルを設定できます。
6	VIX (VMware 仮想マシンのメタデータ) ダンプのみ。
7	VHD (Hyper-V 仮想マシンのメタデータ) ダンプのみ。
> 7	すべての詳細 + レベル 5 + レベル 6 + レベル 7。

VxMS core.log と provider.log のファイル名形式

デフォルトでは VxMS のログ記録中に作成される core.log と provider.log のログファイルの場合は、NetBackup 管理者のユーザー名がログファイル名に挿入されます。

表 11-3 に、ログファイル名の形式を示します。

表 11-3 VxMS core.log と provider.log のファイル名形式

プラットフォーム	VxMS ログファイル名の形式
Windows の場合	VxMS-thread_id-user_name.mmddyy_tag.log 例: VxMS-7456-ALL_ADMINS 070214_core .log VxMS-7456-ALL_ADMINS 070214_provider .log
UNIX および Linux の場合	VxMS-thread_id-user_name.log.mmddyy_tag 例: VxMS-27658 のルート .log 081314_core VxMS-27658-root.log.081314_provider

p.122 の「」を参照してください。

ポリシーの作成中のエラー

ポリシーの作成を試行するときに、次のエラーが発生する場合があります。

- cannot connect on socket (25)
- Error Validating Hyper-V machine name
Connect to Hyper-v server <name> failed (25)

いずれの場合も、**NetBackup Client Service** はクラスタの現在の所有者 (ノード) で実行されていません。クラスタノードで **NetBackup Client Service** を起動し、ポリシーを再び作成します。

NetBackup ポリシーの検証が失敗する

次の場合、**NetBackup** ポリシーの検証が失敗することがあります。

- 仮想マシンのホスト名のエントリが、**DNS** サーバーまたは **Hyper-V Server** の **Windows** の次の **hosts** ファイルに存在しない。
Windows¥System32¥drivers¥etc¥hosts
DNS サーバーまたは **Hyper-V Server** の **hosts** ファイルのいずれかで仮想マシン名のエントリを作成します。
- ファイアウォールが有効になっていて、プライマリサーバーのポートのエントリが存在しない。
NetBackup プライマリサーバーのポートのエントリを追加します。

『NetBackup 管理者ガイド』を参照してください。

Hyper-V に関連する NetBackup の状態コード

表 11-4 では、Hyper-V に関連する NetBackup の状態コードについて説明します。
すべての NetBackup の状態コードについて詳しくは、『NetBackup 状態コードリファレンスガイド』を参照してください。ガイドは次の URL から入手できます。

<http://www.veritas.com/docs/000003214>

表 11-4 Hyper-V に関連する NetBackup の状態コード

NetBackup の状態コード	説明および推奨処置
1、要求された操作は部分的に成功しました (the requested operation was partially successful)	次のいずれかの問題があります。 ■ Logical Disk Manager (LDM) ボリューム用に構成されている仮想ディスクで問題が発生した可能性があります。 p.131 の「LDM ボリュームと状態コード 1」を参照してください。 ■ 仮想マシンのスナップショット(*.avhd または *.avhdx ファイル)が、バックアップ実行中に作成されました。 p.132 の「Hyper-V スナップショット (avhd または avhdx ファイル) と状態コード 1」を参照してください。 ■ 仮想マシンはパススルーディスクを使用して構成されています。NetBackup for Hyper-V は、パススルーディスクをバックアップしません。仮想マシンのディスクすべてがパススルーである場合、仮想マシンを表す構成ファイル (XML、bin、vsv など) のみがバックアップされる点にご注意ください。 パススルーディスクをバックアップするには、次を参照してください。 p.145 の「NetBackup での Hyper-V パススルーディスクについて」を参照してください。
42、ネットワークの読み込みに失敗しました (network read failed)	ボリュームの Windows シャドウストレージに、必要なすべてのスナップショットを保持するのに十分な領域がない可能性があります。より大きなシャドウストレージ領域が必要である可能性があります。 p.130 の「Windows NTFS シャドウストレージの表示またはサイズ調整」を参照してください。
48、クライアントのホスト名が見つかりませんでした (client hostname could not be found)	次のいずれかの問題があります。 ■ NetBackup プライマリサーバーが仮想マシンと通信できません。 ■ 仮想マシンのホスト名を使用できません。 NetBackup ジョブの詳細ログには、次のようなメッセージが含まれています。 <pre>Error bpbrm(pid=8072) Nameuse [0], VM [<vm name>] not found on any node. Is either powered off or does not exist.</pre> 仮想マシンは実行されていないか、起動中です。仮想マシンが実行されていることを確認し、次に、バックアップを再実行します。

NetBackup の状態コード	説明および推奨処置
84、メディアの書き込みエラー (media write error)	ゲスト OS の NTFS ファイルシステムが破損し、バックアップが MSDP ストレージを使用している場合、VM の増分バックアップが失敗することがあります。このエラーは次のような状況で発生する場合があります。 ■ VMware または Hyper-V バックアップポリシーで、メディアサーバー重複排除プール (MSDP) ストレージが指定されている ■ バックアップスケジュールに増分バックアップ (差分または累積) が含まれている ■ VM のゲスト OS の NTFS ファイルシステムが破損している。(例: ファイルシステムに孤立したファイルレコードファイルセグメントが含まれている)bptm デバッグログには、次のようなメッセージが含まれています。 <pre>16:24:04.604 [5720.7068] <16> 6:bptm:5720:win2012-2.hrous.sen.com: [ERROR] PDSTS: fbu_fill_bitmap: (1945) stream_offset(610848768) + length(8192) > (1946) stream_offset(610848768) 16:24:04.604 [5720.7068] <16> 6:bptm:5720:win2012-2.hrous.sen.com: [ERROR] PDSTS: fbu_scan_buf: fbu_fill_bitmap() failed (2060022:software error)</pre> chkdsk コマンドを使用してゲスト OS のファイルシステムを確認し、必要に応じて修復します。VM を再起動して、バックアップを再実行します。
156、スナップショットエラーが発生しました (Snapshot error encountered)	p.128 の「スナップショットエラーの発生 (状態コード 156)」を参照してください。
185、tar では、リストアするすべてのファイルが見つかりませんでした (tar did not find all the files to be restored)	2 つの VM の完全リストアを同時に行おうとする場合、2 つの VM で共有する仮想ハードディスクに、両方のリストアジョブによってリストア対象になっているファイルが含まれると、競合状態が発生する場合があります。2 つのジョブが同じファイルに同時にアクセスしようとしませんが、ファイルにアクセスできるジョブは 1 つのみです。もう一方のジョブはアクセスを拒否され、状態コード 185 で失敗する場合があります。 1 つ目のリストアジョブが正常に完了した後で、2 つ目のジョブを再試行します。

NetBackup の状態コード	説明および推奨処置
2821、Hyper-V ポリシーリストアエラー (Hyper-V policy restore error)	次のいずれかの問題があります。 ■ 仮想マシン全体のリストアで、宛先のサーバー上に同じ GUID の仮想マシンが存在する場合には、[仮想マシンの上書き (Overwrite virtual machine)] オプションが選択されませんでした。宛先のサーバー上に同じ GUID の仮想マシンが存在する場合は、[仮想マシンの上書き (Overwrite virtual machine)] を選択する必要があります。 メモ: SCVMM 環境では、VM GUID は VM ID として参照されます。 ■ 宛先の仮想マシンの共有場所を使用して個々のファイルをリストアするときに、2 GB を超えるファイルが 1 つ以上存在します。そのようなファイルは、NetBackup クライアントが存在する仮想マシンにリストアします。(この問題は、仮想マシン全体のリカバリには該当しません。) ■ 共通ファイルのリストアで、共通ファイルを使用する仮想マシンが[実行中 (Running)]状態または[一時停止 (Paused)]状態でした。共通ファイルを使用する仮想マシンは、[オフ (Off)]状態または[保存済み (Saved)]状態である必要があります。それ以外の場合、仮想マシンによって共通ファイルがロックされることがあります。 ■ 仮想マシンが高可用性 (HA) です。しかし、仮想マシンを所有するノードはリストアサーバー (リストアを実行するノード) ではありません。 p.136 の「」を参照してください。 ■ 仮想マシンのリストアジョブは失敗しますが、仮想マシンは Hyper-V Server に登録されます。 p.136 の「」を参照してください。 ■ 仮想マシンが構成されているボリューム GUID とその差分ディスクが構成されているボリューム GUID が異なるため、リダイレクトリストアが失敗しました。 p.133 の「リストアした仮想マシンの起動に失敗する」を参照してください。 ■ WMI 方式で作成されたバックアップからのリストアは、仮想ディスクの書き込みに時間がかかり過ぎたため失敗しました。このエラーは、VM に固定の大きい仮想ディスクがある場合に発生する可能性があります。 p.139 の「WMI のディスク作成のタイムアウト値の増加」を参照してください。
4207、スナップショットメタデータまたは状態ファイルをフェッチできませんでした	この状態コードについて詳しくは、次の『NetBackup 状態コードリファレンスガイド』を参照してください。 http://www.veritas.com/docs/000003214
4287、仮想マシンの NetBackup スナップショットが存在するため、ポリシーオプションはバックアップの中止を指定しています	p.42 の「[既存のスナップショット処理 (Existing snapshot handling)] パラメータ (WMI)」を参照してください。 この状態コードについて詳しくは、次の『NetBackup 状態コードリファレンスガイド』を参照してください。 http://www.veritas.com/docs/000003214

スナップショットエラーの発生 (状態コード 156)

次の表で、NetBackup の状態コード 156 に関連する Hyper-V の問題について説明します。

表 11-5 状態コード 156 の考えられる原因

状態コード 156 の原因	説明および推奨処置
仮想マシン名が、NetBackup ポリシーで正しく指定されていない。	ポリシーの[クライアント (Clients)]タブで指定した仮想マシン名と、Hyper-V Server 上の実際の名前が一致していない可能性があります。Hyper-V Server の Hyper-V マネージャに表示される実際の名前を確認します。 推奨処置は次のとおりです。 ■ NetBackup ポリシーで、仮想マシンは完全修飾名として指定する必要があります。 ■ NetBackup ポリシーで、仮想マシン名が正しく入力されていない場合があります。
仮想マシンのボリュームにほとんど空きがない。	スナップショット用に十分な空き領域が仮想マシンのボリュームにありません。Microsoft 社は、仮想マシンの 10% 以上のボリュームをスナップショットに利用できるようにすることを推奨しています。 推奨処置: ボリュームの領域を増やします。
Hyper-V 統合コンポーネントが存在しない。	Hyper-V 統合コンポーネントが、仮想マシンに正しくインストールされていません。 推奨処置: p.131 の「Hyper-V 統合コンポーネントがインストールされていない」を参照してください。

状態コード 156 の原因	説明および推奨処置
仮想マシンの VSS フレームワークが正しく動作しない。	バックアップ時に、アプリケーションの次のようなエラーイベントが仮想マシンに書き込まれる場合があります。 <pre> Event Type: Error Event Source: VSS Event Category: None Event ID: 12302 Date: 1/8/2009 Time: 1:36:21 AM User: N/A Computer: ARTICTALEVM8 </pre> Description: Volume Shadow Copy Service error: An internal inconsistency was detected in trying to contact shadow copy service writers. Please check to see that the Event Service and Volume Shadow Copy Service are operating properly. For more information, see Help and Support Center at http://go.microsoft.com/fwlink/events.asp. 推奨処置: vssadmin list writers コマンドを実行します。 出力にライターが表示されず、同様のエラーがログに記録される場合、この問題の解決については次を参照してください。 http://support.microsoft.com/kb/940184
CSV タイムアウトが発生した。	bpfis ログは次を含みます。 <pre> VssNode::prepareCsvsForBackup: CSV TimeOut expired, Not all required CSV available in required state. </pre> 1 つ以上または必要なクラスタ共有ボリューム (CSV) は、指定されたタイムアウト期間に準備できません。別のノードから開始した現在のバックアップには、1 つ以上の同じ CSV が必要です。 [クラスタ共有ボリュームタイムアウト (Cluster shared volumes timeout)] の期間を増やしてバックアップを再実行するか、または別のときにバックアップを試行します。 p.40 の「クラスタ共有ボリュームタイムアウト (VSS を使用した Hyper-V)」を参照してください。
CSV 上の VM にローカルディスクが追加された	CSV 上の仮想マシンの正常なバックアップのためには、仮想マシンは CSV ボリュームだけを使う必要があります。Hyper-V Server (CSV ボリュームではない) 上のローカルディスクが仮想マシンに追加されると、バックアップは失敗します。 CSV ボリュームのみを使うように仮想マシンを再構成し、バックアップを再実行します。

状態コード 156 の原因	説明および推奨処置
[非 VSS VM のオフラインバックアップを有効にする (Enable offline backup for non-VSS VMs)] オプションは無効になっています。	bpfis ログは次を含みます。 <pre>VssNode::prepare Backup type of VM [<VM GUID>] will be OFFLINE and configuration parameter allowOfflineBackup] is not set. To backup this VM, set [allowOfflineBackup] configuration parameter.</pre> [非 VSS VM のオフラインバックアップを有効にする (Enable offline backup for non-VSS VMs)] オプションが無効になっているため、NetBackup は仮想マシンのオフラインバックアップを実行できません。 [非 VSS VM のオフラインバックアップを有効にする (Enable offline backup for non-VSS VMs)] オプションを有効にしてください。 p.39 の「非 VSS VM のオフラインバックアップの有効化 (VSS を使用した Hyper-V)」を参照してください。

複数の仮想マシンのバックアップジョブがハングアップする

ポリシーで複数の仮想マシンが指定される場合、ストレージユニットの[最大並列実行ジョブ数 (Maximum concurrent jobs)]オプションが 2 以上に設定されると、バックアップがハングアップすることがあります。Hyper-V Server に Symantec Endpoint Protection をインストールしている場合は、バージョン 11.0 Maintenance Release 4 (ビルド 11.0.4000) 以降であることを確認します。複数の並列実行ジョブがある、複数の仮想マシンのバックアップの場合、以前のバージョンの Symantec Endpoint Protection でこのようなバックアップの問題が発生することがあります。

Windows NTFS シャドウストレージの表示またはサイズ調整

メモ: この項は、VSS バックアップ方式にのみ適用されます (WMI には適用されません)。

ブロッックレベルのコピーオンライトスナップショットの[プロバイダ形式 (Provider Type)]に[システム (System)]を使用して作成したバックアップでは、Hyper-V ホスト上のボリュームの Windows シャドウストレージに、必要なすべてのスナップショットを保持するのに十分な領域がある必要があることに注意してください。利用可能な領域が十分でない場合、バックアップは[ネットワークの読み込みに失敗しました (network read failed)]という状態コード 42 で失敗します。この場合、より大きなシャドウストレージ領域が必要です。シャ

ドストレージのサイズに関する推奨事項については Microsoft 社のマニュアルを参照してください。

シャドウストレージに利用可能な領域を追加できない場合、バックアップが同時に実行されないように再スケジュールします。

Windows NTFS シャドウストレージの表示またはサイズの変更を実行する方法

- 1 現在のシャドウストレージの設定を表示するには、仮想マシンで次を実行します。

```
vssadmin list shadowstorage
```

- 2 シャドウストレージのサイズを変更するには、次を実行します。

```
vssadmin resize shadowstorage
```

詳しくは Microsoft Windows のマニュアルを参照してください。

Hyper-V 統合コンポーネントがインストールされていない

Hyper-V 仮想マシンの適切なバージョンの統合コンポーネントが、仮想マシンにインストールされていることを確認します。それ以外の場合、バックアップは状態コード 156 で失敗します。

適切なバージョンについて詳しくは、次のドキュメントで、「Hyper-V オンラインバックアップには、VM に適切なバージョンの Hyper-V 統合サービスが必要 (Hyper-V online backups require proper version of Hyper-V integration services in the VM)」を参照してください。

[仮想環境での NetBackup 7.7.x および 8.x のサポート](#)

LDM ボリュームと状態コード 1

仮想ディスクが Logical Disk Manager (LDM) ボリューム用に構成されている場合、NetBackup ポリシーで [VM バックアップからのファイルリカバリを有効にする (Enable file recovery from VM backup)] オプションが指定されていると、場合によっては仮想マシンのバックアップが完了しない可能性があることに注意してください。NetBackup のジョブは、状態コード 1 [要求された操作は部分的に成功しました (the requested operation was partially successful)] を発行する場合があります。このエラーは、.vhd ディスクのコントローラ形式が、ディスクのフォーマット時には SCSI で、その後 IDE に変更された場合 (またはその逆の場合) に発生する可能性があります。

この場合、NetBackup の進捗ログに次のメッセージが含まれることがあります。

```
ERR - Unable to retrieve volumes from virtual machine, error = 1
```

.vhd ディスクのコントローラ形式は、LDM ボリュームの作成前に元々割り当てられたコントローラ形式にリストアする必要があります。その後、バックアップを再試行します。

Hyper-V スナップショット (avhd または avhdx ファイル) と状態コード 1

仮想マシンの NetBackup バックアップが実行中に仮想マシンのスナップショット (avhd または avhdx ファイル) が作成された場合は、バックアップは部分的にのみ成功することがあります。次のようなメッセージが bpbkar ログに表示されます。

```
5:02:54Hyper-V snapshot.570 PM: [10948.8980] <2> tar_base::V_vTarMsgW: INF - VxMS
Error message 1 = translate_to_virtual_extent: ERROR Unable to locate MAP file = ¥¥¥¥
GLOBALROOT¥Device¥HarddiskVolumeShadowCopy89¥VM1¥testvm2.domain.com¥TestVM1_diffVM1k
_8275A265-BD90-4E61-94C8-C347B7228E95.avhd
```

バックアップを再試行します。

同じ CSV に存在する仮想マシンをバックアップする場合、Windows の警告 1584 は無視できる

同じクラスタ共有ボリューム (CSV) に存在する仮想マシンの並列実行バックアップでは、Windows の次の警告イベント (1584) が発行されることがあります。

```
A backup application initiated a VSS snapshot on Cluster Shared
Volume Volume1 (Cluster Disk 8) without properly preparing the volume for
snapshot. This snapshot may be invalid and the backup may not be usable for
restore operations. Please contact your backup application vendor to verify
compatibility with Cluster Shared Volumes.
```

この場合、メッセージ 1584 が誤った警告であることは Microsoft 社によって確認されています。同じ CSV に存在する仮想マシンの NetBackup バックアップの場合、この警告は無視しても問題ありません。

代替クライアントによるバックアップの問題

次の潜在的な問題に注意してください。

- スナップショットジョブが失敗した場合、プライマリクライアントと代替クライアント上にある bpfis ログの詳細なエラーメッセージを確認します。

- bpfis ログに VSS エラーが表示される場合、次の VxFI VSS プロバイダログで詳細を確認します。

¥Program Files¥Common Files¥Symantec Shared¥VxFI¥4¥logs¥

VxFI VSS プロバイダログの次の文字列に注意してください。

- VSS_E_PROVIDER_VETO
- VSS_E_NO_SNAPSHOTS_IMPORTED

この文字列は、スナップショットリソースを使用できないことを示します。

VSS ハードウェアプロバイダによって作成されるスナップショットデバイスは、プライマリクライアントまたは代替クライアントには認識されません。Windows イベントログと VSS ハードウェアプロバイダログを確認します。構成の問題を除外するには、diskshadow コマンドを使用します。手順については、Microsoft 社のマニュアルを参照してください。

リストアした仮想マシンの起動に失敗する

次の問題によって、リストアした仮想マシンを起動できないことがあります。

- 別の Hyper-V Server に仮想マシンをリストアする場合、元の Hyper-V Server と対象のサーバーに同じ数のネットワークアダプタ (NIC) がなければ、対象のサーバー上のリストアした仮想マシンのネットワークアダプタを構成する必要があることに注意してください。これを行わないと、リストアした仮想マシンの起動に失敗し、次のようなメッセージが表示されます。

```
Microsoft Synthetic Ethernet Port (Instance ID {C549AG45-5925-49C0-ADD2-218E70A4A1EA}): Failed to power on with Error 'The system cannot find the path specified.' (0x80070003). (Virtual machine 5412BD43-DC85-31CB-A688-1B29CE2C57C8)
```

- バックアップ時に仮想マシンがオフ状態でなかった場合、リストアされた仮想マシンの起動に失敗することがあります。
- 別のボリューム GUID に差分ディスクのあるボリューム GUID で構成された仮想マシンの場合、リダイレクトリストアはサポートされません。仮想マシンの vhd または vhdx ファイルがボリューム GUID でなくドライブ文字のボリュームで構成されている場合は、リダイレクトリストアはサポートされます。

代替場所への仮想マシンのリストアは、次のような場合に失敗することがあります。

- 仮想マシンの vhd または vhdx ファイルが GUID ベースのボリュームにあり、かつ
 - 同じ vhd または vhdx の差分ディスクが別の GUID ベースのボリュームにある。
- この場合、代替場所に仮想マシンをリストアしようとするとき失敗します。このエラーの原因は Microsoft Hyper-V ライターにあります。vhd または vhdx ファイルと他の構成

リストアされた仮想マシンの再起動に関する問題: Why did the computer shut down unexpectedly?

ファイルが正しい場所にリストアされても、仮想マシンの登録が失敗します。その結果、Hyper-V はリストアされた仮想マシンを起動できません。次のログのような Hyper-V ライターのイベントログが表示されることがあります。

```
Failed to update the path of the parent disk for virtual
hard disk 'E:\¥restore123¥Volume{D2CC1448-BCFD-11CE-96DD-
001EC9EEF3B2}¥test1¥diff.vhd' for virtual machine 'test':
The system cannot find the path specified. (0x80070003).
The disk may not work properly. If you cannot start your virtual
machine, remove the disk and try again.(Virtual machine ID <id>)
```

リストア後、新しい仮想マシンを構成し、その新しい仮想マシンに、リストアされた vhd または vhdx ファイルを接続する必要があります。リストアされた .xml ファイルには仮想マシンの元の構成についての情報が含まれています。

- 仮想マシンが異なる Hyper-V Server にリストアされると、仮想 CD または DVD ドライブの場所によって仮想マシンを再起動できない場合があります。

次の場合に問題が発生します。

- 元の仮想マシンに、仮想 CD ドライブまたは仮想 DVD ドライブに接続されている CD の ISO イメージが存在した。
- 仮想マシンがリストアされた Hyper-V Server で、ISO イメージがバックアップ時の元の Hyper-V ホストと同じパスに存在しない。
例: 元々、仮想マシンの仮想 DVD ドライブに E:\¥cd1.iso が接続されていました。しかし、E:\¥cd1.iso がターゲットの Hyper-V ホストに存在しないか、F:\¥cd1.iso のように、異なる場所に存在します。いずれの場合も、リストアした仮想マシンの電源を入れることはできません。

接続された CD または DVD の問題を解決するには

- 1 Hyper-V マネージャで、リストアした仮想マシンをクリックします。
- 2 [設定 (Settings)] をクリックします。
- 3 適切な IDE コントローラで、[DVD ドライブ (DVD drive)] をクリックします。
- 4 [メディア (Media)] ペインで、CD の正しい場所を指定するか、[なし (None)] を選択します。

リストアされた仮想マシンの再起動に関する問題: Why did the computer shut down unexpectedly?

リストアした Windows 仮想マシンの起動時に、予期しない停止メッセージが表示されます。

リストアした仮想マシンを起動すると、システムによって[コンピュータが予期せずシャットダウンされた理由を選択してください (Why did the computer shut down unexpectedly?)]というメッセージが表示されることがあります。問題の ID を入力するように求めるメッセージが表示されることがあります。このメッセージおよびプロンプトは、バックアップの開始時に仮想マシンが[実行中 (Running)]状態であった場合に表示されます。

Windows システムの起動時に、システムが正常終了されなかったことを示すビットが設定されます。システムが正常終了すると、ビットは消去されます。ただし、実行中の仮想マシンのオンラインバックアップを実行する場合、バックアップしたイメージに予期しない停止ビットが設定されたままになっています。リストアした仮想マシンの起動時に、ビットが検出されて予期しない停止メッセージが表示されます。

個々のファイルのリストアの問題

仮想マシン全体ではなく個々のファイルのリストアするとき、場合によってはリストアが失敗することがあります。次の表で、個々のファイルのリストアの問題と推奨処置を説明します。

表 11-6 個々のファイルのリストアの問題

問題の原因	説明および推奨処置
仮想マシンの複数のドライブ(ボリューム)からファイルを選択する。	例: 元の仮想マシンに 2 つのドライブ (C:¥ および D:¥) が存在し、同じリストア操作でそれぞれのドライブからファイルを選択したとします。次のようなメッセージがジョブの進捗ログに表示されます。 <pre>13:26:05 (86.001) (86.001) INF - Skipping to next file header... 13:26:05 (86.001) (86.001) INF - TAR EXITING WITH STATUS = 0 13:26:05 (86.001) (86.001) INF - TAR RESTORED 11368 OF 11463 FILES SUCCESSFULLY 13:26:05 (86.001) (86.001) INF - TAR KEPT 0 EXISTING FILES 13:26:05 (86.001) (86.001) INF - TAR PARTIALLY RESTORED 0 FILES 13:26:15 (86.001) Status of restore from image created 7/21/2008 2:55:05 PM = the requested operation was partially successful</pre> 一度に 1 つのドライブからファイルを選択します。複数のドライブからファイルを選択することはサポートされません。
仮想マシンのマッピングされたドライブにファイルをリストアしようと試みた。リストアは、NetBackup の状態コード 185 で失敗する。	マッピングされたドライブではなく、仮想マシンの共有場所を UNC パスとともに使用してファイルをリストアします。 p.91 の「仮想マシンの共有場所への個々の Hyper-V ファイルのリストア」を参照してください。

問題の原因	説明および推奨処置
スナップショットに無効な i ノードが含まれている。	Windows Hyper-V は Linux 仮想マシンのファイルシステムのアクティビティを静止するしくみを提供しません。その結果、無効な i ノードがスナップショットに存在することがあります。[VM バックアップからのファイルリカバリを有効にする (Enable file recovery from VM backup)] オプションを使って行ったバックアップでは、仮想マシンの I/O の負荷が高い場合にファイルのマッピングエラーが発生する場合があります。エラーは次のような形式で報告されます。 ERR - Unable to read metadata for index: 379023, VFM error = 6. バックアップは成功しますが、メタデータエラーがあるファイルは個別にリストアできません。 すべてのファイルの個々のリストアが可能となるバックアップを行うために、I/O アクティビティがより少ないときにバックアップをスケジュールしてください。メタデータエラーが解決しない場合は、バックアップ時に仮想マシンを停止します。

Hyper-V 仮想マシン全体のリストアは、次の場合に失敗することがあります。

[仮想マシンの上書き (Overwrite virtual machine)] オプションを選択せず、仮想マシンの vhd または vhdx ファイルが宛先に存在している場合。

vhd または vhdx ファイルは、バックアップからリストアされません。リストアで [仮想マシンの上書き (Overwrite virtual machine)] を選択するか、リストアを開始する前に、現在の仮想マシンおよび vhd または vhdx ファイルを宛先のサーバーから削除する必要があります。仮想マシンを削除しても、宛先に vhd または vhdx ファイルを 1 つ以上残したままにすると、バックアップの vhd または vhdx ファイルはリストアされません。

仮想マシンのリストアジョブは失敗しますが、仮想マシンは Hyper-V Server に登録されます。

Hyper-V-VMMS は次の警告をイベントログに書き込みます。

イベント ID 10127 のイベントログメッセージの例は次のとおりです。

```
Unable to repair the network configuration for virtual machine 'Virtual Machine Display Name'. The virtual machine may not have the same network connectivity as it did when the backup was taken. Inspect the network settings and modify them as necessary. (Virtual machine ID 0AD8DFCC-BDC0-4818-B6DF-7A1BA0A735BF)
```

イベント ID 10104 のイベントログメッセージの例は次のとおりです。

```
One or more errors occurred while restoring the virtual machine from backup. The virtual machine might not have registered or it might not start. (Virtual machine ID "0AD8DFCC-BDC0-4718-B6DF-7A3BA2A735BF ")
```

Hyper-V ライターでネットワーク構成エラーが発生しました。仮想マシン設定のネットワークアダプタ構成の変更後、リストアされた仮想マシンを起動できます。

仮想マシンは高可用性 (HA) ですが、仮想マシンを所有するノードはリストアサーバーではありません。(仮想マシンを所有するノードがリストアを実行するノードではない。)

tar ログには、次のようなメッセージが含まれています。

```
VssNode::doRestore: Current owner of VM .[<VM name> {<VM guid>}] is  
[<current owner>] not this [<restore server>], To perform this restore either move  
VM to this host [<restore server>] or Delete VM from Cluster, or perform redirected  
restore at current owner.
```

次の説明に注意してください。

- 元の場所にリストアする場合: バックアップが実行されたときに仮想マシンは HA ではありませんでしたが、現在、仮想マシンは HA です。ただし、仮想マシンを所有するノードは、仮想マシンがバックアップされたノードではありません。
- リダイレクトリストアの場合: 仮想マシンは HA ですが、仮想マシンを所有するノードはリストアサーバー (リストアを実行するノード) ではありません。

tar ログメッセージの推奨処理を参照してください。

ボリューム GUID ベースの仮想マシンのリダイレクトリストアは、その仮想マシンが以前のリダイレクトリストアからバックアップされていた場合に失敗します。

注意: リダイレクトリストアでは、元の Hyper-V Server 上の異なる場所、または別の Hyper-V Server に仮想マシンをリストアします。元のサーバーの元の場所にはリストアされません。

仮想マシンは Windows のボリューム GUID 上に構成されることがあります。次に Windows のボリューム GUID の例を示します。

```
¥¥?¥Volume{1a2b74b1-1b2a-11df-8c23-0023acfc9192}¥
```

ボリューム GUID ベースの仮想マシンのリダイレクトリストアを実行し、リストアされた仮想マシンをバックアップした場合、バックアップからリダイレクトリストアをしようとすると失敗することがあります。たとえば、次のボリューム GUID に構成された仮想マシンがあるとし

```
¥¥?¥Volume{1a2b74b1-1b2a-11df-8c23-0023acfc9192}¥
```

この場合、仮想マシンは次のような異なるボリューム GUID にリストアされます。

```
¥¥?¥Volume{2a3b70a1-3b1a-11df-8c23-0023acfc9192}¥
```

リストアされた仮想マシンがバックアップ済みで、そのバックアップからリダイレクトリストアを実行すると、リストアは失敗することがあります。

リダイレクトリストアのこの問題を回避するには、次のようなボリューム GUID のサブディレクトリに仮想マシンをリストアします。

WMI 方式を使ったバックアップ中に VM にユーザーチェックポイントが存在する場合、リストア後に VM の仮想ディスク設定を変更できない

```
¥¥?¥Volume{1a3b70a1-3b1a-11df-8c23-0023acfc9192}¥REDIR_subdirectory¥
```

Windows 2016 Hyper-V VM が SMB 3.0 ファイル共有に一部しか正常にリストアされない場合があります。

リストア先のファイル共有に十分な権限が設定されていないと、リストアが状態 1 (要求された操作は部分的に成功しました) で完了します。次のようなメッセージが NetBackup ジョブの詳細ログに表示されます。

```
Unable to set VHD/VHDX metadata which includes alternate data streams
and permissions. If VM does not boot, check the permissions of the
VM's virtual disk files.
```

メモ: VM のファイルはリストアされますが、NetBackup は vhd ファイルまたは vhdx ファイルの所有元をリストアできません。

完全にリストアするには次の操作を実行します。

- ファイル共有とデータが存在する共有元ファイルシステムに権限を追加します。この権限は、Hyper-V Server と Hyper-V クラスタのフルコントロールを付与する権限である必要があります。
- VM のリストア先の Hyper-V Server で、LocalSystem ユーザーアカウントではなく Domain¥Administrator で NetBackup Client Service を実行していることを確認します。

これらの変更が完了したら、リストアを再実行します。リストアジョブでステータス 0 (要求された操作は正常に完了しました) が返されるはずです。

WMI 方式を使ったバックアップ中に VM にユーザーチェックポイントが存在する場合、リストア後に VM の仮想ディスク設定を変更できない

NetBackup WMI バックアップの開始時に仮想マシンにユーザーが作成したチェックポイントが存在すると、NetBackup はチェックポイント .avhdx ファイルをバックアップイメージに含めます。その VM をバックアップからリストアするときに、.avhdx ファイルは VM の親ディスクに自動的にマージされません。その結果、リストアした VM の特定の設定 (仮想ハードディスクなど) を変更できなくなります。Hyper-V Manager に「この仮想マシンにはチェックポイントがあるため、[編集]は使用できません。」と表示されます。

この問題は Microsoft 製品の問題によるものです。回避策として、リストアした VM のチェックポイントを手動で作成し、削除します。この操作により、すべての .avhdx ファイルの自動的なディスクマージが開始されます。マージ後に、VM 設定を変更できます。

WMI のディスク作成のタイムアウト値の増加

(動的な仮想ディスクと異なり) 形式が固定の大規模な仮想ディスクを作成する場合、長い時間がかかる可能性があります。大規模な固定ディスクを備えた Hyper-V VM を WMI 方式でバックアップして、その後にリストアを行うと、リストアした仮想ディスクが完全に書き込まれる前にリストアジョブでタイムアウトが発生する場合があります。リストアジョブはステータス 2821 により失敗し、VM のデータがリストアされません。

メモ: Hyper-V ディスク作成のデフォルトのタイムアウト期間は 24 時間です。

リストアジョブを完了させるには、次の操作を実行します。

WMI のディスク作成のタイムアウト値を増やすには

- 1 NetBackup nbsetconfig コマンドを次のように使用します。

```
nbsetconfig -h host
```

ここで、*host* は、構成を更新する NetBackup プライマリサーバーの名前です。

- 2 nbsetconfig プロンプトで、次を入力すると、仮想ディスクの作成に追加の時間を許可できます。

この例では 48 時間を設定します。

```
HYPERV_WMI_CREATE_DISK_TIMEOUT = 48
```

HYPERV_WMI_CREATE_DISK_TIMEOUT の範囲は 0 から 240 時間です。

メモ: 値が 0 の場合、仮想ディスクの作成中にリストアジョブがタイムアウトになることはありません。

- 3 コマンドをエスケープするには、次を入力します。

UNIX の場合: `ctl-D`

Windows の場合: `ctl-Z`

nbsetconfig コマンドについて詳しくは、『NetBackup コマンドリファレンスガイド』を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/000003214>

Linux VM と永続的なデバイス名前

永続的なデバイス命名規則を使っていない Linux VM の場合は、複数のディスクコントローラ (IDE、SCSI、SATA) が個々のファイルのリカバリを複雑にすることがあります。この

問題は、`/dev/sda` や `/dev/sdb` のような非永続的なデバイス命名規則が原因で発生します。VM に **SCSI** ディスクと **SATA** ディスクがある場合には、バックアップ、アーカイブ、リストアインターフェースは VM のファイルの誤ったマウントポイントを示すことがあります。たとえば、元々 `/vol_a` にあったファイルが、リストアしようとして参照すると `/vol_b` の下に表示されることがあります。リストアは正常に終了しても、リストアされたファイルが元のディレクトリに存在しない場合があります。

回避策として、リストアした VM のファイルを検索して適切な場所に移動します。

複数のディスクコントローラを備えた Linux VM でこの問題を防ぐため、ファイルシステムのマウントに永続的なデバイス命名方法を使うことを推奨します。永続的な命名規則を使うとデバイスのマウントに一貫性が生じ、今後、バックアップからファイルをリストアしてもこの問題は起きません。

永続的なデバイス命名規則では、**UUID** を使ってデバイスをマウントできます。次に、**UUID** によってマウントしたデバイスを含む `/etc/fstab` ファイルの例を示します。

```
UUID=93a21fe4-4c55-4e5a-8124-1e2e1460fece /boot ext4 defaults 1
2
UUID=55a24fe3-4c55-4e6a-8124-1e2e1460fadf /vola ext3 defaults 0
0
```

メモ: VMware VM の各 `fstab` エントリの文字数を 90 に制限します。

デバイスの **UUID** を見つけるには、次のコマンドのどちらかを使います。

```
blkid
ls -l /dev/disk/by-uuid/
```

メモ: NetBackup は永続的なデバイス命名規則の **by-LABEL** 方法もサポートします。

VSS バックアップ方式: Hyper-V のオンラインおよび オフラインバックアップ

この付録では以下の項目について説明しています。

- [VSS 用の Hyper-V のオンラインおよびオフラインバックアップについて](#)
- [VSS のオンラインバックアップかオフラインバックアップかを判断する条件](#)
- [VSS を使用したオフラインバックアップに関する追加注記](#)
- [Hyper-V 2012 R2 仮想マシンはリストア時\[オフ \(Off\)\]状態になる場合がある](#)

VSS 用の Hyper-V のオンラインおよびオフラインバックアップについて

Hyper-V 仮想マシンは、[実行中 (Running)]、[保存済み (Saved)]、[一時停止 (Paused)]、[オフ (Off)]のいずれかの状態です。

さらに、VSS バックアップ方式には、次の 2 種類の Hyper-V 仮想マシンのバックアップが Microsoft 社から提供されています。

オンライン (Online)	[実行中 (Running)]状態にある仮想マシンが、バックアップの間、一時的に静止するように指定します。バックアップ中も、ユーザーアクセスは中断することなく続行できます。
オフライン (Offline)	[実行中 (Running)]状態または[一時停止 (Paused)]状態の仮想マシンが、一時的に無効になるように指定します。バックアップが完了する前に元の状態に戻れます。バックアップ中は、ユーザーアクセスが中断されます。

メモ: バックアップの形式 (オンラインまたはオフライン) は Microsoft Windows で指定され、NetBackup では構成しません。

次の表に、VSS バックアップ方式を使用する場合の、仮想マシンの状態とバックアップの種類 (オンラインまたはオフライン) の可能な組み合わせを示します。

表 A-1 VSS バックアップ: リストア前および後の仮想マシンの状態

バックアップ時の状態	バックアップ形式	リストア後の状態
実行中 (Running)	オンライン (Online)	オフ (Off)
実行中 (Running)	オフライン (Offline)	保存済み (Saved)
保存済み (Saved)	オフライン (Offline)	保存済み (Saved)
一時停止 (Paused)	オフライン (Offline)	保存済み (Saved)
オフ (Off)	オフライン (Offline)	オフ (Off)

注意: WMI バックアップ方式 (Hyper-V Server 2016 以降向け) では、オンラインとオフラインのバックアップを採用していません。

VSS のオンラインバックアップかオフラインバックアップかを判断する条件

この項は、NetBackup Hyper-V VSS バックアップ方式にのみ適用されます (WMI には適用されません)。

VSS のバックアップ方式で次のすべての条件が満たされると、実行中の仮想マシンで、停止時間のない Hyper-V のオンラインバックアップを実行することができます。

- Hyper-V 統合サービスがインストールされて、VSS 統合サービスが有効になっている。
- 仮想マシンのディスクすべてが、ゲストオペレーティングシステム内で、NTFS 形式のベーシックディスクとして構成されている。仮想マシンでダイナミックディスクか FAT または FAT32 ファイルシステムを使用する場合、オンラインバックアップを実行することはできない。
ダイナミックディスクは、仮想ハードディスクの形式 (vhd または vhdx 形式) ではないことに注意してください。ダイナミックディスクおよびベーシックディスクは、Windows の特定のオペレーティングシステムに対して Microsoft 社によって定義されるディスク形式である。

- 仮想マシンの各ボリュームを、それぞれのシャドウコピーの記憶域として指定する必要があります。たとえば、C:¥ のシャドウコピーのストレージは C:¥ ボリューム上に構成する必要があります。D:¥ のシャドウコピーのストレージは D:¥ である必要があります。

これらの条件が満たされない場合、バックアップはオフラインで実行されます。オフラインバックアップの場合、仮想マシンで多少の停止時間が発生します。仮想マシンは、[実行中 (Running)]または[一時停止 (Paused)]状態である場合、オフラインバックアップの一部として[保存済み (Saved)]状態になります。バックアップの完了後、仮想マシンは元の状態に戻されます。

VSS を使用したオフラインバックアップに関する追加注記

この項は、NetBackup Hyper-V VSS バックアップ方式にのみ適用されます (WMI には適用されません)。

現在[実行中 (Running)]状態である仮想マシンでオフラインバックアップを実行する場合、仮想マシンはバックアップ時に一時的に[保存済み (Saved)]状態となった後で、元の状態に戻ることに注意してください。

バックアップの開始時に[実行中 (Running)]状態である仮想マシンでは、次の場合にバックアップの形式がオフラインになります。

- Hyper-V の VSS 統合コンポーネントが仮想マシンで実行されていない。
VSS 統合コンポーネントは、仮想マシンにインストールされている Hyper-V 統合サービスの一部です。
- 仮想マシンが、Windows ボリュームシャドウコピーサービス (VSS) をサポートしていないオペレーティングシステムを実行している。
- 仮想マシンのストレージ構成が適合していない。

次のいずれかの場合、適合しないストレージ構成となる可能性があります。

- オペレーティングシステムのダイナミックディスクとして構成されているディスクが、仮想マシンに 1 つ以上存在する。ダイナミックディスクは、仮想ハードディスクの形式ではないことに注意してください。ダイナミックディスクおよびベーシックディスクは、Windows の特定のオペレーティングシステムに対して Microsoft 社によって定義されるディスク形式である。
- 仮想マシンに、ボリュームシャドウコピーサービス (VSS) をサポートしていないボリュームが存在する。
仮想マシンに NTFS 形式以外のボリューム (FAT または FAT32 など) が存在する場合、仮想マシンはバックアップ時に[保存済み (Saved)]状態になります。

Hyper-V 2012 R2 仮想マシンはリストア時[オフ (Off)]状態になる場合がある

この項は、NetBackup Hyper-V VSS バックアップ方式にのみ適用されます (WMI には適用されません)。

Hyper-V Server 2012 R2 以降、仮想マシンは、次のいずれかの場合において ([保存済み (Saved)]状態ではなく) [オフ (Off)]状態でリストアされます。

- 仮想マシンのオペレーティングシステムが、Windows ボリュームシャドウコピーサービス (VSS) をサポートしていない。
- 仮想マシンが Hyper-V 統合サービスを有効にしていない。

バックアップ中、仮想マシンは[保存済み (Saved)]状態になりません (bin ファイルと vsv ファイルが生成またはバックアップされません)。代わりに、Hyper-V VSS ライターは、仮想マシンのチェックポイントを作成します。結果、仮想マシンはリストア時[オフ (Off)]状態のままになります。

次の MSDN 記事には追加の情報が含まれています。

[「Hyper-V Backup doesn't interrupt running virtual machines \(anymore\)」](#)

Hyper-V パススルーディスク

この付録では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup での Hyper-V パススルーディスクについて](#)
- [パススルーディスクのバックアップの構成](#)
- [Hyper-V パススルーディスクのバックアップの要件](#)
- [Hyper-V パススルーディスクの制限事項](#)
- [Hyper-V パススルーディスクのローカルスナップショットバックアップの構成](#)
- [パススルーディスクの代替クライアントによるバックアップについて](#)
- [Hyper-V パススルーディスクの代替クライアントによるバックアップの構成](#)
- [VSS およびディスクアレイに関する重要な注意事項](#)

NetBackup での Hyper-V パススルーディスクについて

このトピックでは、NetBackup を使って Hyper-V パススルーディスクをバックアップする方法について説明します。Hyper-V パススルー構成は、仮想マシンが物理ディスクに直接アクセスすることを可能にします。パススルーアクセスでは、仮想マシンはディスクアレイのような大きいストレージデバイスを使用できます。パススルーディスクへのアクセスは、完全に仮想化されたディスク (vhd または vhdx ファイル) へのアクセスより高速です。パススルーディスクは Hyper-V Server にローカル接続するか、ファイバーチャネル SAN で構成できます。

パススルーデバイスの設定について詳しくは、Microsoft 社のマニュアルを参照してください。

NetBackup がパススルーをサポートするデバイスは物理 (Hypervisor 以外の) 環境の場合と同じです。ただし、デバイスのベンダーは仮想環境でデバイスをサポートする必要があります。

メモ: NetBackup for Hyper-V 機能と Hyper-V スナップショット方式では (このマニュアルの他の章で説明されているように)、パススルーディスクはバックアップされません。

パススルーディスクのバックアップの構成

Hyper-V パススルーディスクをバックアップするには、次のいずれかの NetBackup 構成を使用します。

- Snapshot Client を使用しない場合。
仮想マシンに NetBackup クライアントをインストールします。クライアントが物理ホストにインストールされた場合と同様に仮想マシンのデータをバックアップするように NetBackup を構成できます。仮想マシンに Snapshot Client ソフトウェアがない場合、Snapshot Client の機能は使用できないことに注意してください。
- Snapshot Client を使用する場合 (この付録で説明)。
仮想マシンに NetBackup クライアントおよび Snapshot Client のライセンスをインストールします。ローカルスナップショットバックアップまたは代替クライアントによるバックアップのいずれかを構成します。
ディスクアレイの VSS ハードウェアプロバイダを使用するには、オフホスト代替クライアント方式が必要です。

Hyper-V パススルーディスクのバックアップの要件

次の要件に注意してください。

- パススルーの構成要件については、Microsoft 社のマニュアルを参照してください。
- スナップショットの事前構成要件については、VSS プロバイダのマニュアルを参照してください。たとえば、バックアップが開始される前に、ディスクアレイのクローンまたはミラーをディスクアレイのソースデバイスと同期化させる必要があります。
- ゲスト OS とアレイによっては、NetBackup に特定の OS およびアレイの構成が必要があります。詳しくは、『NetBackup Snapshot Manager for Data Center 管理者ガイド』を参照してください。
- VSS プロバイダ形式に [ハードウェア (Hardware)] を使用したバックアップの場合、パススルーディスクは SCSI ディスクとして追加する必要があります。

- 仮想マシンに **NetBackup** クライアントソフトウェアをインストールする必要があります。
- ローカルスナップショットまたは代替クライアントによるバックアップで **Snapshot Client** を使用するには、仮想マシンで **Snapshot Client** のライセンスを取得している必要があります。
- 代替クライアントによるバックアップの場合、仮想マシンと代替クライアントは、同じオペレーティングシステム、**Volume Manager** およびファイルシステムを実行している必要があります。これらの各 I/O システムコンポーネントでは、代替クライアントは、ブライマリクライアントで使用されているのと同じレベルか、それ以上である必要があります。

メモ: **NetBackup for Hyper-V** 機能の要件は、パススルーディスクとして構成されるディスクアレイのバックアップには適用されません。**NetBackup for Hyper-V** 機能 (このマニュアルの他の部分で説明されているように **Hyper-V** スナップショット方式を使用) では、パススルーディスクはバックアップされません。

Hyper-V パススルーディスクの制限事項

次の点に注意してください。

- パススルーディスクの場合、インスタントリカバリの指定した時点へのロールバックは、**VSS** ハードウェアプロバイダを使用して作成されたバックアップではサポートされません。
指定した時点へのロールバックは、**VSS** プロバイダ形式の[システム(**System**)]でサポートされることに注意してください。ローカルスナップショットバックアップには、**VSS** プロバイダ形式の[システム(**System**)]を使用できますが、代替クライアントによるバックアップには使用できません。また、インスタントリカバリバックアップからのコピーバックリストアは、[システム(**System**)]および[ハードウェア (**Hardware**)]の両方のプロバイダ形式でサポートされることに注意してください。
- パススルーディスクは、**IDE** コントローラを使用して割り当てないでください。**IDE** コントローラを使用してパススルーディスクを割り当てると、**NetBackup** は[ハードウェア (**Hardware**)]プロバイダ形式を使用してディスクのスナップショットを作成できません。

Hyper-V パススルーディスクのローカルスナップショットバックアップの構成

パススルーディスクのローカルスナップショットバックアップのポリシーを作成する方法

- 1 **NetBackup Web UI** を開きます。
- 2 左側で[保護(**Protection**)]、[ポリシー (**Policies**)]の順に選択します。次に、新しいポリシーを作成します。

- 3 ポリシーの[属性 (Attributes)]タブで、[MS-Windows]ポリシー形式か [FlashBackup-Windows]ポリシー形式を選択します。
- 4 [スナップショットバックアップを実行する (Perform snapshot backups)]をクリックします。
- 5 オプション: [インスタントリカバリ用または SLP 管理用にスナップショットを保持する (Retain snapshot for Instant Recovery or SLP management)]をクリックします。
- 6 [オプション (Options)]をクリックします。
- 7 [VSS]スナップショット方式を選択します。
[Hyper-V]方式は適用されません。

『NetBackup Snapshot Manager for Data Center 管理者ガイド』に記述されているように、アレイには追加の OS と NetBackup の構成が必要なことがあります。

- 8 VSS のスナップショットオプションを指定します。
次を選択します。
 - プロバイダ形式: 1-システムまたは 2-ソフトウェアを選択できます。3-ハードウェアはローカルバックアップではサポートされません。
p.41 の「[\[プロバイダ形式 \(Provider type\)\]構成パラメータ \(VSS\)](#)」を参照してください。
p.147 の「[Hyper-V パススルーディスクの制限事項](#)」を参照してください。
 - [スナップショット属性 (Snapshot Attribute)]: 選択は VSS ハードウェアプロバイダによって異なります。サポート対象のスナップショット方式とハードウェアの種類については、次の場所で利用可能な NetBackup ソフトウェア互換性リストを参照してください。
[NetBackup のすべてのバージョンの互換性リスト](#)
 - [最大スナップショット数 (インスタントリカバリのみ) (Maximum snapshots (Instant Recovery only))]: このオプションは、一度に保持されるインスタントリカバリスナップショットの最大数を設定します。
このオプションについて詳しくは、『NetBackup Snapshot Manager for Data Center 管理者ガイド』を参照してください。
- 9 ポリシーの[クライアント (Clients)]タブで、パススルーディスクが構成されている仮想マシンを選択します。
- 10 ポリシーの[バックアップ対象 (Backup Selections)]タブで、バックアップするパススルーディスクを指定します。または、パススルーディスクに存在するファイルかボリュームを指定します。

パススルーディスクの代替クライアントによるバックアップについて

パススルーディスクの代替クライアントバックアップは、次のもので構成されます。

- ディスクアレイには、バックアップするデータが含まれています。**NetBackup** クライアントソフトウェアおよび **Snapshot Client** ソフトウェアを含む別のホストには、ディスクアレイへのアクセス権がなければなりません。そのホストは代替クライアントです(この構成では、仮想マシンはプライマリクライアントと呼ばれます)。
- データのスナップショットはディスクアレイで作成され、代替クライアントにマウントされます。代替クライアントは、元のパス名を使用してスナップショットからバックアップイメージを作成し、**NetBackup** メディアサーバーにイメージを送信します。
- 代替クライアントはバックアップの I/O 処理を行います。バックアップは仮想マシンにほとんど影響しません。メディアサーバーは代替クライアントからスナップショットのデータを読み込み、ストレージにデータを書き込みます。

Hyper-V パススルーディスクの代替クライアントによるバックアップの構成

パススルーディスクの代替クライアントによるバックアップのポリシーを作成する方法

- 1 **NetBackup Web UI** を開きます。
- 2 左側で[保護 (Protection)]、[ポリシー (Policies)]の順に選択します。次に、新しいポリシーを作成します。
- 3 ポリシーの[属性 (Attributes)]タブで、[MS-Windows]ポリシー形式か [FlashBackup-Windows]ポリシー形式を選択します。
- 4 [スナップショットバックアップを実行する (Perform snapshot backups)]をクリックします。
- 5 オプション: [インスタントリカバリ用または SLP 管理用にスナップショットを保持する (Retain snapshot for Instant Recovery or SLP management)]をクリックします。
- 6 [オフホストバックアップを実行する (Perform off-host backup)]をクリックします。
- 7 [使用 (Use)]リストで、[代替クライアント (Alternate client)]を選択します。
- 8 [マシン (Machine)]には、オフホストバックアップコンピュータ (代替クライアント) として構成されているホストの名前を入力します。
- 9 [Snapshot オプション (Snapshot options)]をクリックします。

10 [VSS]スナップショット方式を選択します。

[Hyper-V]方式は代替クライアントバックアップに適用されず、リストで利用できません。

『NetBackup Snapshot Manager for Data Center 管理者ガイド』に記述されているように、アレイには追加の OS と NetBackup の構成が必要ことがあります。

11 VSS のスナップショットオプションを指定します。

次を選択します。

- [プロバイダ形式 (Provider Type)]: ディスクアレイには、プロバイダ形式として [3-ハードウェア (3-hardware)] を選択します。
アレイと選択したスナップショット属性によっては、そのアレイの特定の事前構成が必要となることがあります。ディスクアレイについて詳しくは、『NetBackup Snapshot Manager for Data Center 管理者ガイド』を参照してください。
パススルーディスクの場合、インスタントリカバリの指定した時点へのロールバックは、ハードウェアプロバイダ (VSS プロバイダ形式の [3-ハードウェア (3-hardware)]) を使用して作成されたバックアップではサポートされません。コピーバックリストはサポートされます。
p.41 の「[プロバイダ形式 (Provider type)]構成パラメータ (VSS)」を参照してください。
p.147 の「Hyper-V パススルーディスクの制限事項」を参照してください。
p.151 の「VSS およびディスクアレイに関する重要な注意事項」を参照してください。
- [スナップショット属性 (Snapshot Attribute)]: [1-差分 (1-differential)](コピーオンライト形式のスナップショットの場合) または [2-プレックス (2-plex)](クローン形式またはミラー形式のスナップショットの場合) を選択します。選択はディスクアレイで使用されるハードウェアプロバイダによって異なります。
- [最大スナップショット数 (インスタントリカバリのみ) (Maximum snapshots (Instant Recovery only))]: このオプションは、一度に保持されるインスタントリカバリスナップショットの最大数を設定します。
このオプションについて詳しくは、『NetBackup Snapshot Manager for Data Center 管理者ガイド』を参照してください。

12 [クライアント (Clients)]タブで、パススルーディスクが構成されている仮想マシンを指定します。

13 [バックアップ対象 (Backup selections)]タブで、バックアップするパススルーディスク、またはパススルーディスクに存在するファイルかボリュームを指定します。

VSS およびディスクアレイに関する重要な注意事項

VSS 方式で Windows クライアントをバックアップする場合、スナップショットパラメータの値について、次の点に注意してください。

- [プロバイダ形式 (Provider Type)]が[3-ハードウェア (3-hardware)]、[スナップショット属性 (Snapshot Attribute)]が[2-プレックス (2-plex)]である場合、適切な数のクローンまたはミラーをディスクアレイで構成する必要があります。
- また、バックアップを開始する前に、クローンまたはミラーをディスクアレイのソースデバイスと同期化させる必要もあります。バックアップの開始前にクローンまたはミラーが同期化されていないと、スナップショットを作成するクローンまたはミラーを VSS が選択できません。その結果、バックアップは失敗します。